

茨城県教育財団文化財調査報告第456集

稲敷郡阿見町

牛頭座南遺跡

阿見吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

令和3年1月

茨城県竜ヶ崎工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

茨城県教育財団文化財調査報告第456集

稲敷郡阿見町

ごとうぎみなみ
牛頭座南遺跡

阿見吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

令和3年1月

茨城県竜ヶ崎工事事務所
公益財団法人茨城県教育財団

序

公益財団法人茨城県教育財団は、国や県などの各事業者から委託を受けて埋蔵文化財の発掘調査と整理業務を実施することを主な目的として、昭和52年に調査課が設置されて以来、数多くの遺跡の発掘調査を実施し、その成果として発掘調査報告書を刊行してきました。

この度、茨城県竜ヶ崎工事事務所による阿見吉原土地区画整理事業に伴って実施した、稲敷郡阿見町牛頭座南遺跡の発掘調査報告書を刊行する運びとなりました。

今回の調査によって、縄文時代の竪穴建物跡や土坑が多数確認でき、縄文時代の集落の一端が明らかになりました。

本書が、歴史研究の学術資料としてはもとより、郷土の歴史に対する理解を深め、教育・文化の向上のための資料として広く活用いただければ幸いです。

最後になりますが、発掘調査から本書の刊行に至るまで、多大な御協力を賜りました委託者であります茨城県竜ヶ崎工事事務所に対して厚く御礼申し上げますとともに、茨城県教育委員会、阿見町教育委員会をはじめ、御指導、御協力をいただきました関係各位に対し、心から感謝申し上げます。

令和3年1月

公益財団法人茨城県教育財団

理事長 柴原 宏一

例 言

- 1 本書は、茨城県竜ヶ崎工事事務所の委託により、公益財団法人茨城県教育財団が平成29・31年度に発掘調査を実施した、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座3535-9番地ほかに所在する牛頭座南遺跡^{ことうざみなみ}の発掘調査報告書である。
- 2 発掘調査期間及び整理期間は以下のとおりである。
調査 平成29年7月1日～平成29年10月31日
平成31年4月1日～令和元年5月31日
整理 令和2年4月1日～令和2年4月30日
令和2年6月1日～令和2年9月30日
- 3 発掘調査は、副参事兼調査課長白田正子のもと、以下の者が担当した。
首席調査員兼班長 奥沢 哲也 平成29年7月1日～平成29年10月31日
首席調査員兼班長 本橋 弘巳 平成31年4月1日～令和元年5月31日
首席調査員 埜 厚宜 平成31年4月1日～令和元年5月31日
次席調査員 作山 智彦 平成29年7月1日～平成29年10月31日
次席調査員 野内智一郎 平成29年7月1日～平成29年10月31日
調査員 近藤 洋 平成31年4月1日～令和元年5月31日
- 4 整理及び本書の執筆・編集は、整理課長小林和彦のもと、以下の者が担当した。
次席調査員 江原美奈子 令和2年4月1日～令和2年4月30日
調査員 倉橋 裕真 令和2年6月1日～令和2年9月30日
- 5 本書の執筆分担は、下記のとおりである。
江原美奈子 第1章～第3章第3節1
倉橋 裕真 第3章第3節2～第4節
- 6 本書の作成にあたり、石器の石材同定について、茨城大学名誉教授田切美智雄氏に御指導いただいた。
- 7 本遺跡の実測図・写真等は、茨城県埋蔵文化財センターにて、出土遺物は阿見町教育委員会にて保管している。

凡 例

1 本遺跡の地区設定は、日本平面直角座標第Ⅸ系座標に準拠し、 $X = -2,200$ m、 $Y = +35,720$ mの交点を基準点（A 1 a1）とした。なお、この原点は、世界測地系による基準点である。

この基準点を基に遺跡範囲内を東西・南北各々40 m四方の大調査区に分割し、さらに、この大調査区を東西・南北に各々10等分し、4 m四方の小調査区を設定した。

大調査区の名称は、アルファベットと算用数字を用い、北から南へA、B、C…、西から東へ1、2、3…とし、「A 1区」のように呼称した。さらに小調査区は、北から南へa、b、c…j、西から東へ1、2、3、…0と小文字を付し、名称は、大調査区の名称を冠して「A 1 a1区」のように呼称した。

2 実測図・一覧表・遺物観察表等で使用した記号は次のとおりである。

遺構 F - 炉跡 P - ピット PG - ピット群 SD - 溝跡 SI - 竪穴建物跡 SK - 土坑
土層 K - 攪乱

3 遺構・遺物実測図の作成方法については、次のとおりである。

(1) 遺構全体図は500分の1、各遺構の実測図は原則として60分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(2) 遺物実測図は、原則として3分の1の縮尺とした。種類や大きさにより異なる場合は、個々に縮尺をスケールで表示した。

(3) 遺構・遺物実測図中の表示は、次のとおりである。

 焼土  炉・火床面 - - - 硬化面
● 土器 ○ 土製品 □ 石器・石製品

4 土層観察と遺物における色調の判定は、『新版標準土色帖』（小山正忠・竹原秀雄編著 日本色研事業株式会社）を使用した。また、土層解説中の含有物については、以下の略称を用いて記述した。

ロームブロック→ローム 粘土ブロック→粘土 微量→D 少量・弱い→C 中量・普通→B
多量・強い→A 粘性→粘 締まり→締

5 遺構一覧表・遺物観察表の表記は、次のとおりである。

(1) 計測値の単位はm、cm、gで示した。なお、計測値の現存値は（ ）を、推定値は[]を付して示した。

(2) 遺物番号は遺構毎の通し番号とし、本文、挿図、観察表、写真図版に記した番号と同一とした。

(3) 遺物観察表の備考の欄は、残存率（5%を超えるもの）、写真図版番号及びその他必要と思われる事項を記した。

6 竪穴建物跡の「主軸」は、炉を通る軸線とし、主軸方向は、土坑の長軸（径）方向と共に、座標北からみて、どの方向にどれだけ振れているかを角度で表示した（例 N - 10° - E）。

7 遺物の取り上げについては、遺構を座標北を基準に、時計回りに1～4区に分割し、任意層位x（= 10 cm）ごとに取り上げた。よって遺物の観察表の出土位置は、これを表記した。

8 破片資料の拓本の掲載については、縄文土器は断面の左側に外面、右側に内面を配置している。

9 今回報告する遺構の調査年次や整理の段階で遺構名を変更したものと及び欠番にしたものは以下のとおりである。

平成29（2017）年度調査 SI 1～5 F 1・2 SK 1～52 SD 1・2 PG 1～12

平成31（2019）年度調査 SI 6～8 F 3 SK54～113 SD 3 PG13～17

変更 SK82→SI 7 P16 SK84→SI 7 P18 SK85→SI 7 P17 SK86→SI 7 P14

SK87→SI 7 P12 SK88→SI 7 P11 SK89→SI 7 P10 SK90→SI 7 P 8

SK91→SI 8 P13 SK92→SI 7 P 9 SK101→SI 7 P15 SK102→SI 7 P13

欠番 SK 5・20・21・23・28・53・83・98 SX 1

目 次

序	
例 言	
凡 例	
目 次	
牛頭座南遺跡の概要	1
第1章 調査経緯	3
第1節 調査に至る経緯	3
第2節 調査経過	3
第2章 位置と環境	4
第1節 位置と地形	4
第2節 歴史的環境	4
第3章 調査の成果	11
第1節 調査の概要	11
第2節 基本層序	11
第3節 遺構と遺物	12
1 縄文時代の遺構と遺物	12
(1) 竪穴建物跡	12
(2) 炉 跡	38
(3) 土 坑	41
(4) 遺構外出土遺物	67
2 時期不明の遺構と遺物	71
(1) 土 坑	71
(2) 溝 跡	75
(3) ピット群	76
第4節 総 括	86
写真図版	PL 1～PL18
抄 録	

挿 図 目 次

第1図 牛頭座南遺跡周辺遺跡分布図（国土地理院25,000分の1「牛久」）	6	第16図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）	26
第2図 牛頭座南遺跡調査区設定図（阿見町都市計画図2,500分の1）	8	第17図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図（3）	27
第3図 牛頭座南遺跡遺構全体図	9	第18図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図（4）	28
第4図 基本土層図	11	第19図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図（5）	29
第5図 第1号竪穴建物跡実測図	13	第20図 第6号竪穴建物跡実測図	32
第6図 第1号竪穴建物跡出土遺物実測図	14	第21図 第6号竪穴建物跡出土遺物実測図	33
第7図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図	16	第22図 第7号竪穴建物跡出土遺物実測図	33
第8図 第3号竪穴建物跡実測図	17	第23図 第7号竪穴建物跡実測図	34
第9図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）	18	第24図 第8号竪穴建物跡実測図	36
第10図 第3号竪穴建物跡出土遺物実測図（2）	19	第25図 第8号竪穴建物跡出土遺物実測図	37
第11図 第4号竪穴建物跡実測図	20	第26図 第2号炉跡出土遺物実測図	39
第12図 第4号竪穴建物跡出土遺物実測図	21	第27図 第1・2号炉跡実測図	39
第13図 第5号竪穴建物跡実測図（1）	23	第28図 第3号炉跡・出土遺物実測図	40
第14図 第5号竪穴建物跡実測図（2）	24	第29図 第4号土坑実測図	41
第15図 第5号竪穴建物跡出土遺物実測図（1）	25	第30図 第4号土坑出土遺物実測図	42
		第31図 第8号土坑実測図	43
		第32図 第8号土坑出土遺物実測図	44

第33図	第14号土坑・出土遺物実測図	45	第53図	縄文時代の土坑実測図(3)	62
第34図	第25・29号土坑、第25号土坑出土遺物 実測図	46	第54図	縄文時代の土坑実測図(4)	63
第35図	第32号土坑・出土遺物実測図	47	第55図	縄文時代の土坑実測図(5)	64
第36図	第33号土坑実測図	47	第56図	縄文時代の土坑出土遺物実測図	65
第37図	第33号土坑出土遺物実測図	48	第57図	遺構外出土遺物実測図(1)	68
第38図	第36号土坑実測図	48	第58図	遺構外出土遺物実測図(2)	69
第39図	第36号土坑出土遺物実測図	49	第59図	遺構外出土遺物実測図(3)	70
第40図	第38号土坑・出土遺物実測図	50	第60図	時期不明の土坑実測図(1)	72
第41図	第39号土坑・出土遺物実測図	51	第61図	時期不明の土坑実測図(2)	73
第42図	第44・49号土坑、第44号土坑出土遺物 実測図	52	第62図	時期不明の土坑実測図(3)	74
第43図	第49号土坑出土遺物実測図	53	第63図	第1号溝跡出土遺物実測図	75
第44図	第45号土坑・出土遺物実測図	54	第64図	時期不明の溝跡実測図	75
第45図	第47号土坑・出土遺物実測図	55	第65図	時期不明の溝跡・ピット群実測図(1)	77
第46図	第51号土坑実測図	56	第66図	時期不明の溝跡・ピット群実測図(2)	78
第47図	第51号土坑出土遺物実測図	57	第67図	時期不明の溝跡・ピット群実測図(3)	79
第48図	第111号土坑実測図	57	第68図	時期不明の溝跡・ピット群実測図(4)	80
第49図	第111号土坑出土遺物実測図(1)	58	第69図	時期不明の溝跡・ピット群実測図(5)	81
第50図	第111号土坑出土遺物実測図(2)	59	第70図	時期不明の溝跡・ピット群実測図(6)	82
第51図	縄文時代の土坑実測図(1)	60	第71図	1期の土器群	87
第52図	縄文時代の土坑実測図(2)	61	第72図	2期の土器群	88
			第73図	3期の土器群	89

挿 表 目 次

第1表	牛頭座南遺跡周辺遺跡一覧	7	第30表	第4号土坑出土遺物一覧(2)	43
第2表	第1号竪穴建物跡 ピット深度	12	第31表	第8号土坑出土遺物一覧(1)	43
第3表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)	12	第32表	第8号土坑出土遺物一覧(2)	44
第4表	第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)	15	第33表	第14号土坑出土遺物一覧	45
第5表	第2号竪穴建物跡 ピット深度	15	第34表	第25号土坑出土遺物一覧	46
第6表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)	15	第35表	第32号土坑出土遺物一覧	47
第7表	第2号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)	17	第36表	第33号土坑出土遺物一覧	47
第8表	第3号竪穴建物跡 ピット深度	17	第37表	第36号土坑出土遺物一覧(1)	49
第9表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)	19	第38表	第36号土坑出土遺物一覧(2)	50
第10表	第3号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)	20	第39表	第38号土坑出土遺物一覧	51
第11表	第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)	21	第40表	第39号土坑出土遺物一覧	52
第12表	第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)	22	第41表	第44号土坑出土遺物一覧	53
第13表	第5号竪穴建物跡 ピット深度	22	第42表	第49号土坑出土遺物一覧	53
第14表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)	22	第43表	第45号土坑出土遺物一覧	54
第15表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)	24	第44表	第47号土坑出土遺物一覧	56
第16表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(3)	30	第45表	第51号土坑出土遺物一覧	56
第17表	第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(4)	31	第46表	第111号土坑出土遺物一覧(1)	59
第18表	第6号竪穴建物跡 ピット深度	32	第47表	第111号土坑出土遺物一覧(2)	60
第19表	第6号竪穴建物跡出土遺物一覧	33	第48表	縄文時代の土坑出土遺物一覧(1)	65
第20表	第7号竪穴建物跡 ピット深度	33	第49表	縄文時代の土坑出土遺物一覧(2)	66
第21表	第7号竪穴建物跡出土遺物一覧	34	第50表	縄文時代の土坑一覧(1)	66
第22表	第8号竪穴建物跡 ピット深度	35	第51表	縄文時代の土坑一覧(2)	67
第23表	第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)	35	第52表	遺構外出土遺物一覧(1)	67
第24表	第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)	38	第53表	遺構外出土遺物一覧(2)	70
第25表	縄文時代の竪穴建物跡一覧	38	第54表	遺構外出土遺物一覧(3)	71
第26表	第2号炉跡出土遺物一覧	39	第55表	時期不明の土坑一覧	74
第27表	第3号炉跡出土遺物一覧	40	第56表	第1号溝跡出土遺物一覧	75
第28表	縄文時代の炉跡一覧	40	第57表	時期不明の溝跡一覧	76
第29表	第4号土坑出土遺物一覧(1)	41	第58表	第1号ピット群ピット一覧	76

第59表	第2号ピット群ピット一覧	76	第67表	第10号ピット群ピット一覧	84
第60表	第3号ピット群ピット一覧	83	第68表	第11号ピット群ピット一覧	84
第61表	第4号ピット群ピット一覧	83	第69表	第12号ピット群ピット一覧	85
第62表	第5号ピット群ピット一覧	83	第70表	第13号ピット群ピット一覧	85
第63表	第6号ピット群ピット一覧	83	第71表	第14号ピット群ピット一覧	85
第64表	第7号ピット群ピット一覧	83	第72表	第15号ピット群ピット一覧	85
第65表	第8号ピット群ピット一覧	84	第73表	第16号ピット群ピット一覧	85
第66表	第9号ピット群ピット一覧	84	第74表	第17号ピット群ピット一覧	85

写真図版目次

PL 1	平成29年度調査区遠景（南方向から） 平成31年度調査区遠景（東方向から）
PL 2	平成29年度調査区全景（鉛直） 平成31年度調査区全景（北方向から）
PL 3	第1号竪穴建物跡，第1号竪穴建物跡炉，第2号竪穴建物跡，第2号竪穴建物跡炉， 第3号竪穴建物跡，第3号竪穴建物跡炉，第4号竪穴建物跡，第4号竪穴建物跡炉
PL 4	第5号竪穴建物跡遺物出土状況，第5号竪穴建物跡，第5号竪穴建物跡炉，第6号竪穴建物跡， 第7号竪穴建物跡，第8号竪穴建物跡炉遺物出土状況，第8号竪穴建物跡，第8号竪穴建物跡炉
PL 5	第1号炉跡，第2号炉跡，第4号土坑遺物出土状況，第4号土坑， 第8号土坑，第14号土坑，第25号土坑，第29号土坑
PL 6	第33号土坑遺物出土状況，第36号土坑，第38号土坑，第39号土坑， 第44号土坑，第45号土坑，第47号土坑，第49号土坑
PL 7	第51号土坑，第111号土坑遺物出土状況，第111号土坑，第1号溝跡， 第3号溝跡，第1号ピット群，第6号ピット群，第8号ピット群
PL 8	第3～5号竪穴建物跡出土土器
PL 9	第5・8号竪穴建物跡，第4・8・33・47・51・111号土坑，遺構外出土土器
PL 10	第1・2・4号竪穴建物跡出土土器
PL 11	第3・5号竪穴建物跡出土土器
PL 12	第5号竪穴建物跡出土土器
PL 13	第5～8号竪穴建物跡出土土器
PL 14	第8号竪穴建物跡，第4・8号土坑出土土器
PL 15	第14・33・36・38・39・45・47号土坑出土土器
PL 16	第3号炉跡，第51・111号土坑，遺構外出土土器
PL 17	第5・8号竪穴建物跡，第3号炉跡，第4・8・36号土坑，第1号溝跡，遺構外出土土製品 第3・5号竪穴建物跡，第36号土坑，遺構外出土土器
PL 18	第5号竪穴建物跡，遺構外出土土器

牛頭座南遺跡の概要

遺跡の位置と調査の目的

牛頭座南遺跡は、阿見町の南東部に位置し、桂川を望む標高 25 m ほどの台地上に位置しています。

阿見吉原土地地区画整理事業に伴い、遺跡の内容を図や写真に記録して保存するため、公益財団法人茨城県教育財団が平成 29 年度及び平成 31 年度・令和元年度に合わせて 6,154m² について発掘調査を行いました。



調査の内容

縄文時代の^{たてあな}竪穴建物跡 8 棟、^ろ炉跡 3 基、^ど土坑 56 基、時期不明の土坑 37 基、^{みぞ}溝跡 3 条、^{ぐん}ピット群 17 か所を確認しました。主な遺物は、縄文土器（^{ふか}深鉢・^{ちゅう}注口土器）、土製品（^ど土器片^{すい}錘・^ど土器片^{えん}円盤）、石器・石製品（^{せき}石^{ぞく}鏃・^ま磨^{せい}製^{せき}石^ふ斧・^だ打^{せい}製^{せき}石^ふ斧・^い石^{ざら}皿・^{すり}磨^{いし}石・^{たた}敲^{いし}石）などです。



出土した縄文時代中期後半の土器群



密集している縄文時代の竪穴建物跡



第8号竪穴建物跡の調査状況



第111号土坑から出土した縄文土器



第1号竪穴建物跡出土の炉体土器

調査の成果

調査の結果、本遺跡は縄文時代中期後半から後期初頭の集落であることが判明しました。竪穴建物跡は円形のものが多く、壁際に屋根を葺くための柱を立てる柱穴が巡っています。また、建物の中央部には炉跡があり、煮炊きや暖をとるために使用されたと考えられます。円形の土坑が掘られており、木の実などの食料を貯蔵したと考えられます。調査区内には、縄文時代中期後半の遺構が多いことから、短期間に営まれた集落であったと考えられます。

注目されるものとしては、土器を地中に埋めて、その内側で火をたいた土器埋設炉です。第1号竪穴建物跡では、大きく3つに分割された深鉢の胴部を埋めていました。

第1章 調査経緯

第1節 調査に至る経緯

平成5年12月17日に茨城県知事、平成11年1月21日に茨城県土木部長は、茨城県教育委員会教育長あてに、阿見吉原土地区画整理事業地内における埋蔵文化財の所在の有無及びその取扱いについて照会した。これを受けて茨城県教育委員会は、平成5年度に現地踏査を、平成28年10月11日、11月1日及び16日に試掘調査を実施し、遺跡の所在を確認した。平成28年12月19日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、事業地内に牛頭座南遺跡が所在すること、及びその取扱いについて別途協議が必要であることを回答した。

平成29年1月17日及び平成31年2月14日、茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、文化財保護法第94条に基づく土木工事の通知を提出した。平成29年2月3日及び平成31年2月19日、茨城県教育委員会教育長は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、現状保存が困難であることから、記録保存のための発掘調査が必要であると決定し、工事着手前に発掘調査を実施するよう通知した。

平成29年2月20日及び平成31年2月20日、茨城県竜ヶ崎工事事務所長は、茨城県教育委員会教育長あてに、阿見吉原土地区画整理事業に係る埋蔵文化財発掘調査の実施について協議書を提出した。平成29年2月24日及び平成31年2月22日、茨城県教育委員会教育長は茨城県竜ヶ崎工事事務所長あてに、牛頭座南遺跡について発掘調査の範囲及び面積等について回答し、併せて調査機関として公益財団法人茨城県教育財団を紹介した。

公益財団法人茨城県教育財団は、茨城県竜ヶ崎工事事務所長から埋蔵文化財発掘調査事業について委託を受け、平成29年7月1日から10月31日、及び平成31年4月1日から令和元年5月31日まで発掘調査を実施した。

第2節 調査経過

牛頭座南遺跡の調査は、平成29年7月1日から10月31日までの4か月間と、平成31年4月1日から令和元年5月31日の2か月間にわたって実施した。以下、その概要を表で記載する。

工程 \ 期間	平成29年 7月	8月	9月	10月	平成31年 4月	令和元年 5月
調査準備 表土除去 遺構確認	■				■	
遺構調査		■	■	■		■
遺物洗浄 写真整理	■	■	■	■	■	■
撤収					■	■

第2章 位置と環境

第1節 位置と地形

牛頭座南遺跡は、茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座 3535-9 番地ほかに所在している。

阿見町は茨城県の南部に位置している。関東平野の北東部、利根川沿岸から霞ヶ浦沿岸にかけて広がる常総台地の一部である筑波・稲敷台地の北東部にあたり、町の北東部は霞ヶ浦に面している。町域の地形は、筑波・稲敷台地の北東部を占める洪積台地と、清明川・桂川・乙戸川及び霞ヶ浦沿岸の沖積低地に大別される。洪積台地の標高は 24～30 m であり、東部から西部にかけて緩やかに低くなる傾向が見られる。また、この台地は各河川やその支流によって開析され、樹枝状の谷津が入り込む複雑な地形となっている。

地質は、洪積世の古東京湾期に堆積した成田層を基盤とし、その上に細粒砂層からなる竜ヶ崎砂礫層、さらに泥質粘土層である常総粘土層、褐色の関東ローム層が順に堆積し、最上部の表土に至る。

本遺跡は、桂川右岸の標高 25 m の台地上に立地し、西側には幅の狭い谷が北から入り込んでいる。遺跡の現況は山林である。

第2節 歴史的環境

霞ヶ浦沿岸に位置する牛頭座南遺跡周辺の台地上には、旧石器時代から近世に至るまで、各時代の遺跡が多数分布している。近年、土地区画整理事業や道路建設事業などの開発に伴う発掘調査が増加したことで、周辺地域の遺跡の様相が徐々に明らかになってきている。こうした調査成果を踏まえ、周辺の遺跡について、特に本遺跡の主體的な時期である縄文時代を中心に記述する¹⁾。

阿見町における旧石器時代の遺跡は、桂川、乙戸川、清明川などの河川の流域に点在している。桂川左岸では石器集中地点が確認された篠崎遺跡²⁾〈5〉や薬師入遺跡³⁾〈7〉、乙戸川流域においては石器集中地点からナイフ形石器などが出土した実穀寺子遺跡⁴⁾、清明川右岸では3か所の石器集中地点が確認された星合遺跡⁵⁾〈35〉などがある。古墳時代の拠点集落である薬師入遺跡では2か所の石器集中地点が確認され、茨城県後期旧石器時代編年のⅡC期に位置づけられている。星合遺跡は平成8・9年度に発掘調査が行われ、3か所の石器集中地点から、頁岩製のナイフ形石器や剥片を中心とした石器群が出土しており、ナイフ形石器は下総編年のⅡC期に比定されている。また吉原向遺跡⁶⁾〈2〉に隣接する造成地からも、下総編年ⅡC期或いはⅡB期に位置づけられる頁岩製のナイフ形石器が採集されている⁷⁾。

縄文時代に入ると、気候変動による海進の結果、現在残されている各河川の奥深くまで海水が流入し、縄文時代の遺跡は、清明川に開口する沖積低地や霞ヶ浦を臨んだ廻戸から島津にわたる旧海岸地域と、清明川流域、乙戸川およびその支流にあたる桂川流域、及び牛久沼沿岸地域に主に分布している。小規模な遺跡が多いが、旧海岸地域では島津遺跡、竹来遺跡や、桂川流域では牛久市赤塚遺跡〈49〉、出戸遺跡など、中期中葉から後半を主体とした拠点的な集落跡が点在している。後・晩期の遺跡はごくわずかで、旧海岸地域の廻戸貝塚、小野川流域の牛久市ヤツノ上遺跡、柏峯B遺跡など数遺跡を数えるだけである。

旧海岸地域では、戦前に大山史前学研究所によって発掘調査がなされた宮平貝塚群⁸⁾、大正時代に東京大学が発掘調査し、山内清男氏の『先史土器図譜』に遺物が掲載されている廻戸貝塚など、学史に名高い遺跡が位

置する。宮平貝塚群は前期中葉黒浜式から中期後半加曾利 E 式期の、6か所の地点貝塚からなる。宮平貝塚群の西側に位置する島津遺跡は、阿玉台Ⅲ式から加曾利 E Ⅲ式期を主体とする大規模な環状集落で、竪穴建物跡や袋状土坑が多数確認されている。また別地点では、堀之内 1・2 式の竪穴建物跡と土坑も調査されている⁹⁾。清明川の支流の谷津に面する小作遺跡では 2 次の調査で、陥し穴 6 基と中期前半阿玉台 I b～Ⅱ式の竪穴建物跡 5 棟、掘立柱建物跡 3 棟、土坑 19 基などが確認されている¹⁰⁾。根方遺跡では、加曾利 E V 式期の竪穴遺構 1 棟が調査されている¹¹⁾。そのほか清明川流域では、昭和 12 年に大山史前学研究所が発掘調査したことで著名である根田貝塚、及びそれと同遺跡と考えられる竹来貝塚があり、近年の調査で阿玉台Ⅳ式から称名寺 1 式期の竪穴建物跡や土坑が確認されている¹²⁾。米根井向遺跡〈34〉でも陥し穴 1 基と竪穴建物跡 1 棟が調査されているが、詳細な時期は遺物がないため不明である¹³⁾。清明川から延びる谷津に面する星合遺跡では、中期末葉の竪穴建物跡 1 棟が、中ノ台遺跡〈41〉では、遺物の出土がないため詳細な時期は不明であるが、形状から中期後半から後期前半の竪穴建物跡が 5 棟調査されている。乙戸川流域では早期を中心に小規模な遺跡が点在する。最奥部の於山遺跡では、早期鷓ガ島台式から後期後半安行 1 式の遺物が出土しているが、特に前期後半の諸磯式期のものが多い¹⁴⁾。下小池遺跡は陥し穴 2 基のほか、頁岩製のナイフ形石器や頁岩製の尖頭器、チャート製の有舌尖頭器が出土している¹⁵⁾。谷ノ沢遺跡〈84〉では、尖頭器や石鏃を含む石器集中地点と、陥し穴 9 基が確認されている。陥し穴は傾斜に沿って列状に並んでいるが、主軸方向の配置は不規則である¹⁶⁾。桂川との合流地点付近には牛久市オッポレ貝塚、出戸遺跡が位置している。オッポレ貝塚は前期関山式期を中心とする斜面貝塚であるが、現況では貝の散布は疎らである。出戸遺跡は本遺跡とほぼ同時期の中期末葉の集落で、加曾利 E Ⅲ～Ⅳ式の竪穴建物跡 18 棟、土坑 42 基が確認されている¹⁷⁾。

本遺跡が位置する桂川流域も早期を中心に小規模な遺跡が点在する。最奥部の下原遺跡〈27〉は陥し穴 1 基が確認されている¹⁸⁾。本遺跡の周辺は、近年大規模な造成がなされ、多くの発掘調査が行われているが、古墳時代前期から中期を主体とする遺跡が多く、縄文時代の遺構や遺物の確認は少ない。桂川左岸で本遺跡から北へ 1.5km の赤太郎遺跡〈4〉は 5 世紀中葉を主体とする集落で、縄文時代の遺構は陥し穴が 3 基確認されているのみである¹⁹⁾。北へ約 1 km の篠崎遺跡は 3 世紀後半が 14 棟、5 世紀前半が 4 棟、6 世紀後半が 2 棟の古墳時代の集落跡及び地下式坑や井戸跡、溝跡など中近世が中心の遺跡であり、縄文時代では陥し穴が 1 基確認されている。本遺跡に隣接する吉原向遺跡は、5 世紀前半～中葉の竪穴建物跡が 16 棟、9 世紀中葉～後半の竪穴建物跡が 3 棟、18 世紀後半の墓坑等が確認されている。縄文時代の遺構は、前期の竪穴建物跡 1 棟と、前期黒浜式期を中心とした遺物包含層が確認されている。すぐ北側の牛頭座遺跡〈3〉は近世の塚が調査されているが、本遺跡と同時期の中期加曾利 E Ⅲ～Ⅳ式の土器片が少量出土している。対岸約 1.5km 南東の牛久市赤塚遺跡は、中期阿玉台Ⅱ式から加曾利 E I 式を中心とした竪穴建物跡や土坑が多数調査されている²⁰⁾。後晩期の遺跡では、小野川支流の谷津に面する牛久市柏峯 B 遺跡で後期中葉加曾利 B 式期を中心とした遺物包含層が²¹⁾、小野川上流の牛久市ヤツノ上遺跡で晩期後半大洞 A 式期の竪穴建物跡と早期条痕文系から前期後半浮島式期、及び晩期後半大洞 A 式期を主体とした遺物包含層が確認されている²²⁾。

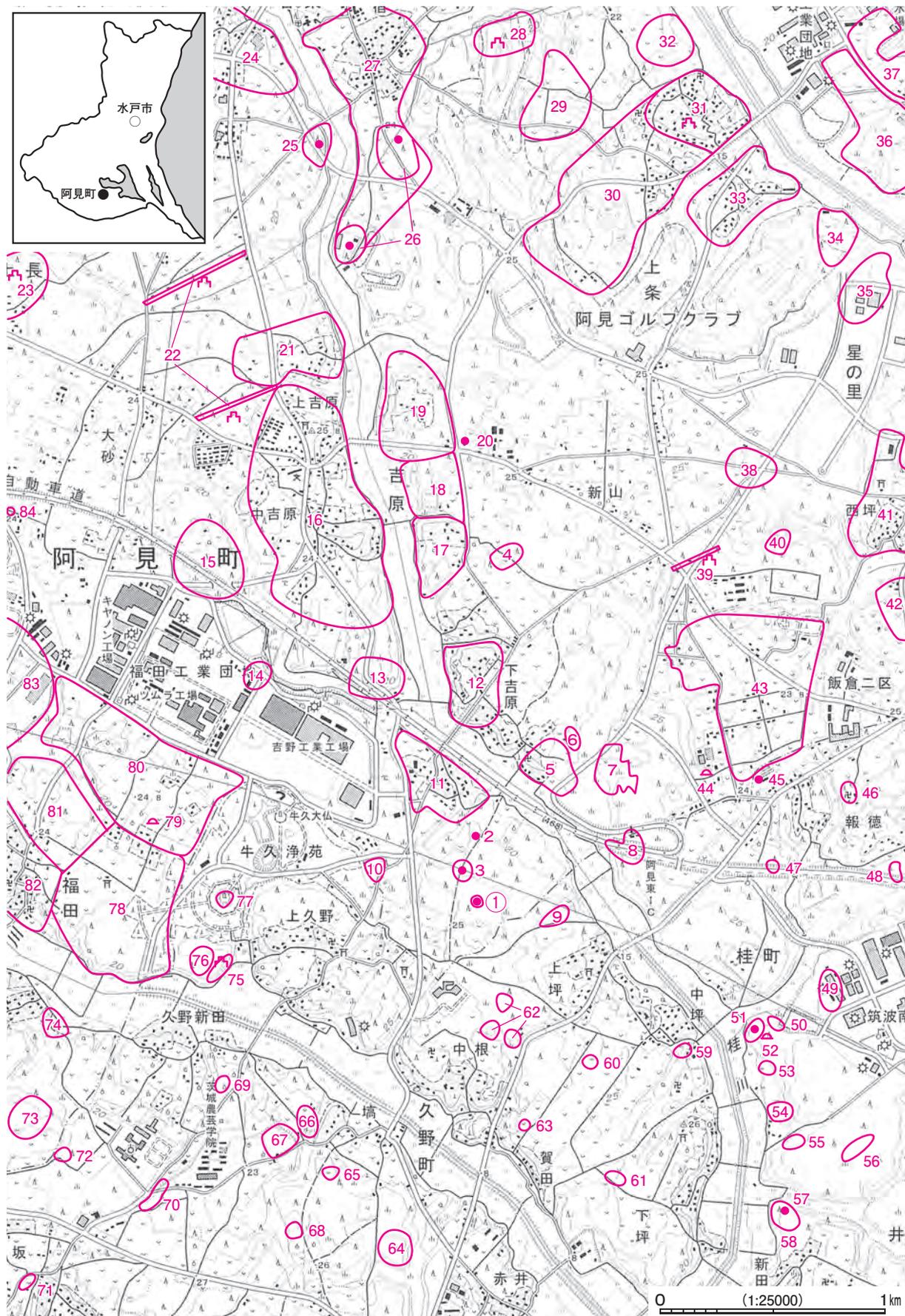
※本章第 1・2 節については、既刊の『吉原向遺跡 牛頭座遺跡 赤太郎遺跡 2』（茨城県教育財団文化財調査報告第 433 集）を参考とし、周辺遺跡分布図や周辺遺跡一覧表は既刊のものに一部加筆した。文中の〈 〉内の番号は、第 1 図及び表 1 の番号と同じである。

註

1) 阿見町史編纂委員会編『阿見町史』1983年3月

牛久市史編さん委員会編『牛久市史料 原始・古代－考古資料編－』1999年8月

2) 寺内久永 関絵美『篠崎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第 347 集 2011年3月



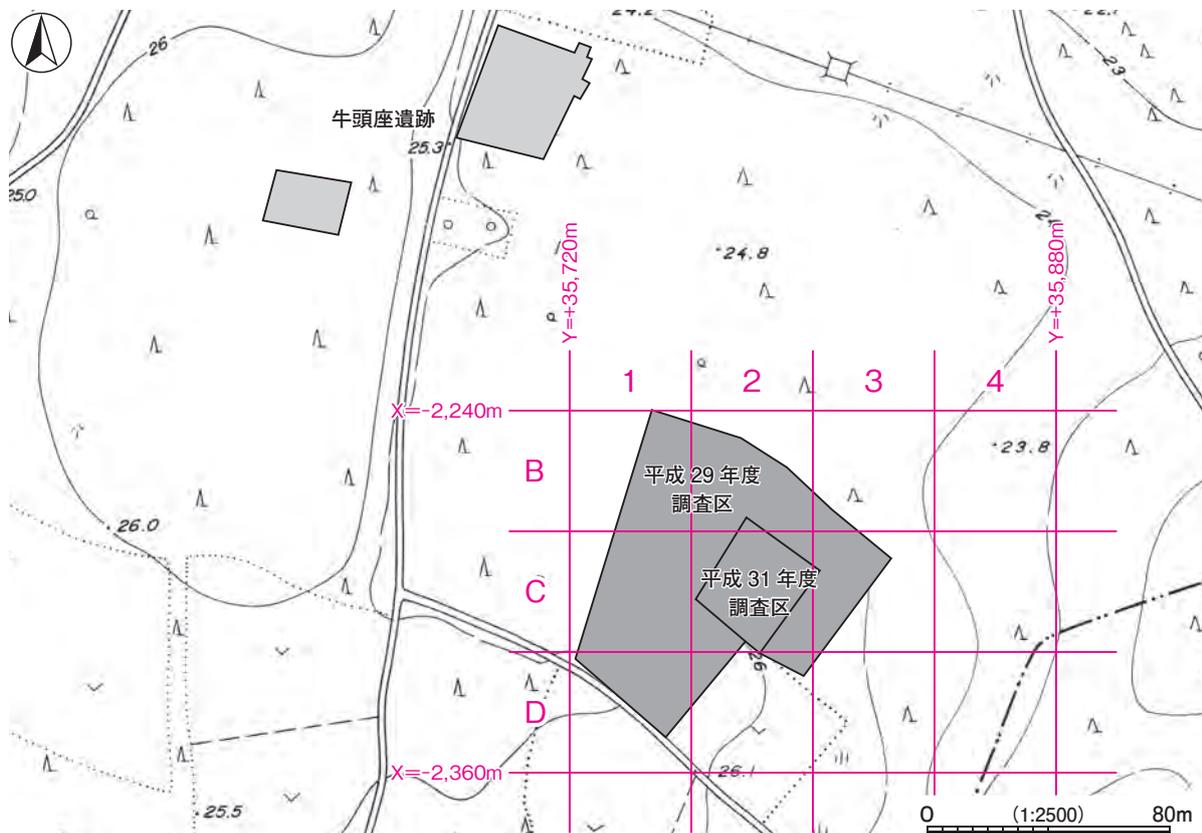
第1図 牛頭座南遺跡周辺遺跡分布図 (国土地理院 25,000分の1「牛久」)

第1表 牛頭座南遺跡周辺遺跡一覧

番号	遺跡名	時代							番号	遺跡名	時代						
		旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸			旧石器	縄文	弥生	古墳	奈良・平安	鎌倉・室町	江戸
①	牛頭座南遺跡		○						43	桜立遺跡			○	○			
2	吉原向遺跡	○	○		○	○	○	○	44	中山台塚							○
3	牛頭座遺跡				○				45	びつたら塚古墳				○			
4	赤太郎遺跡		○		○				46	山ノ神遺跡		○					
5	篠崎遺跡	○	○		○		○		47	原山遺跡		○					
6	篠崎A遺跡				○	○	○		48	米ノ内遺跡		○					
7	薬師入遺跡	○	○	○	○	○	○	○	49	赤塚遺跡		○					
8	ナギ山遺跡		○		○		○	○	50	御山台遺跡				○			
9	長久保道添遺跡		○						51	御山台古墳群				○			
10	水堀遺跡				○				52	大日塚及び大日如来石仏							
11	前原遺跡				○				53	聖天久保遺跡				○		○	
12	高根遺跡		○		○	○			54	二本松遺跡		○		○			
13	大日遺跡		○		○	○			55	中道通り遺跡				○			
14	吉原遺跡		○		○	○			56	藤ヶ谷道添遺跡		○					
15	手接遺跡			○	○	○			57	鍬金古墳				○			
16	花房遺跡			○		○			58	鍬金遺跡		○					
17	山中遺跡				○				59	屋敷前遺跡				○	○		
18	神田遺跡					○			60	台畑遺跡		○		○			
19	堂山遺跡					○			61	前野遺跡		○		○			
20	北原古墳群				○				62	中根後遺跡		○		○			
21	根崎遺跡				○				63	台遺跡		○		○	○		
22	新堀遺跡							○	64	まぐろ山遺跡							
23	上長館跡							○	65	小申台遺跡		○		○			
24	南根遺跡				○				66	大塚山遺跡		○		○			
25	橋向古墳群				○				67	大塚山古墳群		○		○			
26	若栗古墳群				○				68	小申台遺跡		○		○			
27	下原遺跡		○	○	○				69	黒引遺跡		○		○			
28	若栗寄井館跡							○	70	向原A遺跡				○			
29	畦市遺跡					○			71	涌井台遺跡		○		○	○		
30	上条南遺跡				○				72	向原B遺跡		○					
31	上条城跡							○	73	下山遺跡					○		
32	内ノ山遺跡					○			74	弥次郎次遺跡				○			
33	新荒地遺跡				○				75	久野城跡							○
34	米根井向遺跡		○	○	○	○			76	延命寺山遺跡		○		○			
35	星合遺跡	○	○		○	○			77	源臺遺跡	○	○	○	○	○		
36	追原西遺跡		○		○				78	宮台遺跡					○		
37	西ノ入遺跡				○				79	石塚庚申塚							○
38	後原遺跡					○			80	石塚遺跡				○			
39	二重堀遺跡		○					○	81	吉子遺跡					○		
40	茅場遺跡		○						82	十郎山遺跡					○		
41	中ノ台遺跡	○	○		○	○			83	福田遺跡		○		○	○		
42	天神遺跡				○				84	谷ノ沢遺跡	○	○					

- 3) 駒澤悦郎『薬師入遺跡 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』茨城県教育財団文化財調査報告第239集 2005年3月
綿引英樹 小林悟『薬師入遺跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内文化財調査報告書Ⅲ』茨城県教育財団文化財調査報告第296集 2008年3月
- 4) 浅野和久『荒川本郷地区特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅰ 実穀古墳群 実穀寺子遺跡1』茨城県教育財団文化財調査報告第144集 1999年3月
- 5) 矢ノ倉正男 寺門千勝『阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 星合遺跡 中ノ台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第137集 1997年9月
- 6) 皆川貴之 盛野浩一『吉原向遺跡 牛頭座遺跡 赤太郎遺跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』茨城県教育財団文化財調査報告第433集 2018年3月

- 7) 駒澤悦郎 小松崎百恵「ナイフと剣－茨城県稲敷郡阿見町吉原地区最終の考古資料の紹介－」『研究ノート』第13号 茨城県教育財団 2016年6月
- 8) 大山柏 大給尹「茨城県舟嶋村嶋津宮平貝塚群調査報告」『史前学雑誌』12-4, 5, 6 史前学会 1940年12月
- 9) 島津遺跡調査会『島津遺跡』阿見町教育委員会 1997年3月
島津遺跡調査会『島津遺跡（島津1・2・3・4区）』『島津遺跡（貝塚1・2区）』阿見町教育委員会 1998年9月
- 10) 清水哲 舟橋理『小作遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』茨城県教育財団文化財調査報告第346集 2011年3月
小川将之ほか『小作遺跡第2次－道の駅建設に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書－』阿見町教育委員会 2018年5月
- 11) 寺内久永 関絵美『根方遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』茨城県教育財団文化財調査報告第345集 2011年3月
- 12) 小川和博ほか『竹来貝塚－茨城県稲敷郡阿見町所在の埋蔵文化財第二次調査－』阿見町教育委員会 1999年3月
- 13) 鹿島直樹『米根井向遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス整備事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅱ』茨城県教育財団文化財調査報告第333集 2010年3月
- 14) 矢ノ倉正男『主要地方道土浦江戸崎線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 於山遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第96集 1995年3月
- 15) 小竹茂美 嶋志田祐一 浦和敏郎『下小池遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』茨城県教育財団文化財調査報告第210集 2004年3月
- 16) 綿引英樹 後藤孝行『谷ノ沢遺跡 手接遺跡 花房遺跡 大日遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅵ』茨城県教育財団文化財調査報告第212集 2004年3月
- 17) 河野辰男ほか『奥原遺跡』茨城県牛久市 奥原遺跡調査会 1989年12月
- 18) 小川和博 大淵淳志『下原遺跡－茨城県稲敷郡阿見町所在の古代集落址の調査－』阿見町教育委員会 1998年3月
- 19) 櫻井完介『赤太郎遺跡 阿見吉原東土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書』茨城県教育財団文化財調査報告第377集 2013年3月
- 20) 河野辰男ほか『赤塚遺跡』牛久町教育委員会 赤塚遺跡発掘調査会 1984年9月
- 21) 石川義信 後藤孝行『ナギ山遺跡Ⅰ 柏峯B遺跡 一般国道468号首都圏中央連絡自動車道新設工事地内埋蔵文化財調査報告書Ⅶ』茨城県教育財団文化財調査報告第233集 2005年3月
- 22) 小高五十二『牛久北部特定土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書（Ⅰ） ヤツノ上遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第81集 1993年3月



第2図 牛頭座南遺跡調査区設定図（阿見町都市計画図2,500分の1）



第3図 牛頭座南遺跡遺構全体図 (S=1/500)

第3章 調査の成果

第1節 調査の概要

牛頭座南遺跡は、阿見町の南東部に位置し、乙戸川とその支流である桂川に挟まれた、標高 25 m ほどの舌状台地上に立地している。遺跡の位置する台地は、南部と北部に桂川から延びる谷津が入り込み、調査区は谷津に向かって緩やかに北東に傾斜する緩斜面部に位置している。調査面積は 6,154m²で、調査前の現況は山林である。

調査の結果、竪穴建物跡 8 棟（縄文時代）、炉跡 3 基（縄文時代）、土坑 93 基（縄文時代 56、時期不明 37）、溝跡 3 条（時期不明）、ピット群 17 か所（時期不明）を確認した。

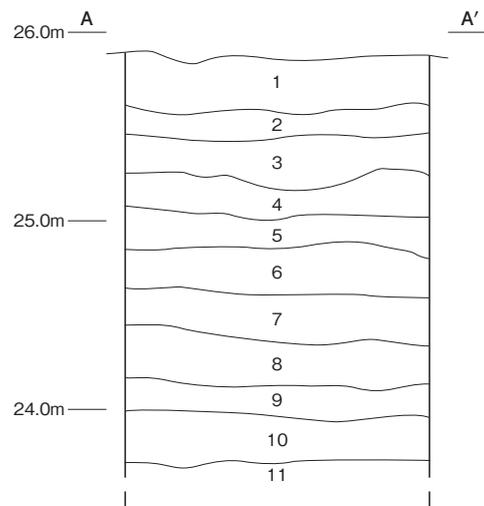
遺物は、遺物収納コンテナ（60 × 40 × 20cm）に 33 箱出土している。主な遺物は、縄文土器（深鉢・注口土器）、土製品（土器片錘・土器片円盤）、石器・石製品（石鏃・磨製石斧・打製石斧・石皿・磨石・敲石）などである。

第2節 基本層序

調査区東部の台地上の平坦面（C 2h9 区）にテストピットを設定し、基本土層（第4図）の観察を行った。

第1層は、黒褐色を呈する表土層である。ローム粒子を少量含み、粘性・締まりとも弱く、層厚は 30cm である。第2層は、褐色を呈するハードローム層で、5 mm 程度のブロックがやや多く含まれている。粘性・締まりとも強く、層厚は 10～15cm である。第3層は、黄褐色を呈するハードローム層で、10mm 程度のブロックが多量に含まれている。粘性・締まりとも強く、層厚は 20～30cm である。第4層は、黄褐色を呈するハードローム層である。粘性・締まりとも強く、層厚は 12～25cm である。第5層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層である。粘性は強く、締まりは極めて強い。層厚は 12～22cm である。第6層は、オリーブ褐色を呈するシルト層で、ローム粒子が多量に含まれている。粘性・締まりとも極めて強く、層厚は 20～30cm である。第7層は、黄褐色を呈するハードローム層で、5 mm 程度のブロックがやや多く含まれている。粘性は強く、締まりは極めて強い。層厚は 18～26cm である。第8層は、褐色を呈するハードローム層で、5 mm 程度のブロックが多量に含まれている。粘性・締まりとも極めて強く、層厚は 20～30cm である。第9層は、褐色を呈するハードローム層で、5 mm 程度のブロックが多量に含まれている。粘性・締まりとも極めて強く、層厚は 15～20cm である。第10層は、にぶい黄褐色を呈するハードローム層で、5 mm 程度のブロックが多量に含まれている。粘性・締まりとも非常に強く、層厚は 20～30cm である。第11層は、褐色を呈するシルト層で、粘性・締まりとも極めて強い。下層まで掘り下げていないため、層厚は不明である。

遺構は、第2層の上面で確認した。



第4図 基本土層図

第3節 遺構と遺物

1 縄文時代の遺構と遺物

当時代の遺構は、竪穴建物跡8棟、炉跡3基、土坑56基を確認した。以下、遺構及び遺物について記述する。

(1) 竪穴建物跡

第1号竪穴建物跡（第5・6図 PL3）

位置 調査区南部のC2il区、標高25.5mの台地上に位置している。

重複関係 第16・17・24・113号土坑を掘り込み、第10・11・15・18号土坑、第7号ピット群のP9に掘り込まれている。

規模と形状 北西部で壁が確認できなかったが、確認できたピット配列から、長軸7.07mと推定され、短軸6.25mの不整楕円形で、主軸方向はN-43°-Wと推定できる。壁高は10cmほどで、外傾している。

床 平坦で、中央部が踏み固められている。

炉 中央部のやや北寄りに付設されている。第113号土坑と重複しているため平面で掘方を捉えることができなかったが、堆積状況から径70cmほどの円形の土器埋設炉で、深さ32cm、土器が埋設されている部分はさらに38cmほど下がっている。第1・2層は炉内の堆積土で、第3層上面が炉床面である。第3・4層は火熱を受けて赤変硬化しており、第5～8層が掘方の埋土である。炉体は大きく3つに分割された加曽利EIV式の深鉢胴部上半片を正位に埋設することで、土器埋設部を形成している。

ピット 18か所。径14～30cmほどの小ピットが壁際に巡る壁柱穴構造で、出入口ピットは確認できなかった。

第2表 第1号竪穴建物跡 ピット深度

番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16	P17	P18
深さ cm	10	24	14	28	33	29	28	14	11	20	14	15	31	11	18	22	12	16

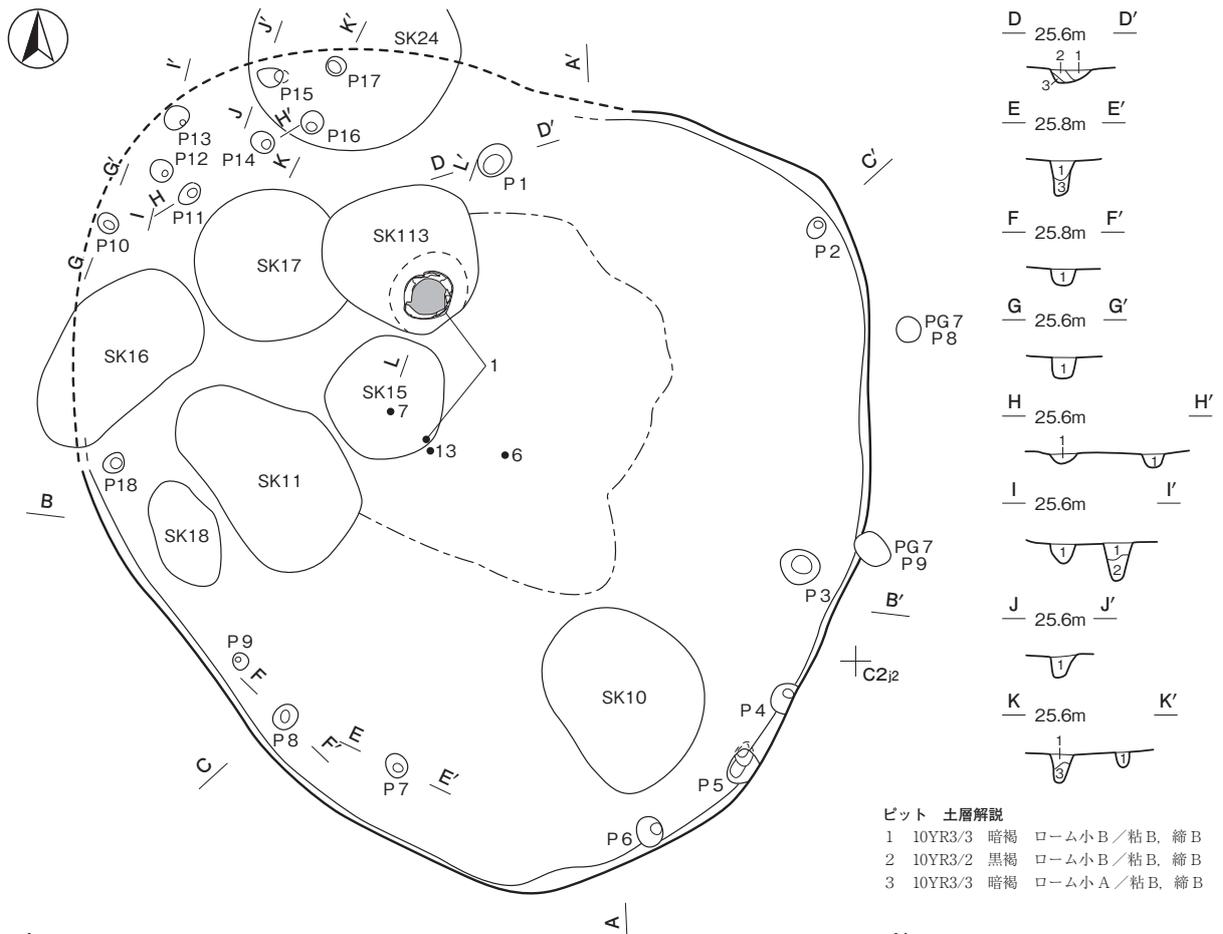
覆土 6層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器331点（深鉢口縁部30、胴部293、底部8）、石器4点（剥片3、砥石1）、焼成粘土塊1点（17.3g）が出土している。遺物は4区からの出土が多い。1は炉体土器である。6・7・13は4区中央付近の床面からそれぞれ出土している。

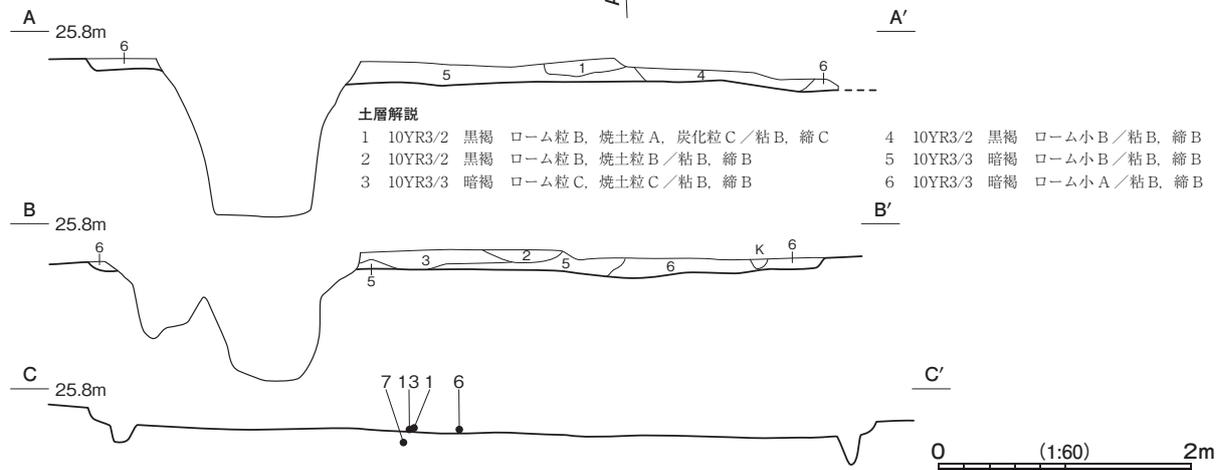
所見 時期は、出土土器から中期後半加曽利EⅢ式新段階～EⅣ式期に比定できる。

第3表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧（1）

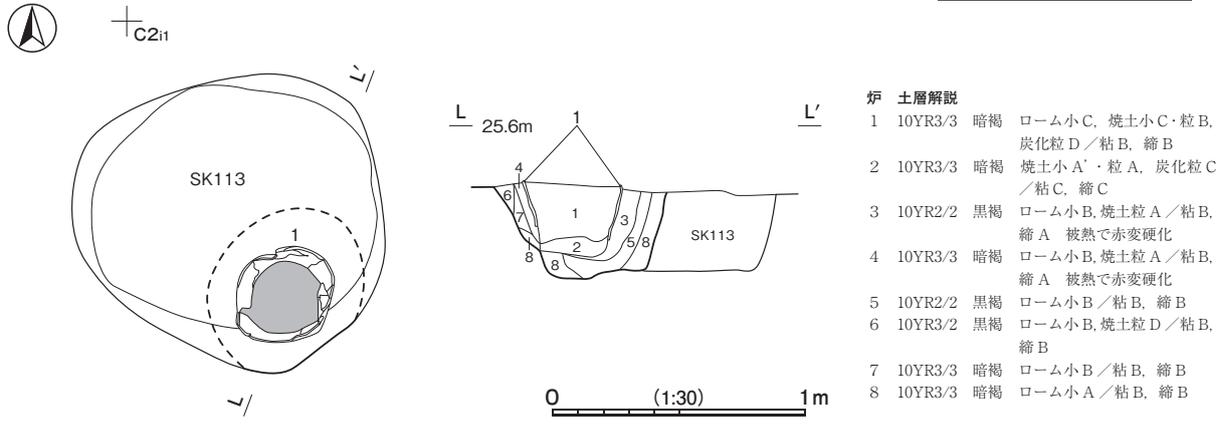
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(24.4)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	微隆起線による対向する対向U字文で上部が玉抱文	炉	40%
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/6 明黄褐	0段多条のLR縄文施文後微隆起線脇なぞり 表面あばた状に剥離 微隆起線による渦巻文施文、 緩い波状 口縁部下に微隆起線による無文帯 LR 縄文施文	覆土中	PL10
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	2.5YR6/8 橙	波状口縁の突起部	覆土中	PL10
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	5YR5/8 明赤褐	波状口縁の突起部	覆土中	PL10
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	5YR7/8 橙	LR縄文施文後微隆起線脇に沈線文施文 微隆起線 による渦巻文施文 7と同一個体	覆土中	PL10
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	7.5YR3/2 黒褐	頸部LRL縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 体部 RL縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線に による渦巻文。	4区床面	PL10
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	5YR7/8 橙	LR縄文施文後微隆起線脇に沈線文施文 微隆起線 による渦巻文施文 5と同一個体	4区床面	PL10



- ピット 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
 - 2 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
 - 3 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B

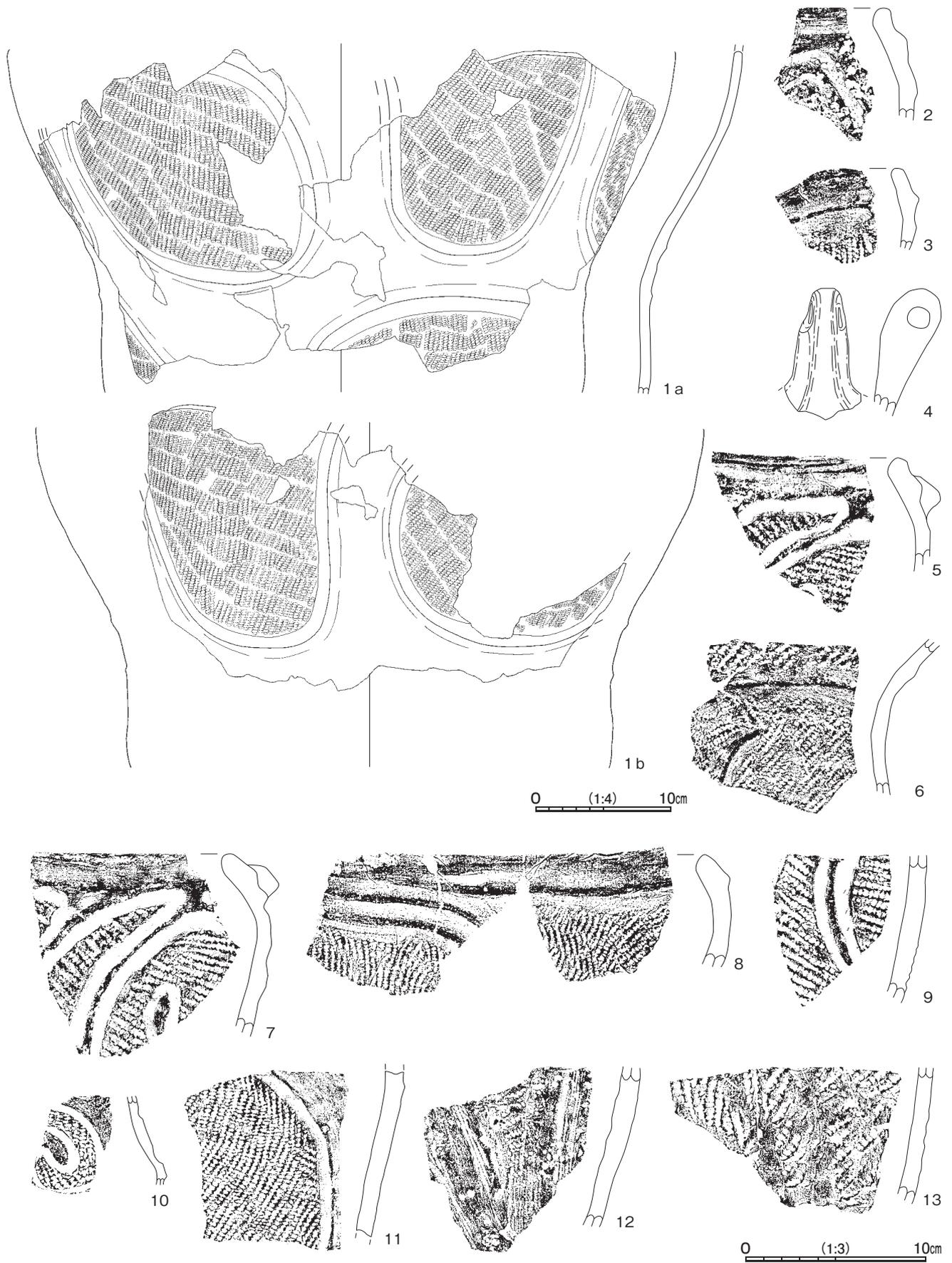


- 土層解説**
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B, 焼土粒A, 炭化粒C/粘B, 締C
 - 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒B, 焼土粒B/粘B, 締B
 - 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒C, 焼土粒C/粘B, 締B
 - 4 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
 - 5 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
 - 6 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B



- 炉 土層解説**
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C, 焼土小C・粒B, 炭化粒D/粘B, 締B
 - 2 10YR3/3 暗褐 焼土小A'・粒A, 炭化粒C/粘C, 締C
 - 3 10YR2/2 黒褐 ローム小B, 焼土粒A/粘B, 締A 被熱で赤変硬化
 - 4 10YR3/3 暗褐 ローム小B, 焼土粒A/粘B, 締A 被熱で赤変硬化
 - 5 10YR2/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
 - 6 10YR3/2 黒褐 ローム小B, 焼土粒D/粘B, 締B
 - 7 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
 - 8 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B

第5図 第1号竖穴建物跡実測図



第6图 第1号竖穴建物跡出土遺物実測図

第4表 第1号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文 2条の微隆起線による施文	覆土中	PL10
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR6/6 橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇沈線施文 微隆起線による渦巻文。	覆土中	PL10
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	10YR3/1 黒褐	RL 縄文充填 磨消縄文によるC字状文。	覆土中	PL10
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字状懸垂文	覆土中	PL10
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	10YR7/6 明黄褐	隆帯貼付後 RL 縄文縦位施文	覆土中	PL10
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	2.5YR5/6 明赤褐	RL 縄文縦位施文	4区床面	PL10

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
14	砥石 _ヲ	(4.0)	(4.8)	(1.8)	26.6	砂岩	研磨された面が一面のみ 磨石・石皿の可能性もあり	覆土中	観察表のみ

第2号竪穴建物跡(第7図 PL3)

位置 調査区北部のB2h6区, 標高25.5mの台地上に位置している。

重複関係 第32号土坑, 第11号ピット群のP10・P11に掘り込まれている。

規模と形状 攪乱を受けているが, 長軸4.65m, 短軸3.65mの不整楕円形で, 主軸方向はN-50°-Eである。壁高は5~25cmほどで, 外傾している。

床 平坦で, 硬化面は確認できなかった。

炉 中央部やや北東寄りに付設されている。径70cmほどの円形で, 深さ25cmの地床炉である。第1・2層は炉内の堆積土で, 第2層下が炉床面であり, 火熱を受けて赤変している。第3・4層は掘方の埋土である。

ピット 7か所。径26~40cmほどの小ピットが壁際に巡る壁柱穴構造で, 出入口ピットは確認できなかった。

第5表 第2号竪穴建物跡 ピット深度

番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7
深さcm	10	14	12	8	13	20	19

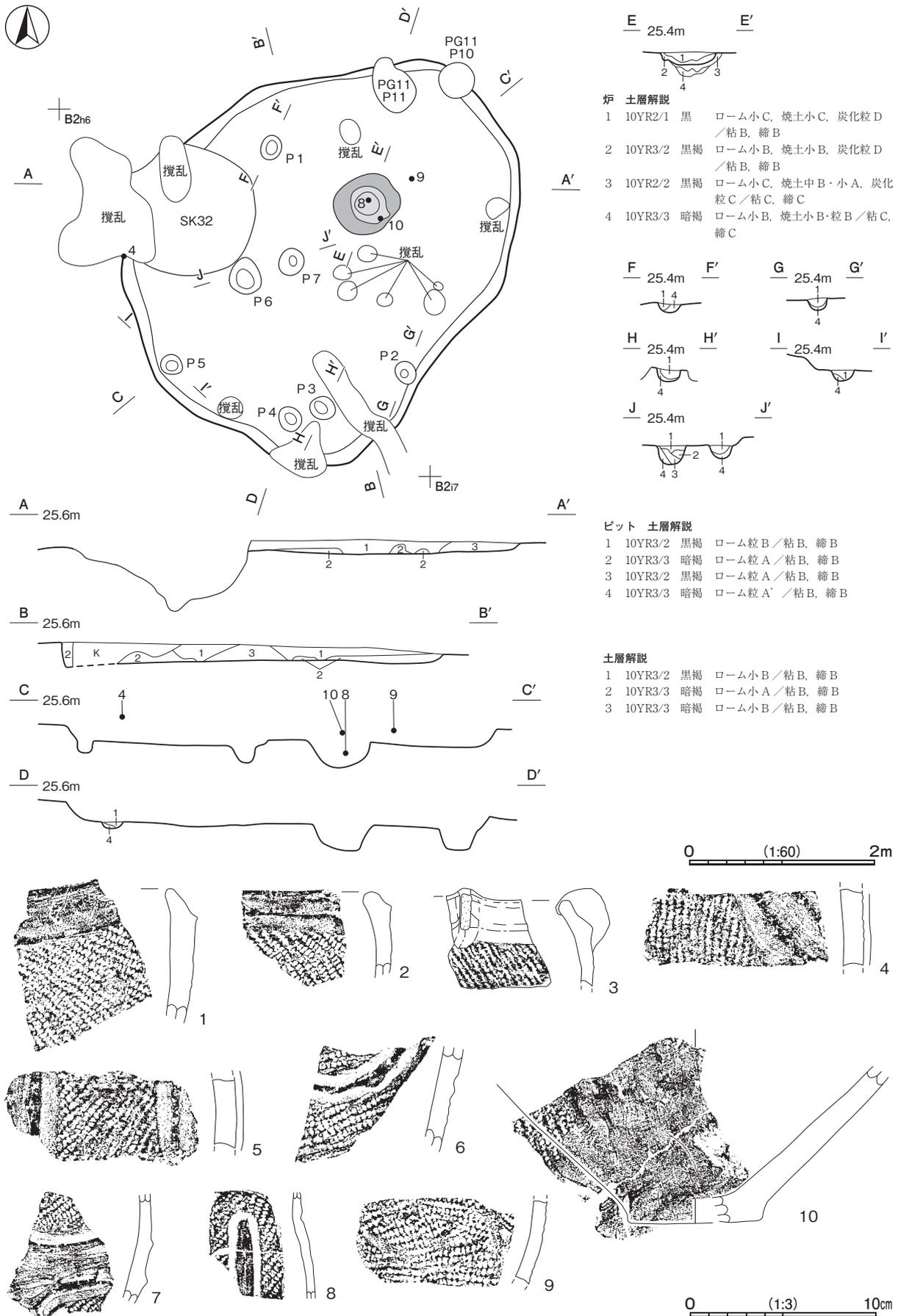
覆土 3層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器89点(深鉢口縁部5, 胴部81, 底部1, 注口2), 石器1点(剥片)が出土している。遺物は2区からの出土が多い。8は炉内の覆土下層, 4は3区覆土上層, 9・10は1区の覆土上層, 1~3, 5~7は覆土中から出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利EIV式期に比定できる。

第6表 第2号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/4 にぶい黄褐	緩い波状口縁 口縁部下に無文帯 LR 縄文縦位施文	3区 覆土中	PL10
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR3/3 暗赤褐	口縁部下に無文帯 RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり	3区 覆土中	PL10
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR6/8 橙	口縁部下の無文帯に突起 RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり	2区 覆土中	PL10
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR4/4 褐	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 2条の微隆起線による弧線文。	3区上層	PL10
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英	10YR6/6 明黄褐	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文。	3区 覆土中	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	5YR7/8 橙	微隆起線脇沈線施文後 LR 縄文施文 1条の微隆起線による渦巻文。	3区 覆土中	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	7.5YR7/6 橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文施文。	3区 覆土中	PL10
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR4/1 褐灰	RL 縄文充填 磨消縄文による逆U字状懸垂文	炉下層	



第7図 第2号竪穴建物跡・出土遺物実測図

第7表 第2号竖穴建物跡出土遺物一覧(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	5YR6/8 橙	LR 縄文斜～縦位施文	1区上層	PL10
10	縄文土器	深鉢	—	(8.3)	[7.1]	長石・石英	5YR6/6 橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による文様	1区上層	PL10

第3号竖穴建物跡(第8～10図 PL3)

位置 調査区北部のB3j1区、標高25.5mの台地上に位置している。

規模と形状 北西部に攪乱を受けているため、南西・北東軸3.71m、南東・北西軸3.62mしか確認できなかった。平面形は隅丸方形または隅丸長方形で、主軸方向はN-39°-Eと推定できる。壁高は21cmほどで、ほぼ外傾しているが、北側のみ緩やかに立ち上がっている。

床 平坦で、中央が踏み固められている。

炉 中央に付設されている。長径80cm、短径60cmほどの楕円形と推測され、深さ20cmの地床炉である。第1・2層は炉内の堆積土で、第3～6層は掘方の埋土である。

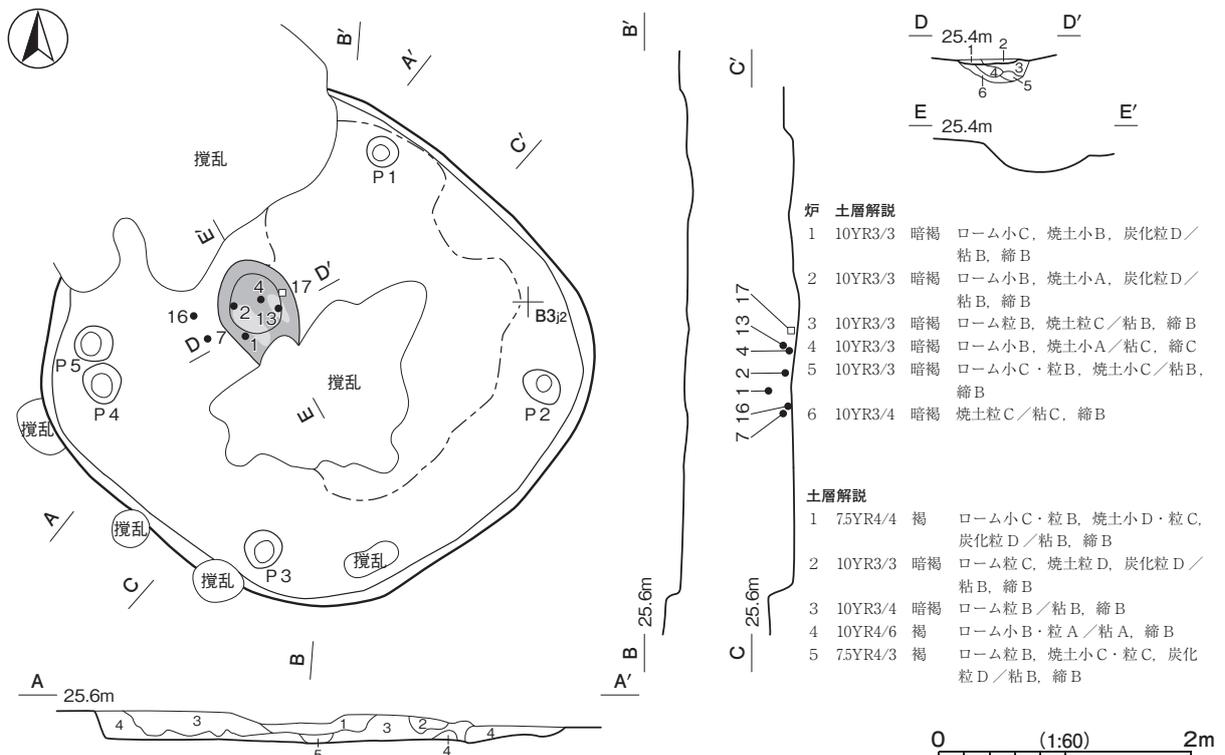
ピット 5か所。径25～32cm、深さ10～15cmと規模が小さいが、壁際に巡る柱穴と考えられる。

第8表 第3号竖穴建物跡 ピット深度

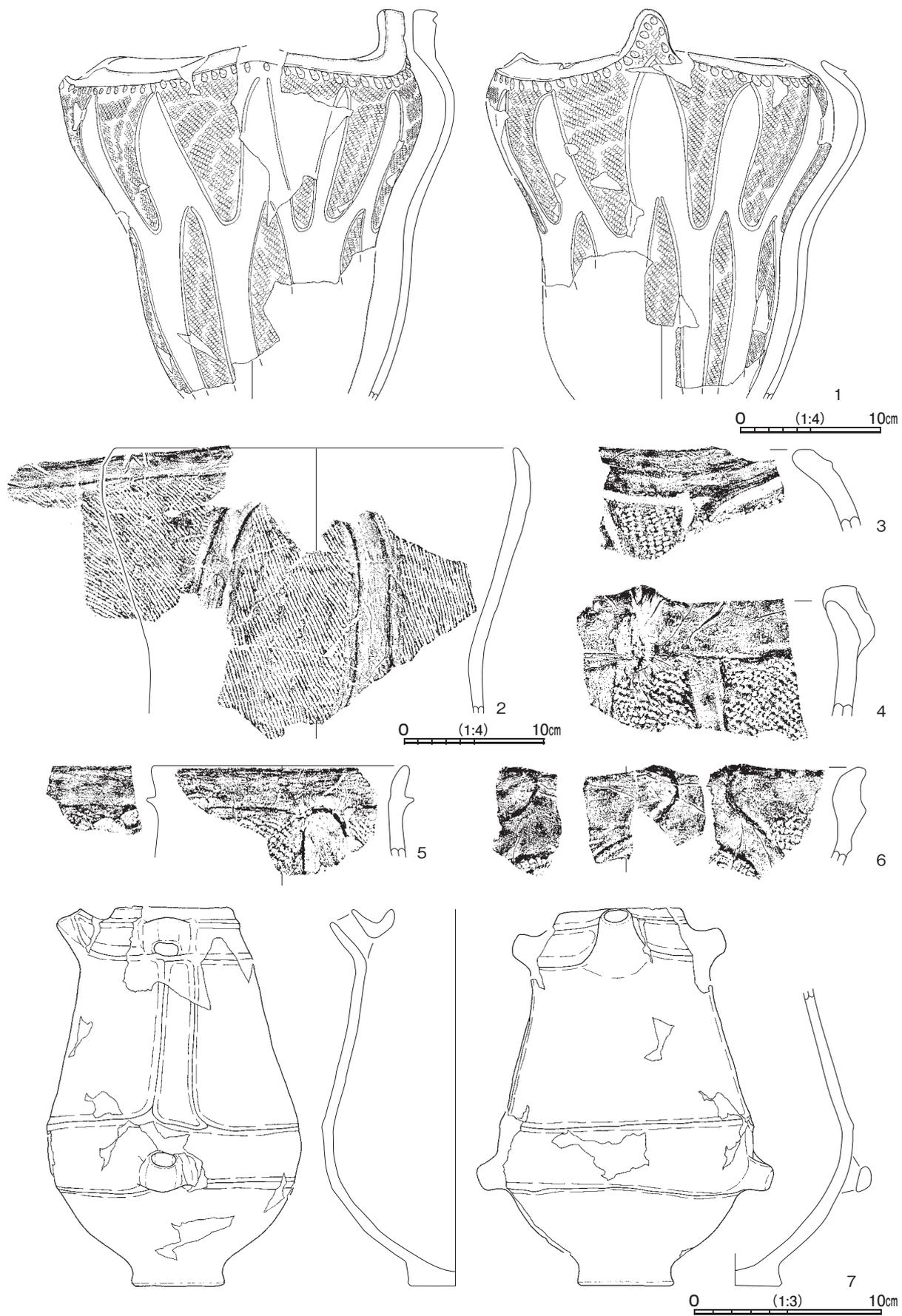
番号	P1	P2	P3	P4	P5
深さcm	12	11	15	15	10

覆土 5層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器330点(深鉢口縁部27, 胴部300, 底部3), 石器3点(剥片, 石鏃, 石皿_カ)が出土している。4・16・17は4区床面, 2・7・13は4区覆土下層, 1は4区覆土上層からそれぞれ出土して



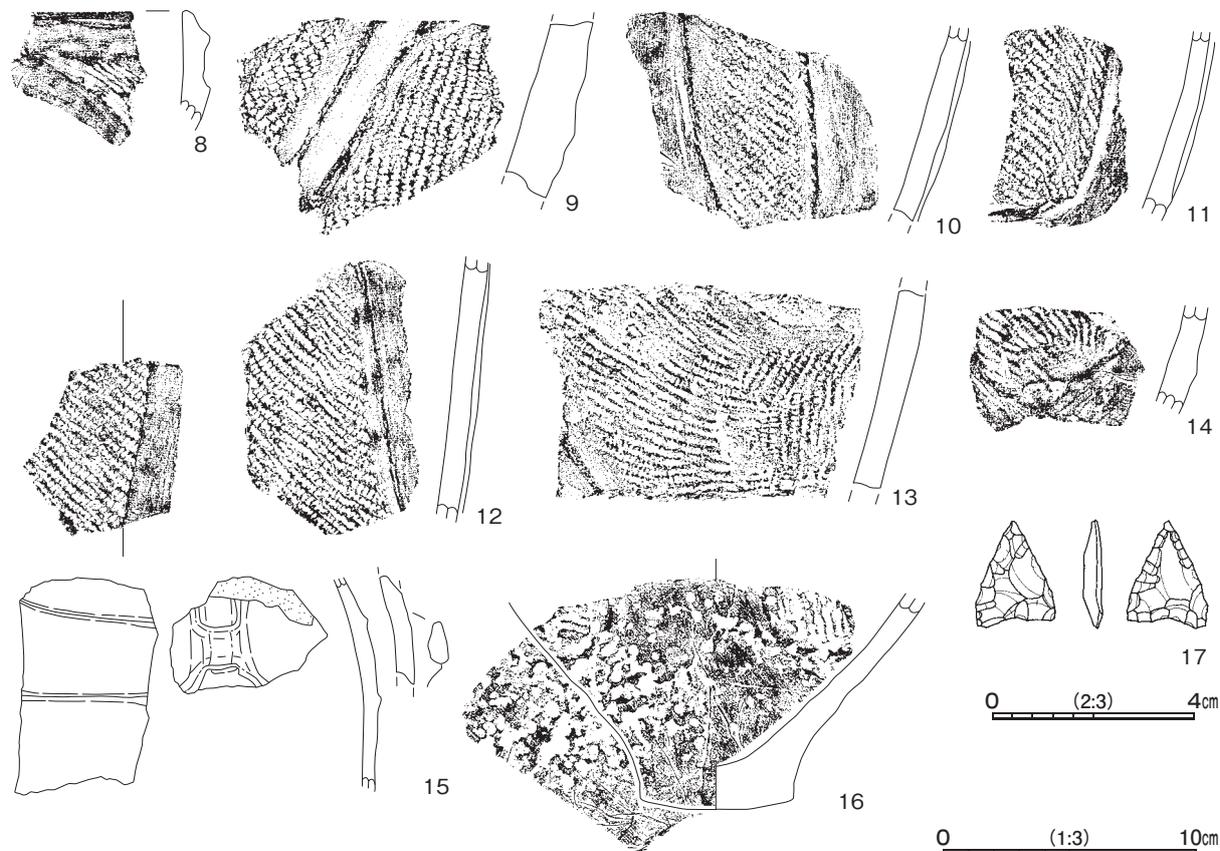
第8図 第3号竖穴建物跡実測図



第9图 第3号竖穴建物跡出土遺物実測図(1)

いる。時期の確認できた縄文土器は加曽利 E IV 式期で、一部は、後期初頭の加曽利 E V 式期に比定できる。

所見 時期は、出土土器から中期後半加曽利 E IV 式～後期初頭加曽利 E V 式期に比定できる。



第 10 図 第 3 号竪穴建物跡出土遺物実測図 (2)

第 9 表 第 3 号竪穴建物跡出土遺物一覧 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	19.5	(27.8)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	2 単位 of 口縁部突起 LR 縄文施文後沈線間磨 沈線による横位連続弧線文	4 区上層	40% PL 8
2	縄文土器	深鉢	[28.4]	(18.8)	—	長石・雲母・赤色粒子	7.5YR5/2 灰褐	無節 L 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向 U 字文	4 区下層	10% PL 8
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線施文 微隆起線による過巻文	覆土中	PL11
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部に突起 微隆起線施文後 LR 縄文縦位施文 微隆起線による平行垂下文又は玉抱文	4 区床面	PL11
5	縄文土器	深鉢	[13.4]	(4.9)	—	長石	7.5YR5/4 にぶい褐	直前段多条の LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向 U 字文	覆土中	PL11
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	5YR5/4 にぶい赤褐	微隆起線施文後 LR 縄文施文 2 条微隆起線による逆 U 字状懸垂文又は玉抱文	覆土中	PL11
7	縄文土器	注口	[6.6]	20.3	5.2	長石・雲母・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	壺形で橋状把手を有する 外面磨き	4 区下層	70% PL 8
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/3 にぶい橙	無節 L 縄文施文後隆帯脇なぞり 条微隆起線による逆 U 字状懸垂文または玉抱文	覆土中	PL11
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による過巻文	覆土中	PL11
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR7/6 橙	微隆起線施文後 LR 縄文縦位施文 微隆起線上にも縄文が被る部分あり 幅広の 2 条微隆起線による逆 U 字状懸垂文	覆土中	PL11
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	7.5YR7/6 橙	微隆起線施文後 LR 縄文施文 微隆起線上にも縄文が被る 微隆起線による対向 U 字文	覆土中	PL11
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	7.5YR4/2 灰褐	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による U 字文	覆土中	PL11
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR7/6 橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による U 字文	4 区下層	PL11
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	5YR7/8 橙	微隆起線施文後無節 L 縄文縦位施文 幅広の微隆起線による逆 U 字状懸垂文で下端部が連携する	覆土中	PL11
15	縄文土器	壺形	—	—	—	長石	10YR7/6 明黄褐	体部の橋状把手部分 細い微隆起線で文様施文 外面に赤彩と漆が残存	覆土中	PL11
16	縄文土器	深鉢	—	(8.6)	6.2	長石・角閃石	5YR5/8 明赤褐	無節 L 縄文施文 微隆起線による逆 U 字状懸垂文施文で、縄文施文部の下端が弧状に連携 底面網代圧痕を磨き調整で消す	4 区床面	PL 8

第 10 表 第 3 号 竪穴建物跡出土遺物一覽 (2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	石鏃	2.1	1.5	0.4	1.1	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	4区床面	PL17
18	石皿	(8.0)	(9.8)	(3.7)	441.0	雲母片麻岩	磨り面表・側面の2面	覆土中	観察表のみ

第 4 号 竪穴建物跡 (第 11・12 図 PL 3)

位置 調査区北部の B 2 e7 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 北東部は調査区外のため, 南西部のみ確認した。全体的に攪乱を受けており, 壁を確認できなかったことから, 形状は不明だが, 北西・南東軸 4.50 m, 南北軸 3.10 m と推定される。

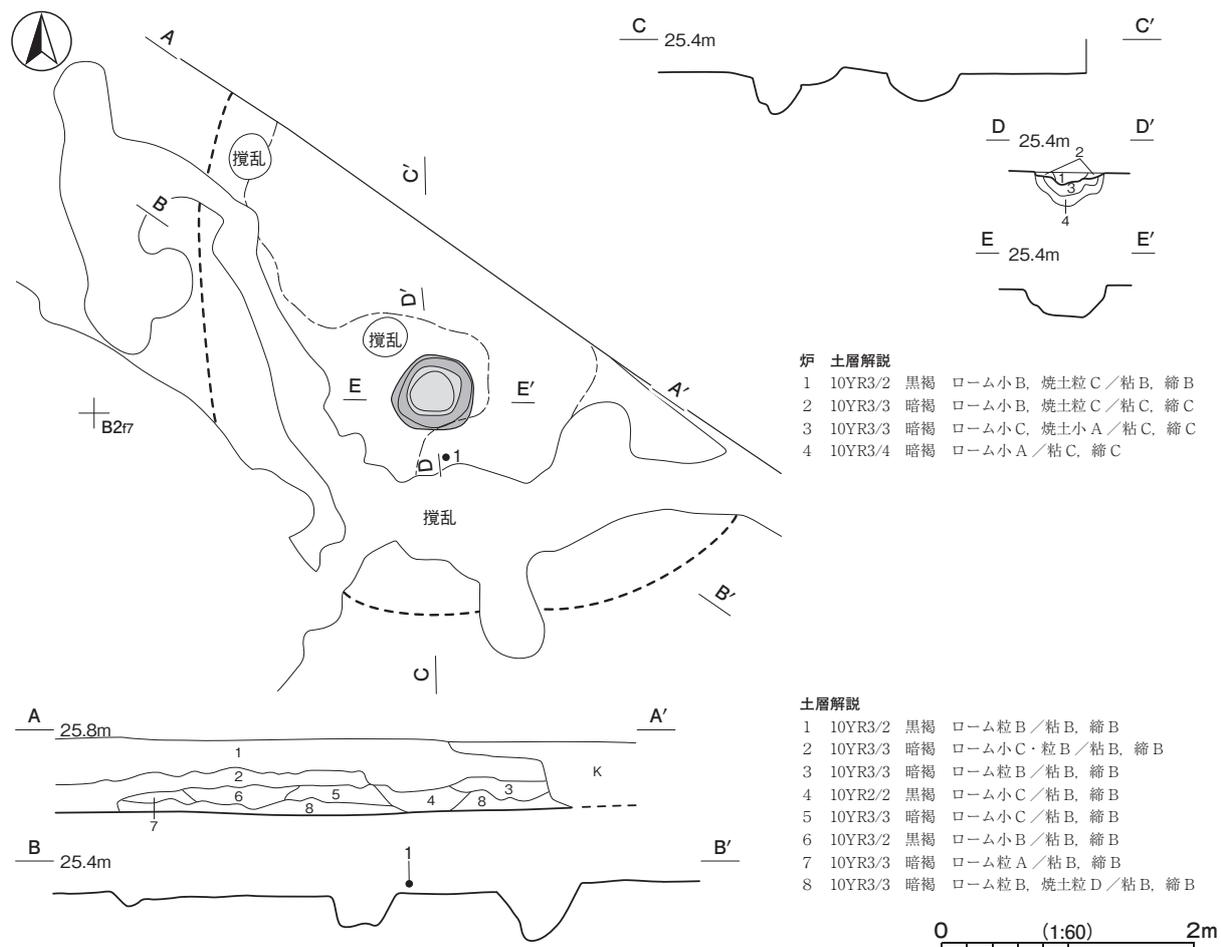
床 平坦で, 炉周辺の一部が踏み固められている。

炉 径 60cm ほどの円形で, 深さ 30cm の地床炉である。第 1・2 層は炉内の堆積土で, 第 3 層上面が火床面である。第 3・4 層は掘方の埋土である。炉床面は火熱を受けて赤変硬化している。

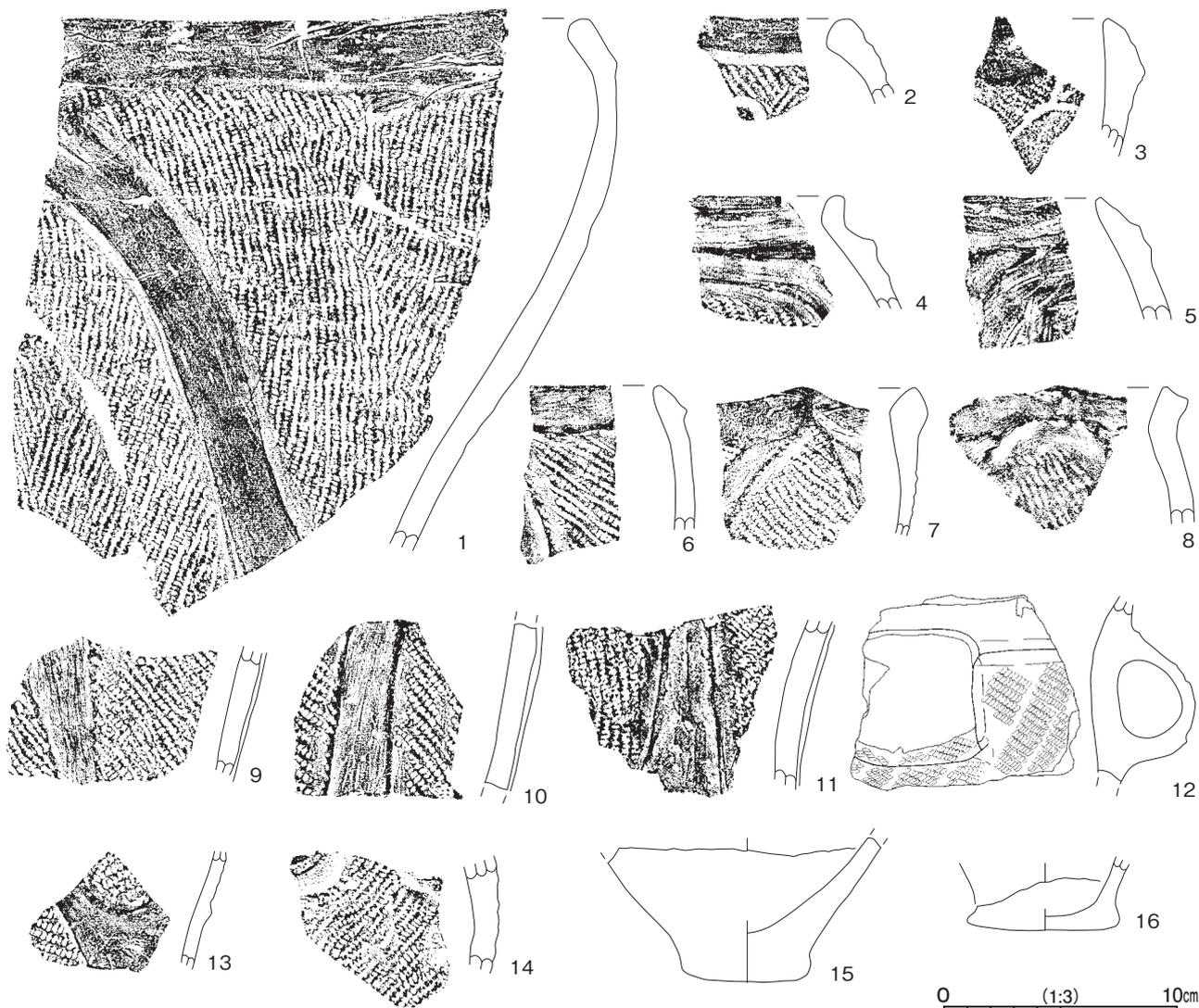
覆土 8 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 200 点 (深鉢口縁部 15, 胴部 182, 底部 2, 両耳壺 1), 石器 1 点 (磨石) が出土している。1 は 2 区の床面から出土している。遺物は確認面から多量に出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E IV 式～後期初頭加曾利 E V 式期に比定できる。



第 11 図 第 4 号 竪穴建物跡実測図



第 12 図 第 4 号 堅穴建物跡出土遺物実測図

第 11 表 第 4 号 堅穴建物跡出土遺物一覽 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	5YR6/6 橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文	2区床面	PL 8
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR7/6 橙	RL 縄文充填 沈線による対向U字文	覆土中	PL10
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR4/2 灰褐	口縁部下無文帯 RL 縄文充填 沈線による対向U字文施文	覆土中	PL10
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR7/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	覆土中	PL10
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR7/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字状懸垂文	覆土中	PL10
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	5YR6/6 橙	微隆起線施文後 LR 縄文縦位施文 微隆起線上にも縄文が被る 微隆起線による逆U字状懸垂文	覆土中	PL10
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR6/6 橙	口縁部に突起 微隆起線施文後 LR 縄文縦位施文 微隆起線施文上にも縄文が被る 微隆起線による逆U字状懸垂文又は玉抱文	覆土中	PL10
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	5YR7/6 橙	口縁部無文帯が狭く口唇部に位置 LR 縄文横位施文力摩滅著しい 微隆起線による逆U字状懸垂文又は玉抱文	覆土中	PL10
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR5/6 明赤褐	微隆起線内磨き後 LR 縄文施文 微隆起線による対向U字文	覆土中	PL10
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR6/6 橙	微隆起線施文後 LR 縄文縦位施文 微隆起線施文上にも縄文が被る 微隆起線による対向U字文	覆土中	PL10
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR8/6 浅黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文	覆土中	PL10
12	縄文土器	両耳壺	—	—	—	長石・赤色粒子	5YR6/6 橙	把手部 LR 縦位施文	覆土中	

第12表 第4号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徵ほか	出土位置	備考
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR7/6 橙	微隆起線内磨き後LR縄文縦位 微隆起線による 対向U字文	覆土中	PL10
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR3/1 黒褐	口縁部に近い部分 幅ひろい凹線施文後RL縄文 縦位施文 微隆起線系の文様。	覆土中	PL10
15	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	3.0	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	縦位の磨き 内面あばた状に剥離	覆土中	20% PL 8
16	縄文土器	深鉢	—	(3.1)	[4.6]	長石	7.5YR7/6 橙	外・内面ナデ	覆土中	10%

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
17	磨石	(6.3)	(4.7)	(2.7)	72.8	安山岩	磨り面確認	覆土中	観察表のみ

第5号竪穴建物跡(第13～19図 PL4)

位置 調査区北部のC3c2区、標高25.5mの台地上に位置している。

規模と形状 長軸5.88m、短軸5.55mの円形である。壁高は26～50cmほどで、ほぼ直立している。

床 平坦で、全体が踏み固められている。

炉 2か所。中央に付設されている。炉1が炉2を掘り込んでいる。炉1は径70cmほどの円形で、深さ25cmの地床炉である。第1層は炉内の堆積土で、第2～5層は掘方の埋土である。炉床面は火熱を受けて赤面硬化している。土層の堆積状況から、元は土器埋設炉の可能性があり、建物跡廃絶時に土器を抜き取ったものと考えられる。炉2は径60cmほどの楕円形で、深さ10cmの地床炉である。第6層は炉内の堆積土で、第7・8層は掘方の埋土である。炉床面の状況などから、長期間は使用せず、炉1に作り替えられたものと考えられる。

ピット 16か所。P1～P4は径50cmほどで配置や形状から、支柱穴と考えられる。P5は径50cmほどで支柱穴と同規模であることから、柱の作り替えと考えられる。P6～P16は径20～35cmほどで、配置から補助支柱穴と考えられる。

第13表 第5号竪穴建物跡 ピット深度

番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13	P14	P15	P16
深さcm	55	72	45	68	40	16	14	11	44	12	11	8	8	15	14	10

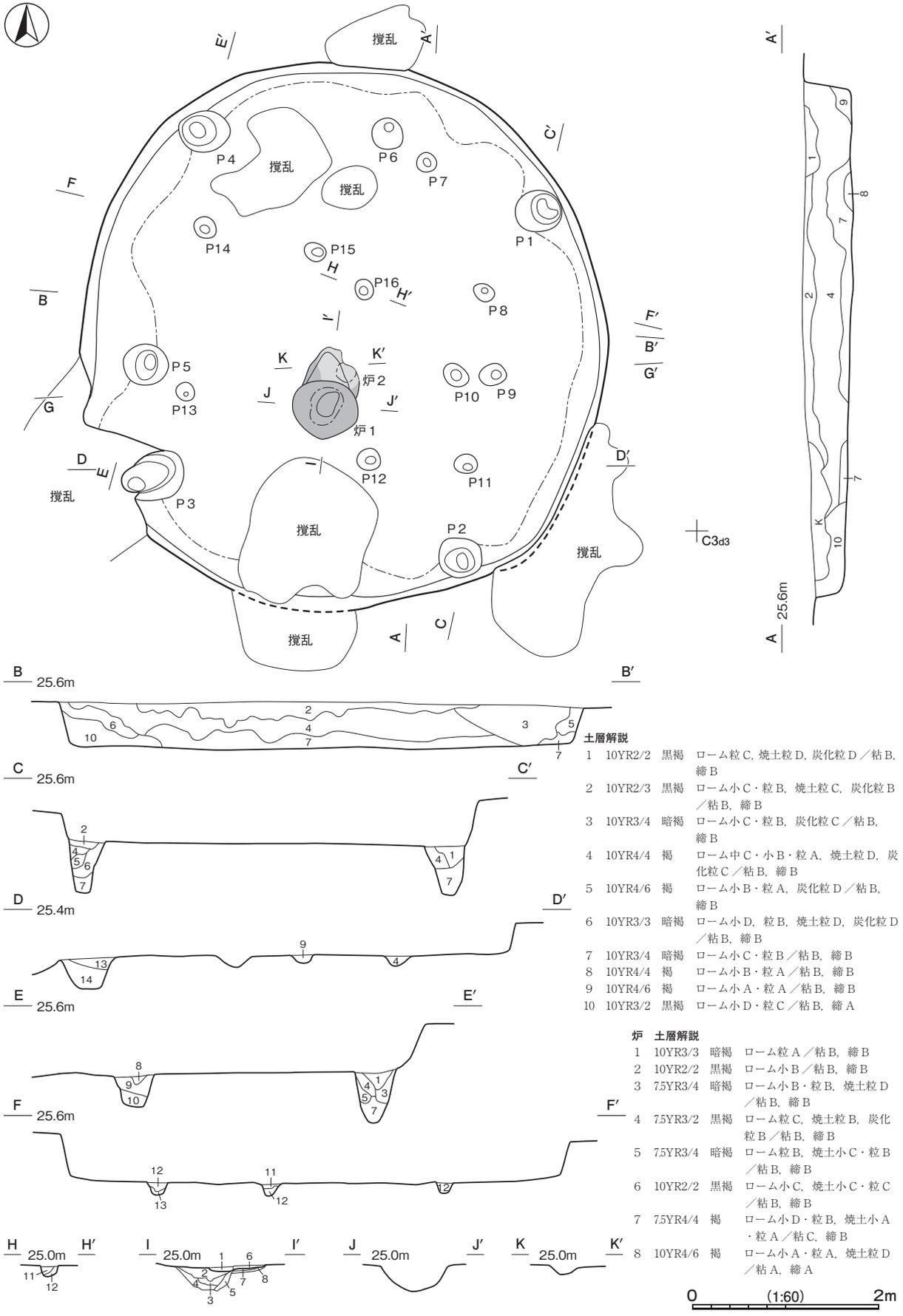
覆土 10層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器1902点(深鉢口縁部250, 胴部1622, 底部27, 有孔罎付2, ミニチュア1), 土製品7点(土器片円盤5, 土器片錘1, 棒状土製品1), 石器17点(剥片7, 石鏃3, 磨製石斧1, 石皿3, 敲石1, 原石2)が出土している。遺物は覆土上層から出土するものが多く、特に3区に集中しており、建物跡廃絶後にまとめて廃棄されたと推測される。9・67は床面, 35は3区覆土下層からそれぞれ出土している。2・7は有孔罎付土器である。時期の確認できる縄文土器は加曽利EⅢ式新段階やEⅣ式期のものが多く、一部加曽利EⅤ式期に比定できる。

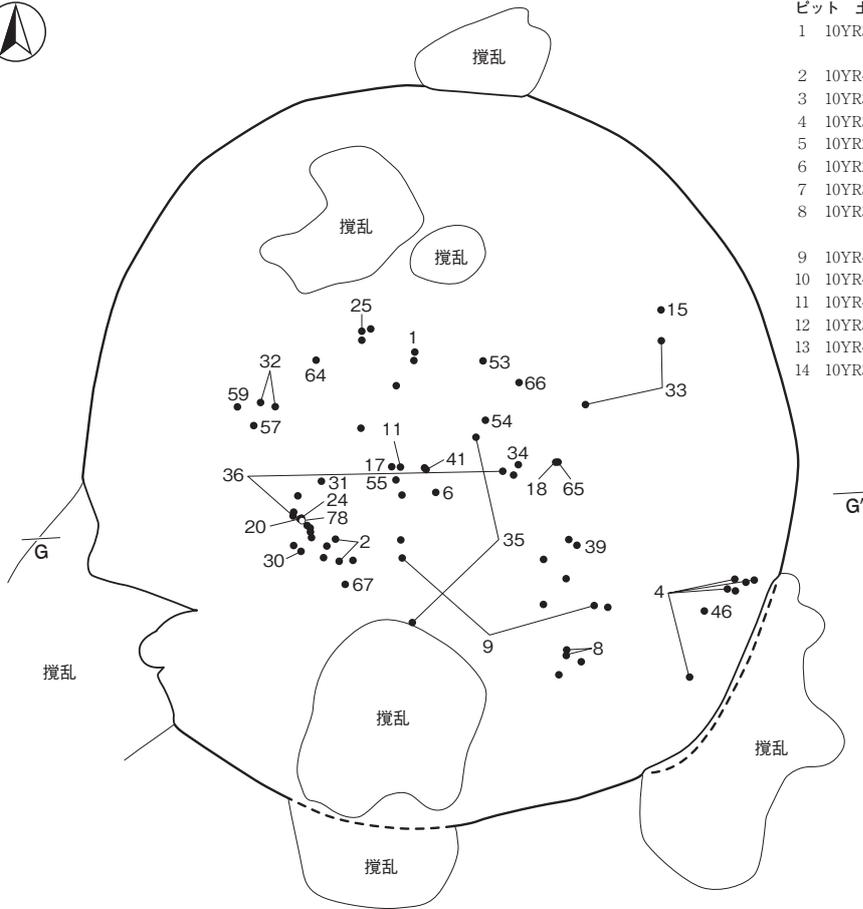
所見 時期は、出土土器から中期後半加曽利EⅢ式新段階～後期初頭加曽利EⅤ式期に比定できる。

第14表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)

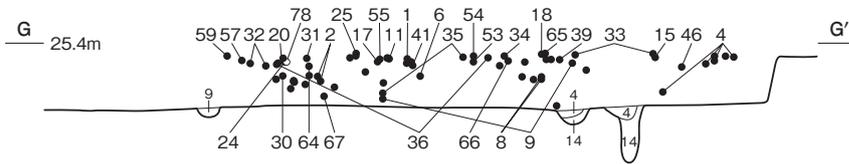
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徵ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[22.7]	(17.3)	—	長石・石英・ 黒色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	磨消縄文による渦巻文・C字文・U字文 直前段 多条のRL縄文施文	4区上層	35% PL 8



第13図 第5号竖穴建物跡実測図(1)



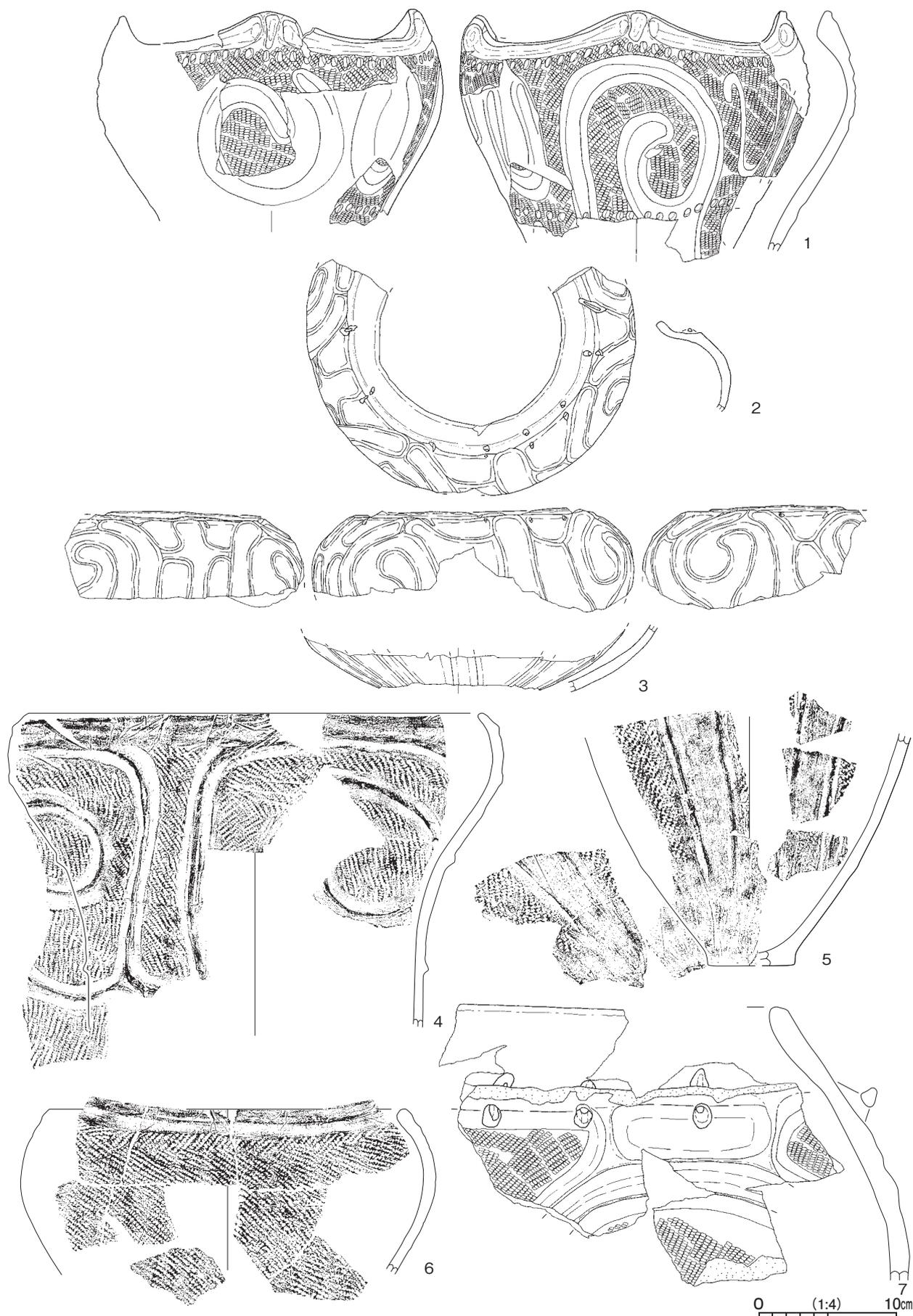
- ビット 土層解説
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム小C・粒B, 炭化粒D/粘B, 縮B
 - 2 10YR4/4 褐 ローム小B・粒A/粘B, 縮B
 - 3 10YR3/2 黒褐 ローム小C・粒C/粘B, 縮B
 - 4 10YR3/4 暗褐 ローム小B・粒B/粘B, 縮B
 - 5 10YR2/3 黒褐 ローム粒C/粘B, 縮B
 - 6 10YR2/3 黒褐 ローム粒C/粘A, 縮A
 - 7 10YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B, 縮B
 - 8 10YR3/4 暗褐 ローム小B・粒B, 炭化粒D/粘B, 縮B
 - 9 10YR4/6 褐 ローム小A・粒A/粘B, 縮C
 - 10 10YR4/4 褐 ローム小A・粒A/粘B, 縮C
 - 11 10YR4/6 褐 ローム小A・粒A/粘A, 縮A
 - 12 10YR3/4 暗褐 ローム小D・粒B/粘B, 縮B
 - 13 10YR4/4 褐 ローム小B・粒A/粘A, 縮B
 - 14 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒B/粘B, 縮C



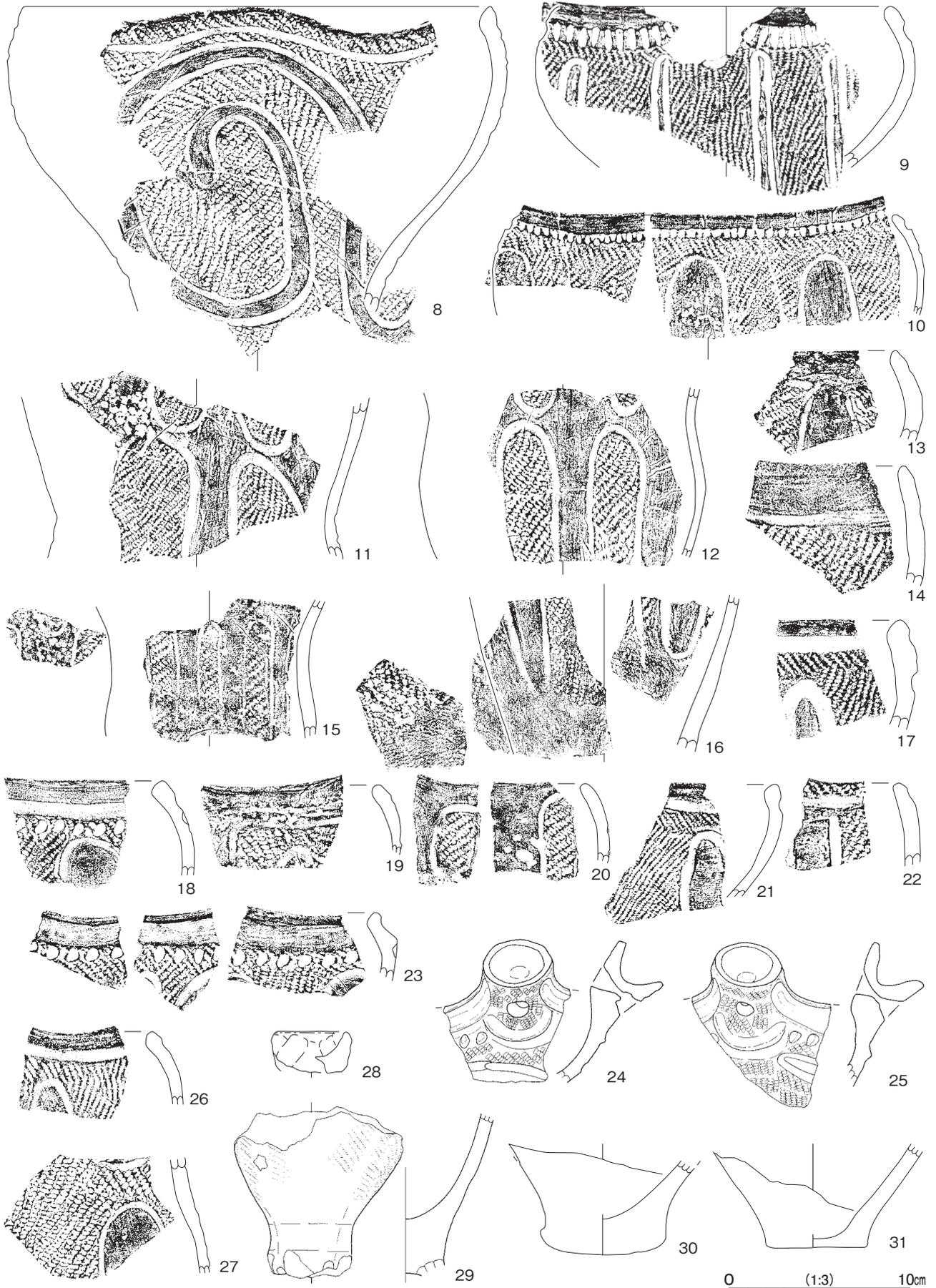
第14図 第5号竪穴建物跡実測図(2)

第15表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(2)

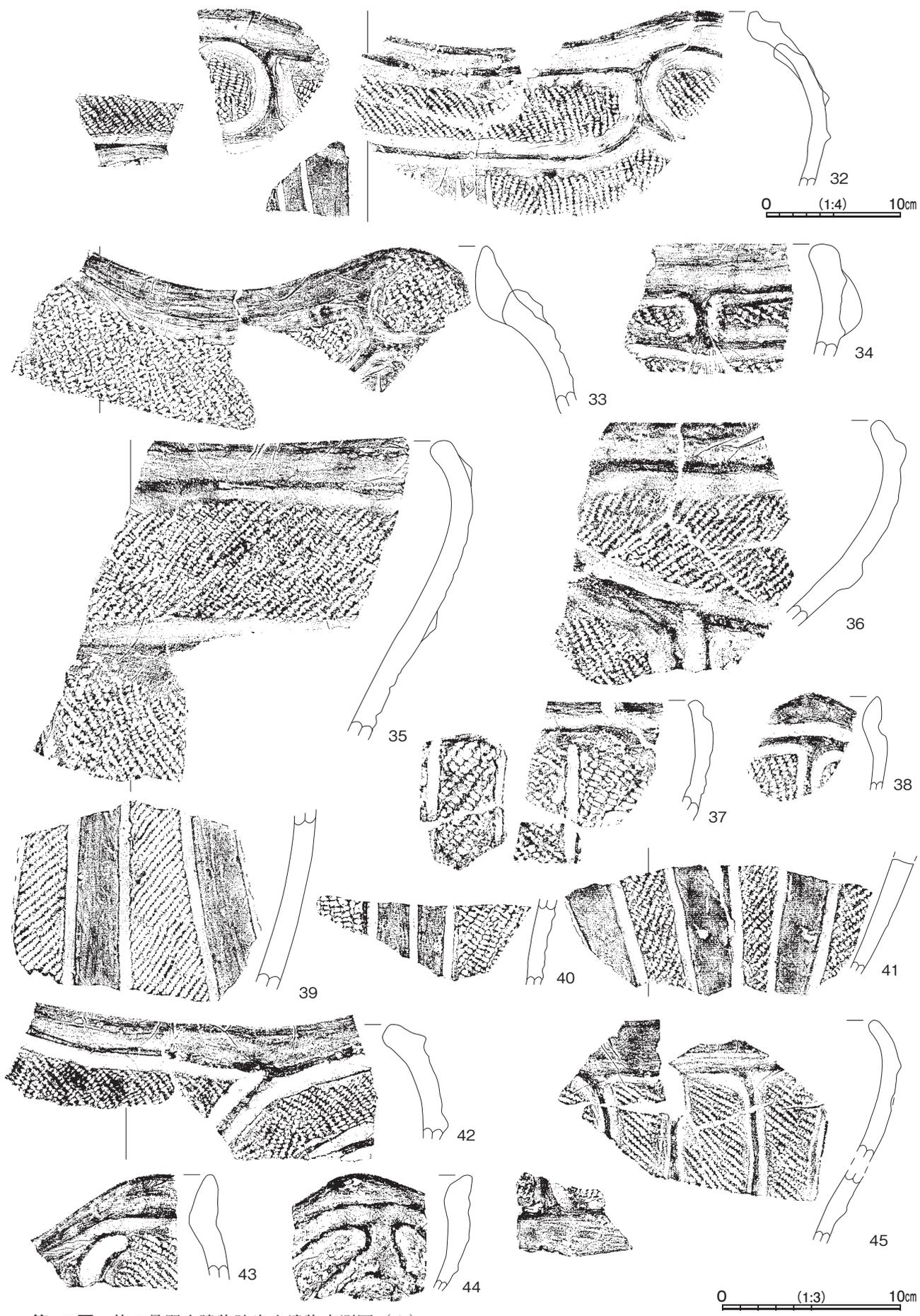
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
2	縄文土器	有孔 鏝付	13.0	(7.7)	—	長石・石英・ 赤色粒子	10YR5/2 灰黄褐	微隆起線による渦巻き状文様施文 口縁部に有孔 8か所	3区上層	10% PL 8
3	縄文土器	壺形 <small>カ</small>	—	(4.8)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 におい橙	微隆起線による縦位の文様 内面摩滅著しい 2 と同一 <small>カ</small>	3区 覆土中	
4	縄文土器	深鉢	[32.4]	(22.7)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 におい橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦 巻文	2区床面 2区上層	20% PL 8
5	縄文土器	深鉢	—	(16.7)	[6.2]	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	7.5YR6/4 におい橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線に よる逆U字文	3区3x	PL 8
6	縄文土器	深鉢	[27.8]	(11.9)	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	10YR7/4 におい黄橙	口縁部下に凹線 LR 縄文縦位施文	3区 覆土中	PL 8
7	縄文土器	有孔 鏝付	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	5YR7/6 橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり	3区 覆土中	PL 8
8	縄文土器	深鉢	[25.8]	(17.0)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 におい橙	RL 縄文施文後沈線施文・無文部磨き 緩い波状 磨消縄文による渦巻文	2区上層	10% PL 8
9	縄文土器	深鉢	[18.2]	(8.9)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 におい橙	RL 縄文縦位後沈線施文 沈線による平行垂下文	3区床面 2区上層	PL 8
10	縄文土器	深鉢	[20.7]	(5.5)	—	長石・雲母	7.5YR4/1 褐灰	沈線施文後 RL 縄文・無文部磨き 沈線による対 向弧線文施文	3区3x	PL11
11	縄文土器	深鉢	—	(8.9)	—	長石・石英	5YR7/8 橙	沈線施文後 RL 縄文・無文部磨き 沈線による対 向U字文	4区上層	
12	縄文土器	深鉢	—	(9.3)	—	長石・石英	10YR6/4 におい黄橙	RL 縄文縦位施文後沈線・磨き 沈線による横位連 携弧線文	3区2x	PL12
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR6/6 橙	沈線施文後直前段多条の RL 縄文施文 沈線に よる対向U字文	3区1x	PL11



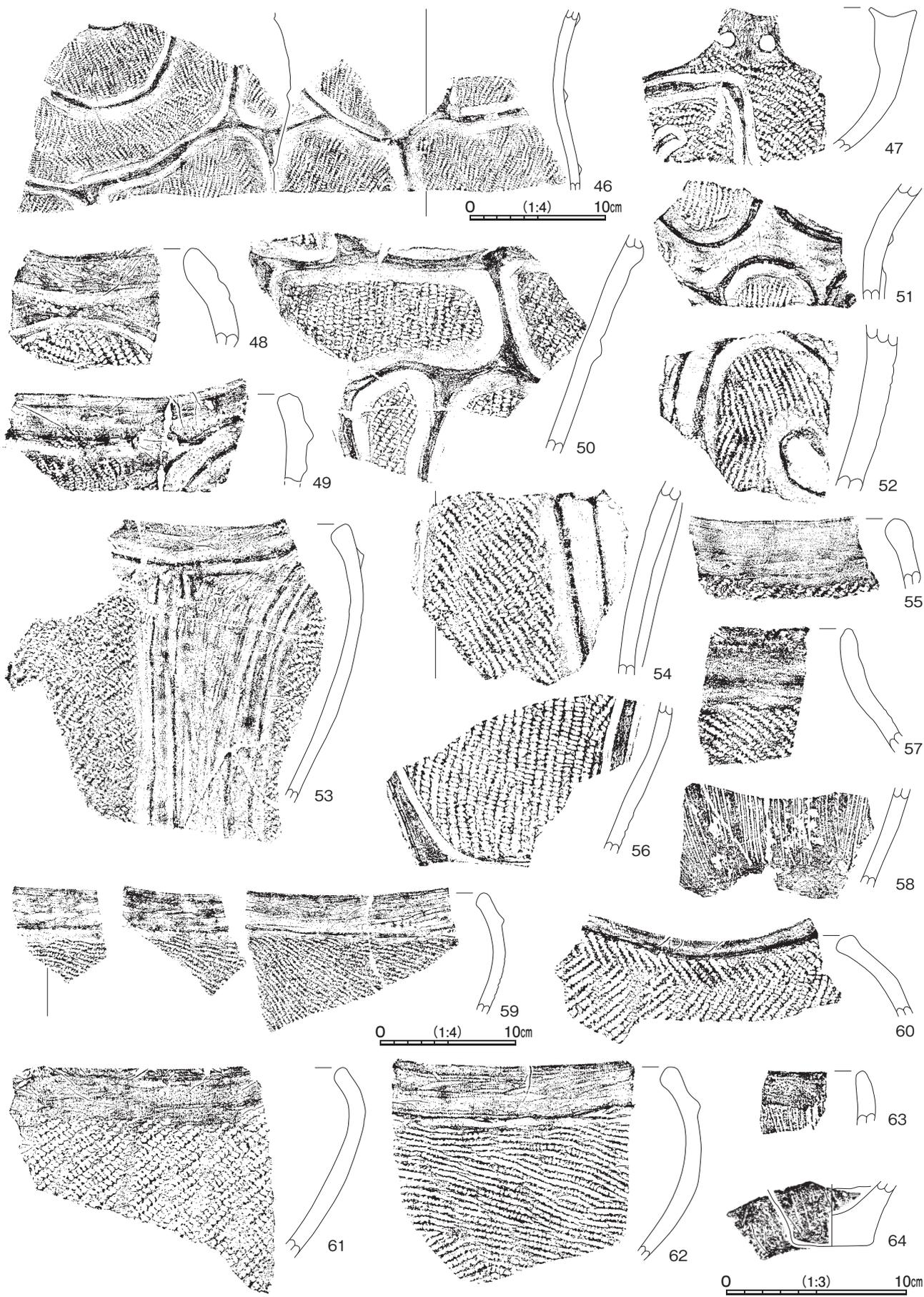
第 15 图 第 5 号竖穴建物跡出土遺物実測図 (1)



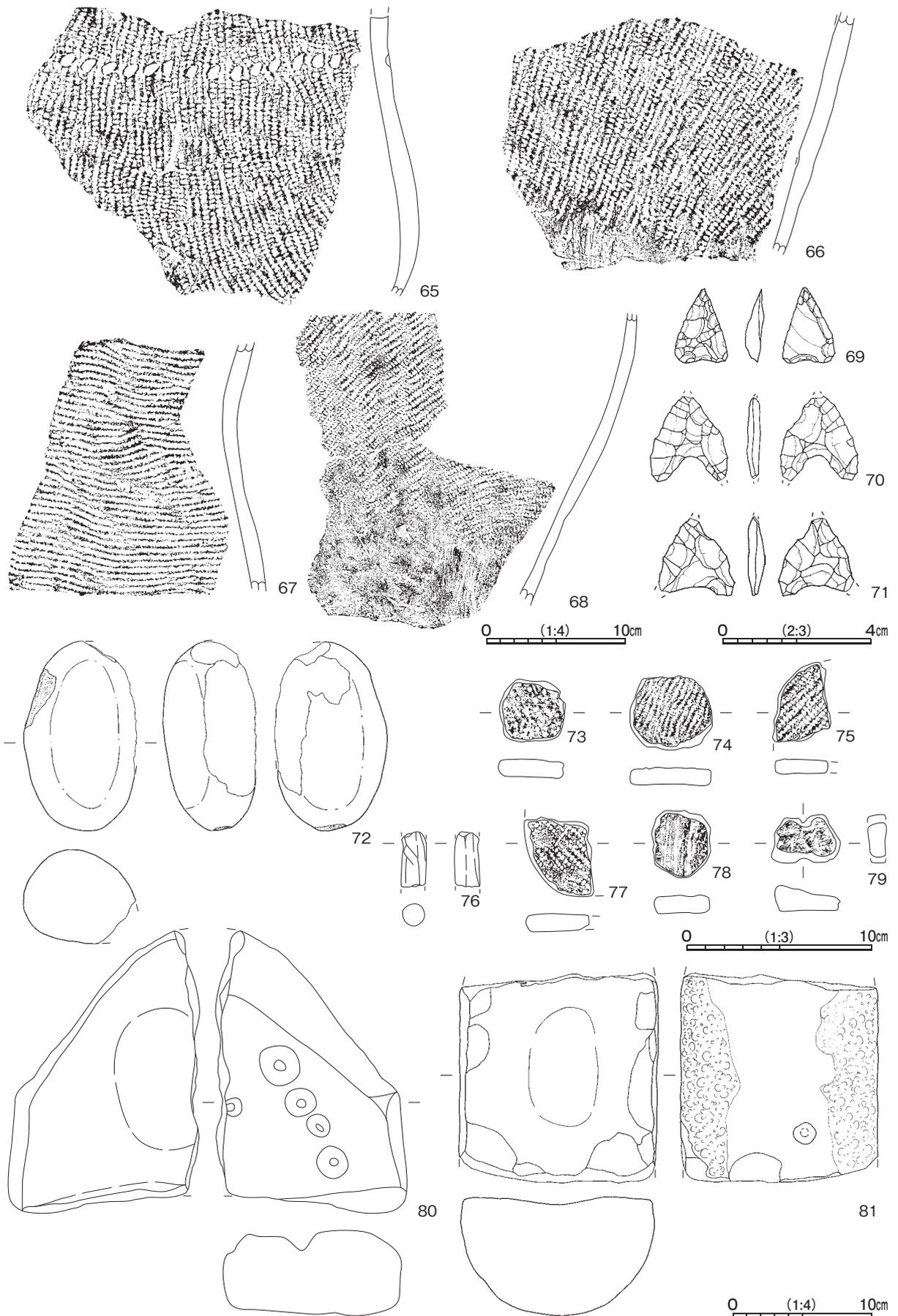
第16图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(2)



第 17 图 第 5 号竖穴建物迹出土遗物实测图 (3)



第 18 图 第 5 号竖穴建物跡出土遺物実測图 (4)



第19图 第5号竖穴建物跡出土遺物実測図(5)

第16表 第5号竪穴建物跡出土遺物一覧(3)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徵ほか	出土位置	備考
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/8 橙	口縁部下無文帯 RL 縄文縦位施文	4区2x	PL11
15	縄文土器	深鉢	—	(7.6)	—	長石・針状鉱物	7.5YR6/6 橙	沈線施文後 RL 縄文・無文部磨き 沈線による対向U字文	1区上層	PL13
16	縄文土器	深鉢	—	(8.7)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	RL 縄文縦位施文後沈線 沈線による対向U字文 _カ	3区1x	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・細礫	5YR5/6 明赤褐	沈線施文後 RL 縄文施文 沈線による横位連携弧線文	4区上層	PL11
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR4/4 褐	LR 縄文施文後沈線内なぞり 沈線による横位連携弧線文	1区上層	PL11
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR5/4 にぶい赤褐	沈線施文後 LR 縄文施文 沈線による対向弧線文施文 _カ	2区1x	PL11
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR7/4 にぶい橙	沈線施文後 RL 縄文施文 直前段多条 _カ 磨消縄文による対向U字文	3区上層	PL11
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	7.5YR7/6 橙	沈線施文後 RL 縄文施文 沈線による横位連携対向弧線文	3区1x	PL11
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR5/1 褐灰	RL 縄文施文後沈線施文・無文部磨き 平行垂下文 _カ	2区1x	PL11
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	5YR6/8 橙	RL 縄文施文後沈線なぞり	3区1x	PL11
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	10YR7/6 明黄褐	波状口縁 RL 縄文 磨消縄文による逆U字文またはC字文 _カ	3区上層	PL12
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	10YR6/4 にぶい黄橙	波状口縁 RL 縄文 磨消縄文によるC字文 _カ	4区上層	PL12
26	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR7/8 橙	沈線施文後 RL 縄文施文 沈線による横位連携弧線文	2区1x	PL11
27	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	10YR6/3 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文後沈線 沈線による横位連携弧線文	3区 覆土中	PL13
28	縄文土器	ミニ チュア	[3.4]	(2.2)	—	長石・石英・角閃石	7.5YR6/6 橙	指頭によるナデ整形	3区3x	40%
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR6/4 にぶい黄橙	台付 透かし孔4カ所 無節 L 縄文縦位施文	3区 覆土中	PL 8
30	縄文土器	深鉢	—	(6.2)	[7.0]	長石・石英・雲母	5YR6/6 橙	外面縦位の磨き 内面剥離 底部磨き	3区上層	
31	縄文土器	深鉢	—	(5.8)	[5.6]	長石	7.5YR8/6 浅黄橙	外内・底面磨き	4区上層	
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	7.5YR7/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり キャリパー型	4区上層	PL 9
33	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR4/6 褐	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線施文 キャリパー型	1区上層	PL11
34	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線施文 キャリパー型	1区上層	PL11
35	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR3/2 黒褐	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり キャリパー型	1区上層 3区下層	PL 9
36	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり キャリパー型	覆土中	
37	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	5YR3/2 暗赤褐	RL 縄文施文後沈線施文 平行垂下文 _カ	3区4x	PL12
38	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR7/6 橙	RL 縄文施文後沈線内なぞり キャリパー型 _カ	4区1x	PL12
39	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR6/8 橙	RL 縄文施文後沈線内磨き 磨消縄文による文様	2区上層	PL13
40	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	10YR6/3 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文後沈線 キャリパー型の胴部 _カ	3区 覆土中	PL13
41	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後沈線内磨き 磨消縄文による文様	4区上層	PL13
42	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英	5YR4/2 灰褐	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	3区 覆土中	PL12
43	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	3区1x	PL12
44	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母・赤色粒子	7.5YR5/3 にぶい褐	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	3区1x	PL12
45	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文 _カ	覆土中	PL12
46	縄文土器	深鉢	—	(13.2)	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/6 橙	0段多条の RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	2区上層	10% PL 9
47	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	7.5YR6/6 橙	LR 縄文施文後微隆起線脇沈線施文 波状縁 微隆起線による渦巻文	3区 覆土中	PL12
48	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母・赤色粒子	5YR6/6 橙	RL 縄文施文後沈線内なぞり 磨消縄文による渦巻文 _カ	3区 覆土中	PL11
49	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR7/4 にぶい橙	微隆起線施文後 RL 縄文施文 緩い波状 微隆起線による逆U字文	4区1x	PL12
50	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母・赤色粒子	7.5YR5/1 褐灰	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線施文 微隆起線による渦巻文	3区2x	PL13
51	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/4 にぶい黄褐	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	3区 覆土中	PL12
52	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・角閃石	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	3区2x	PL13
53	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	5YR5/6 明赤褐	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	1区上層	PL12
54	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・細礫	7.5YR7/4 にぶい橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	1区上層	PL13

第 17 表 第 5 号竪穴建物跡出土遺物一覧（4）

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
55	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文後口縁部磨き	4区上層	PL12
56	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文縦位施文後沈線 磨消縄文による対向U字文	3区1x	PL13
57	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR8/6 浅黄橙	LR 縄文 口縁部下に無文帯	4区上層	PL12
58	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR5/4 にぶい黄褐	櫛歯状工具による条線文	3区3x	PL13
59	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部下に微隆起線 胴部 LR 縄文縦位施文	4区上層	PL11
60	縄文土器	深鉢	—	—	—	赤色粒子	7.5YR5/3 にぶい褐	RL 縄文の羽状構成 同一原体	覆土中	PL12
61	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/8 橙	RL 縄文縦位施文後口縁部磨き	3区 覆土中	PL12
62	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母・赤色粒子	7.5YR8/6 浅黄橙	口縁部下無文帯 LR 縄文縦位施文	3区 覆土中	PL12
63	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英	7.5YR4/4 褐	口縁部直下無文帯 櫛歯状工具による条線施文	2区1x	
64	縄文土器	深鉢	—	(3.6)	[4.5]	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	外面磨き 縦位の条線施文	4区上層	
65	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	10YR7/6 明黄褐	RL 縄文施文後胴部くびれ部に刺突文	1区上層	
66	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	10YR8/8 黄橙	RL 縄文縦位施文 内面磨き	1区上層	
67	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	7.5YR8/6 浅黄橙	LR 縄文縦位施文 内面横位～斜位の磨き	3区床面	
68	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・角閃石	7.5YR6/6 橙	RL 縄文縦位施文	3区 覆土中	PL 9

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
73	土器片 円盤	3.5	3.3	1.0	15.2	長石	7.5YR5/3 にぶい褐	深鉢胴部片再利用	4区2x	PL17
74	土器片 円盤	4.1	4.9	1.0	21.9	長石・雲母	7.5YR5/3 にぶい褐	深鉢胴部片再利用 周縁の研磨弱い	覆土中	PL17
75	土器片 円盤	(4.9)	(3.1)	0.8	12.8	長石・雲母	10YR6/4 にぶい黄橙	深鉢胴部片再利用 約1/4残存 周縁の研磨明瞭	3区1x	PL17
76	棒状	(3.0)	1.4	1.2	5.3	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	磨き調整 ねじれあり	4区 覆土中	PL17
77	土器片 円盤	(4.4)	(3.6)	1.0	18.4	長石・角閃石	10YR7/4 にぶい黄橙	深鉢胴部片再利用 約1/4残存 周縁の研磨明瞭	4区1x	
78	土器片 円盤	3.7	3.2	1.0	13.6	長石	10YR3/2 黒褐	深鉢胴部片再利用	3区上層	PL17
79	土器片 錘	3.2	3.7	1.4	11.6	長石	10YR4/1 褐灰	深鉢胴部片再利用 短軸側に紐かけの抉り	3区1x	PL17

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
69	石鏃	2.0	1.4	0.4	0.8	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中	PL17
70	石鏃	(2.1)	2.1	0.3	1.4	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	覆土中	PL17
71	石鏃	(1.9)	1.8	0.4	1.3	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	4区2x	PL17
72	敲石	10.2	6.0	5.0	420.0	流紋岩	下端・一側面に敲打による剥離	3区 覆土中	PL18
80	石皿	20.2	(13.6)	6.2	2340.0	花崗岩	三側面に研磨あり 表裏に研磨痕 裏面に窪み	覆土中	PL18
81	石皿	(15.0)	14.2	8.5	3280.0	凝灰岩	大型石棒の転用 表面磨り面 裏面側縁部敲打痕残存 窪み1か所	4区2x	PL18
82	石皿	(15.7)	(3.8)	(6.5)	440.0	斑レイ岩	形状から石皿と判断	4区 覆土中	観察表のみ
83	磨製 石斧	(2.3)	(2.9)	(0.8)	5.8	斑レイ岩	研磨面2面確認	3区 覆土中	観察表のみ

第 6 号竪穴建物跡（第 20・21 図 PL 4）

位置 調査区中央部の C 2b7 区、標高 25.5 m の台地上に位置している。

重複関係 第 109 号土坑と重複しているが、新旧関係は不明である。

規模と形状 確認面が床面のため、形状は不明だが、規模は炉やピットの配列から、長軸 4.40 m、短軸 4.20 m と推定される。

床 平坦である。

炉 中央に位置している。長径 90cm、短径 60cm ほどの楕円形で、深さ 25cm の地床炉である。第 1 層は炉内の

堆積土で、第2・3層は土器を埋設した際の埋土と推定される。第4～7層は掘方の埋土である。第2層上面が炉床面である。炉床面は火熱を受けて赤面硬化している。土層の堆積状況から土器埋設炉の可能性がある。
ピット 14か所。径12～40cmほどの小ピットが壁際に巡る壁柱穴構造で、出入口ピットは確認できなかった。

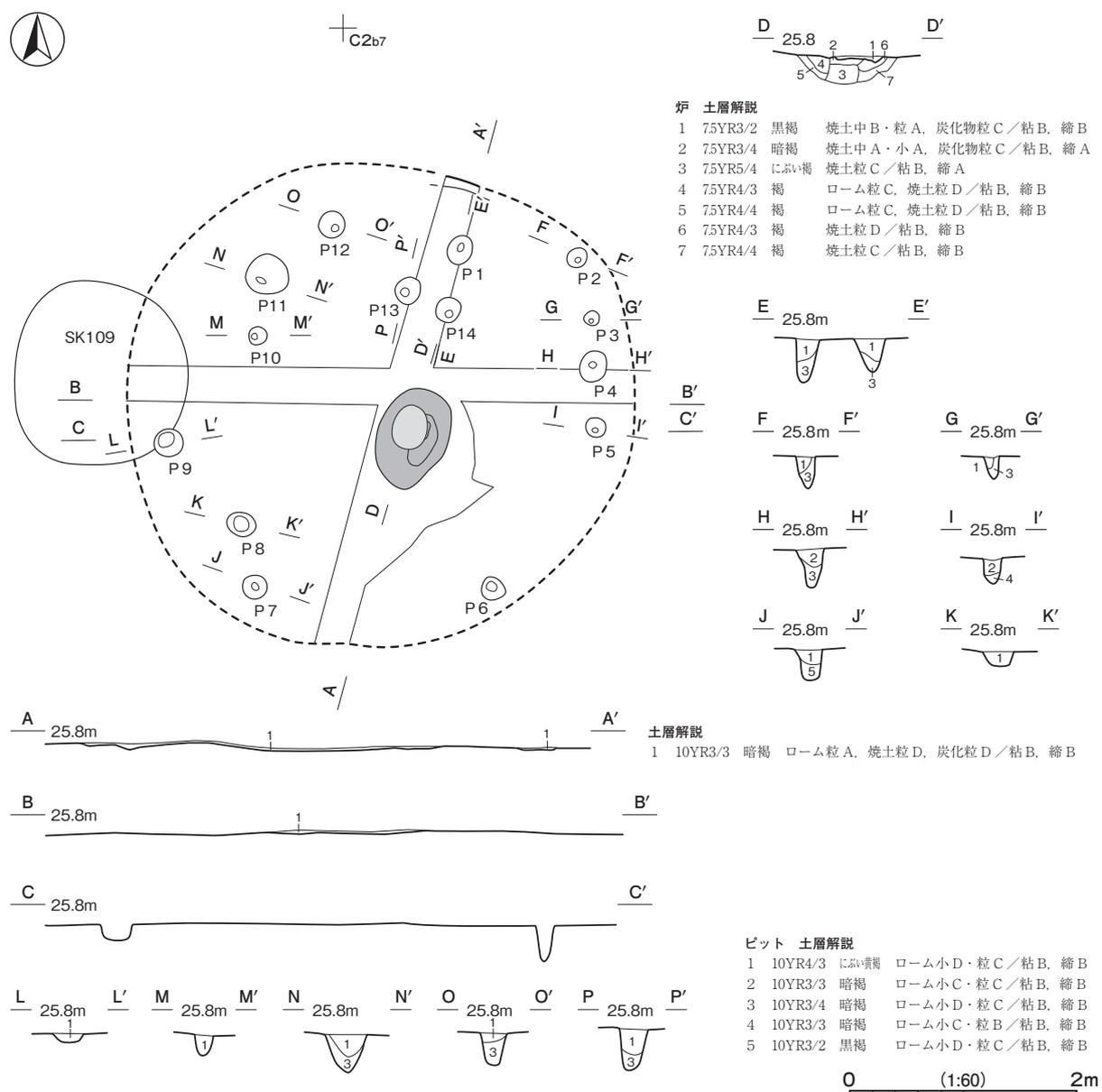
第18表 第6号竪穴建物跡 ピット深度

番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P10	P11	P12	P13	P14
深さ cm	30	28	20	32	20	11	26	13	7	19	35	28	37	40

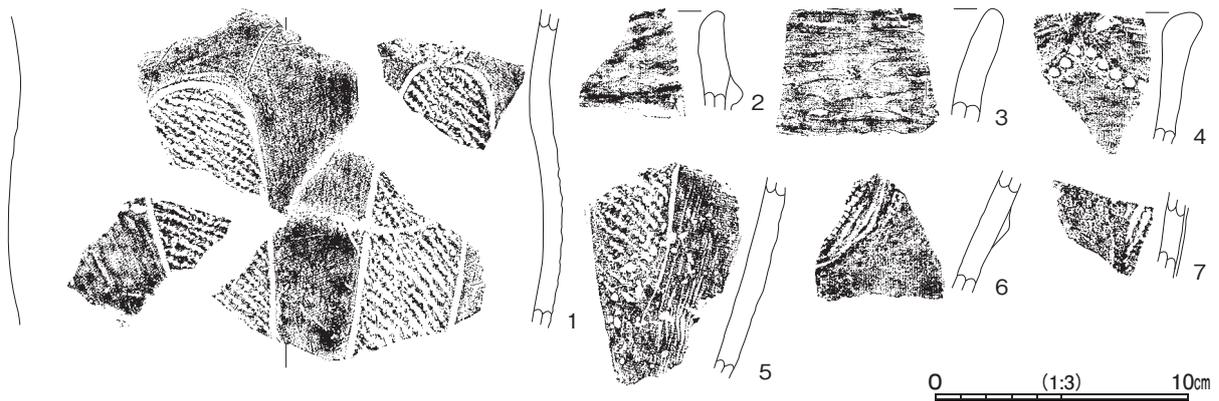
覆土 単一層である。遺存状態が悪いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 縄文土器77点（深鉢口縁部5，胴部72），石器1点（剥片）が出土している。遺物は覆土上層からの出土が多い。6は炉の掘方，7はP13の覆土中からそれぞれ出土している。

所見 時期は、出土土器から中期後半加曾利E IV式～後期初頭加曾利E V式期に比定できる。



第20図 第6号竪穴建物跡実測図



第 21 図 第 6 号 縦穴建物跡出土遺物実測図

第 19 表 第 6 号 縦穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特征ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(126)	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/6 橙	LR 縄文施文後沈線・無文部磨き 沈線による横位連携弧線文	2区1x	PL13
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部無文帯	3区1x	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	外・内面磨き	覆土中	PL13
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	10YR4/1 褐灰	外・内面磨き 口縁部微隆起線に沿って刺突文	覆土中	PL13
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/6 橙	LR 縄文施文後無文部磨き 沈線による横位連携弧線文	2区1x	PL13
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR6/4 にぶい橙	微隆起線施文後 RL 縄文縦位施文 微隆起線による対向U字文	炉掘方 覆土中	PL13
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/6 明黄褐	RL 縄文施文 微隆起線による文様	P13 覆土中	

第 7 号 縦穴建物跡 (第 22・23 図 PL 4)

位置 調査区中央部の C 2 f4 区、標高 26.0 m の台地上に位置している。

規模と形状 確認面が床面のため、形状は不明だが、規模は炉やピットの配列から、長軸 5.00 m、短軸 4.90 m と推定される。

床 平坦で、部分的に踏み固められている。

炉 中央に付設されている。長径 80cm、短径 60cm ほどの楕円形で、深さ 5cm の地床炉である。第 1 層は炉内の堆積土で、炉床面は火熱を受けて赤面硬化している。

ピット 18 か所。径 20～50cm ほどの小ピットが壁際に巡る壁柱穴構造で、出入口ピットは確認できなかった。

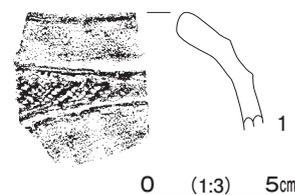
第 20 表 第 7 号 縦穴建物跡 ピット深度

番号	P 1	P 2	P 3	P 4	P 5	P 6	P 7	P 8	P 9	P 10	P 11	P 12	P 13	P 14	P 15	P 16	P 17	P 18
深さ cm	15	6	19	12	8	9	11	14	18	8	16	23	30	31	27	14	25	33

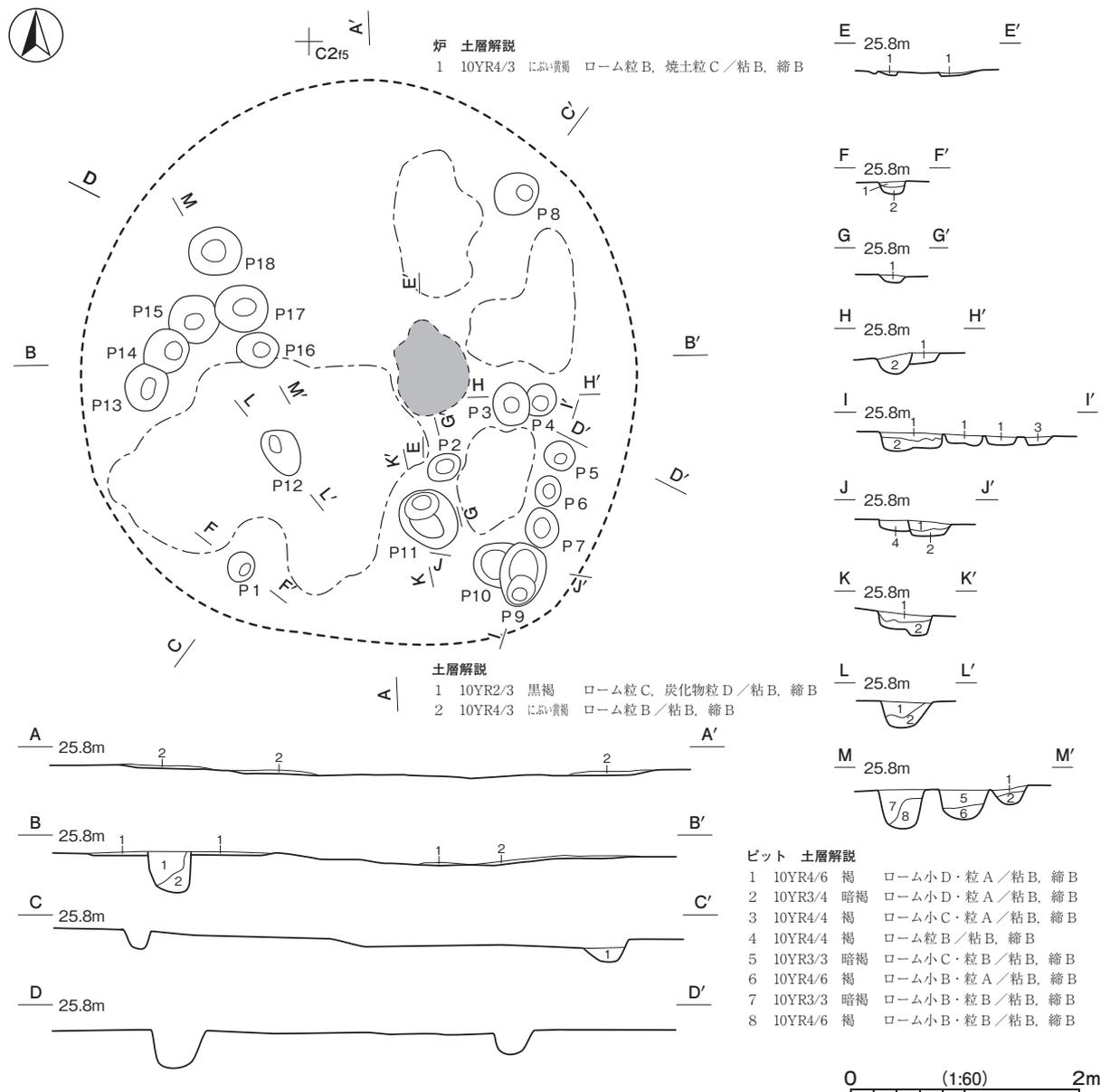
覆土 2層に分層できる。遺存状態が悪いため、堆積状況は不明である。

遺物出土状況 遺物は縄文土器 1 点 (深鉢口縁部 1) が出土している。1 は P14 の覆土中から出土している。

所見 時期は、出土遺物や遺構の形状から中期後半の加曾利 E Ⅲ式新段階～E Ⅳ式期に比定できる。



第 22 図 第 7 号 縦穴建物跡出土遺物実測図



第23図 第7号竪穴建物跡実測図

第21表 第7号竪穴建物跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 逆U字文	P 14 覆土中	PL13

第8号竪穴建物跡 (第24・25図 PL 4)

位置 調査区中央部のC 2a6区、標高25.5mの台地上に位置している。

重複関係 第3号溝に掘り込まれている。

規模と形状 北東部で壁を確認できなかったが、確認できたピットの配列から、長軸3.92m、短軸3.74mの円形である。壁高は10～15cmほどで、外傾している。

床 平坦で、中央が踏み固められている。

炉 中央部のやや西寄りに付設されている。長径90cm、短径70cmほどの楕円形で、深さ20cmの地床炉である。

第1層は炉内の堆積土で、第2・3層は埋設土器を抜き取った際の埋土と考えられる。第4～6層は掘方の埋土である。土層の堆積状況から、元は土器埋設炉の可能性があり、建物跡廃絶時に土器を抜き取ったものと考えられる。

ピット 13か所。径15～35cmほどの小ピットが壁際に巡る壁柱穴構造で、出入口ピットは確認できなかった。

第22表 第8号竪穴建物跡 ピット深度

番号	P1	P2	P3	P4	P5	P6	P7	P8	P9	P10	P11	P12	P13
深さcm	21	24	30	6	24	23	18	6	23	22	21	20	26

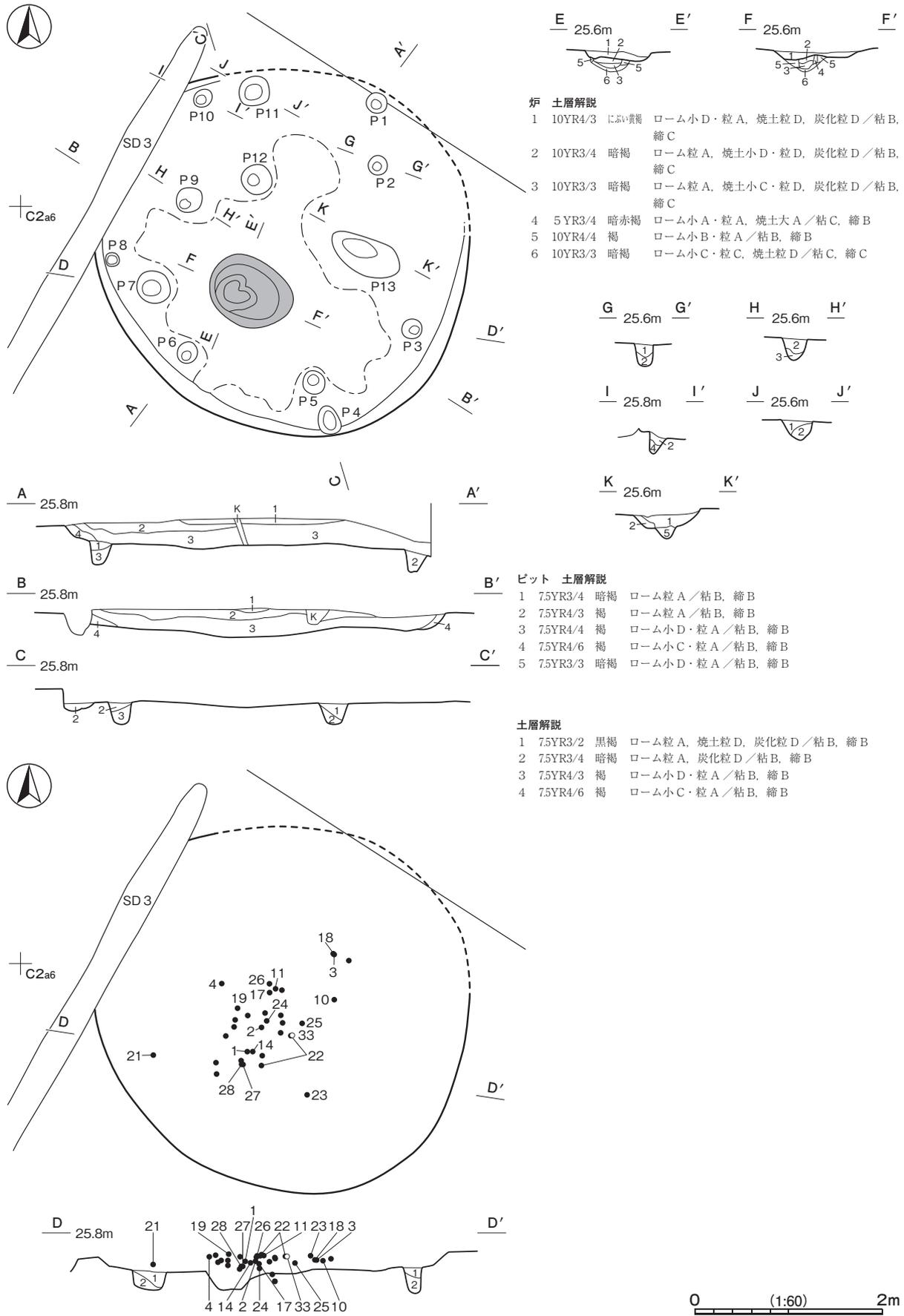
覆土 4層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積と考えられる。

遺物出土状況 縄文土器312点(深鉢口縁部41, 胴部262, 底部7, 注口2), 土製品2点(土器片錘), 石器1点(剥片)が出土している。遺物は中央の覆土下層に多く出土している。図化したものはほとんどが床面、または床面に近い覆土下層から出土している。

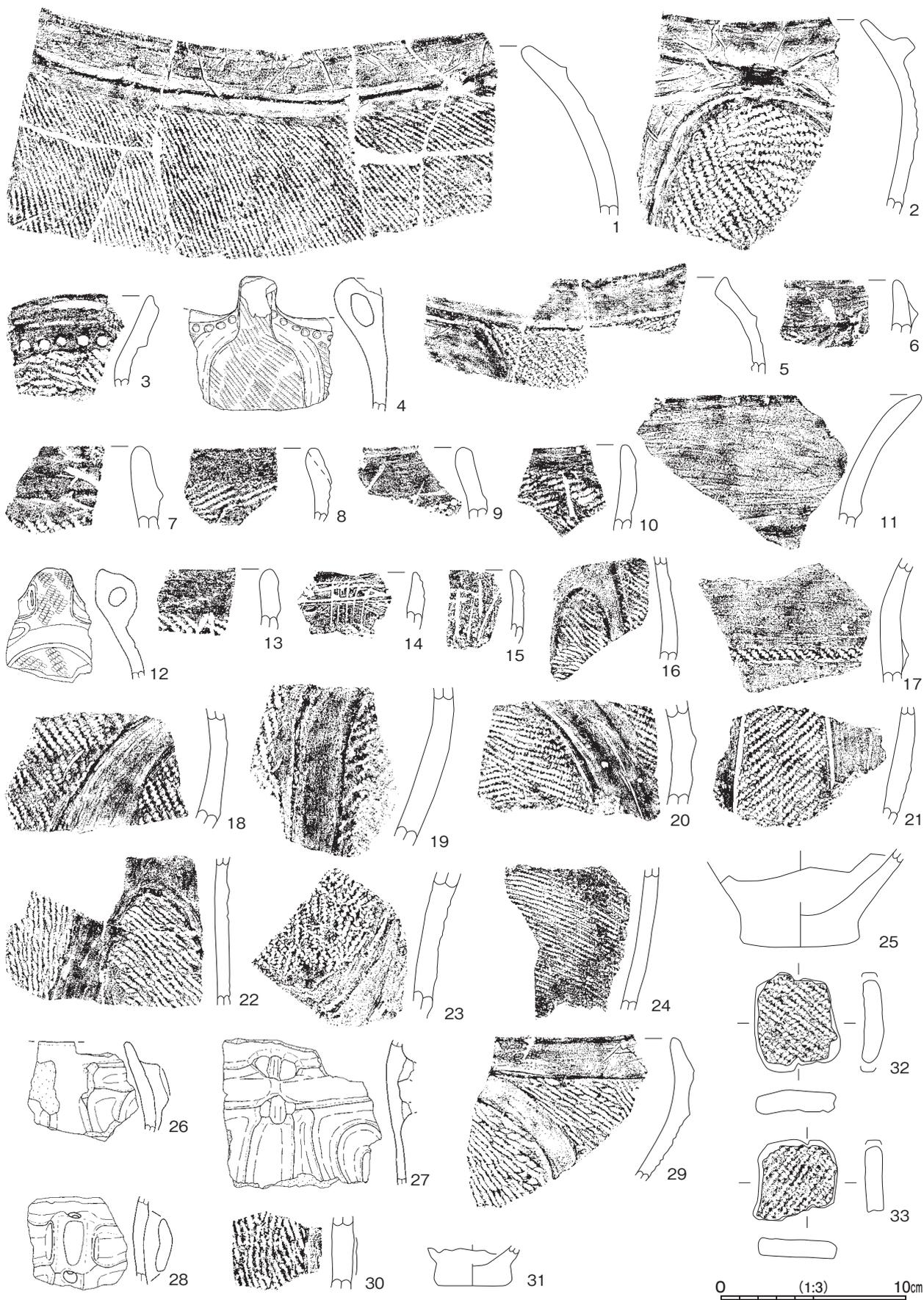
所見 時期は、出土土器から中期後半加曽利E IV式～後期初頭加曽利E V式期に比定できる。

第23表 第8号竪穴建物跡出土遺物一覧(1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	5YR6/6 橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 口縁部に無文帯	3区下層	PL13
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・黒色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	3区下層	PL13
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/3 にぶい褐	口縁部肥厚帯 円形刺突文 LR 縄文縦位施文	1区下層	PL13
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部に橋状突起 無節L 縄文縦位施文 微隆起線にも被る 微隆起線による逆U字文	4区下層	PL13
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	5YR4/6 赤褐	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	1区 覆土中	PL13
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	無節L 縄文施文。 微隆起線による逆U字文	1区 覆土中	PL13
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり	3区1x	PL13
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文	覆土中	PL13
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部無文帯 微隆起線に沿って円形刺突文	覆土中	PL13
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	7.5YR5/6 明褐	無節L 縄文縦位施文	1区下層	PL13
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	5YR7/6 橙	外・内面横位の磨き 口縁部下広く無文帯	1区下層	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部に橋状突起 RL 縄文施文 沈線による対向U字文	P2 覆土中	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	5YR5/6 明赤褐	沈線施文後 RL 縄文 沈線による対向U字文施文	2区1x	PL14
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR3/2 黒褐	櫛歯状工具による条線	3区下層	PL14
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/6 橙	縦位の沈線文	1区1x	PL14
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	無節L 縄文 微隆起線にも縄文が被る 微隆起線による対向U字文	3区1x	PL14
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	微隆起線の上に RL 縄文横位施文	4区下層	PL14
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	1区下層	PL14
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR7/3 にぶい黄橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	4区上層	PL14
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	覆土中	PL14
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR7/8 橙	沈線施文後 RL 縄文縦位施文 沈線による横位連携弧線文	3区下層	PL14
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR5/3 にぶい黄褐	無節L 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文	2区上層 3区上層	PL14
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	2区上層	PL14
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	10YR5/2 灰黄褐	LR 縄文縦位施文 漆付着	3区床面	PL14
25	縄文土器	深鉢	—	(5.2)	6.2	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	外・内面磨き 底部ナデ	1区床面	PL 9
26	縄文土器	壺形	—	—	—	長石・石英	10YR7/6 明黄褐	微隆起線による文様 橋状把手1か所	4区上層	
27	縄文土器	壺形	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	微隆起線による渦巻き状の文様施文 橋状把手1か所	3区下層	PL14
28	縄文土器	壺形	—	—	—	長石・石英	10YR3/2 黒褐	橋状把手	3区下層	PL14



第24図 第8号竪穴建物跡実測図



第 25 图 第 8 号竖穴建物迹出土遗物实测图

第 24 表 第 8 号 堅穴建物跡出土遺物一覧 (2)

番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 ほ か	出土位置	備 考
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	微隆起線施文後無節し縄文施文 微隆起線上にも縄文が被る 微隆起線による逆U字文	P13 覆土中	PL14
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/3 にぶい黄橙	微隆起線施文後無節し縄文施文 微隆起線上にも縄文が被る 微隆起線による逆U字文 29と同一	P13 覆土中	
31	縄文土器	深鉢	—	(2.3)	4.2	長石・石英	7.5YR6/6 橙	外・内・底面磨き	P13 覆土中	

番号	器 種	長さ	幅	厚さ	重量	胎 土	色 調	特 徴	出土位置	備 考
32	土器片鏝	5.4	4.7	1.3	31.6	長石・雲母	10YR6/3 にぶい黄橙	深鉢胴部片再利用 長軸側に紐かけの挟り	1区1x	PL17
33	土器片鏝	(4.4)	4.5	1.1	25.5	長石	7.5YR7/6 橙	深鉢胴部片再利用 長軸側に紐かけの挟り	2区上層	PL17

第 25 表 縄文時代の堅穴建物跡一覧

番号	位置	主軸方向	平面形	規模	壁高 (cm)	床面	壁面	内部施設			覆土	時期	備考
				長軸×短軸 (m)				主柱穴	ピット	炉			
1	C 2i1	N - 43° - W	不整 楕円形	(7.07 × 6.25)	10	平坦	外傾	-	18	中央やや 北寄り	人為	中期後半 加曾利 E III 新段階 ～ E IV 式	SK16・17・24・113 →本跡→SK10・11 ・15・18, PG 7 (P.9)
2	B 2h6	N - 50° - E	不整 楕円形	4.65 × 3.65	5～25	平坦	外傾	-	7	中央やや 北東寄り	人為	中期後半 加曾利 E IV 式	本跡→SK32, PG11 (P10・11)
3	B 3j1	N - 39° - E	[隅丸方形] [隅丸 長方形]	(3.71 × 3.62)	21	平坦	外傾 緩斜	-	5	中央	人為	中期後半～ 後期初頭 加曾利 E IV～V 式	
4	B 2e7	-	不明	[4.50 × 3.10]	-	平坦	-	-	-	中央	人為	中期後半～ 後期初頭 加曾利 E IV～V 式	
5	C 3c2	-	円形	5.88 × 5.55	26～50	平坦	ほぼ 直立	4	12	中央	人為	中期後半～ 後期初頭 加曾利 E III 新段階 ～ E V 式	
6	C 2b7	-	不明	[4.40 × 4.20]	-	平坦	-	-	14	中央	-	中期後半～ 後期初頭 加曾利 E IV～V 式	SK109 重複新旧不明
7	C 2f4	-	不明	[5.00 × 4.90]	-	平坦	-	-	18	-	-	中期後半 加曾利 E III 新段階 ～ E IV 式	
8	C 2a6	-	[円形]	(3.92 × 3.74)	10～15	平坦	外傾	-	13	中央やや 西寄り	自然	中期後半～ 後期初頭 加曾利 E IV～V 式	本跡→SD 3

(2) 炉跡

当時代の炉跡を 3 基確認した。径 70～200cm ほどの楕円形の掘り込みであるが、炉 1・2 は明確な炉床面は捉えられなかった。また、いずれの炉も周辺にピットや硬化面が見られなかったことから建物跡に伴うものかは不明である。炉内からの出土遺物から堅穴建物跡とほぼ同時期の中期後半加曾利 E IV 式のものが主流である。

第 1 号炉跡(第 27 図 PL 5)

位置 調査区北部の B 2 h6 区、標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.72 m、短径 0.56 m の楕円形である。長径方向は N - 5° - E である。深さは 13cm で、炉床は平坦である。

覆土 3 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

所見 時期は形状や他の遺構との関係から中期後半加曾利 E IV 式期に比定できる。

第2号炉跡 (第26・27図 PL 5)

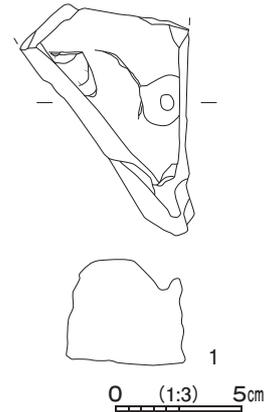
位置 調査区北部の B 2g7 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 攪乱を受けており, 南北径 0.92 m, 東西径 0.54 m しか確認できなかった。長径方向は N - 21° - W である。深さは 20cm で, 炉床はほぼ平坦である。

覆土 3層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 石器1点(石皿)が覆土中から出土している。

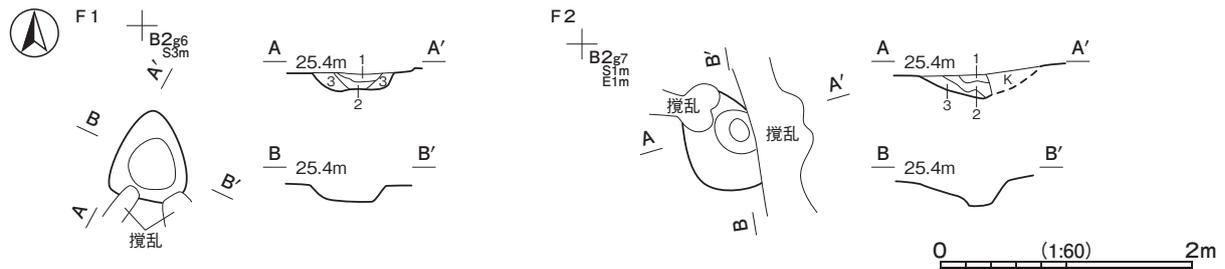
所見 時期は形状や他の遺構との関連から中期後半 E IV 式期に比定できる。



第26図 第2号炉跡出土遺物実測図

第26表 第2号炉跡出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
1	石皿	(9.1)	(6.9)	(4.2)	308.0	雲母片麻岩	表面に磨り面と窪み1か所	覆土中	



第1号炉跡 土層解説

- 1 10YR3/2 黒褐 焼土粒 C / 粘 B, 締 B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小 C, 焼土小 B / 粘 B, 締 B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒 A / 粘 B, 締 B

第2号炉跡 土層解説

- 1 7.5YR3/3 暗褐 ローム小 C, 焼土粒 A / 粘 B, 締 B
- 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム小 B, 焼土小 C・粒 A, 炭化粒 D / 粘 B, 締 B
- 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム小 A / 粘 B, 締 B

第27図 第1・2号炉跡実測図

第3号炉跡 (第28図)

位置 調査区中央部の C 2f4 区, 標高 26.0 m の台地上に位置している。

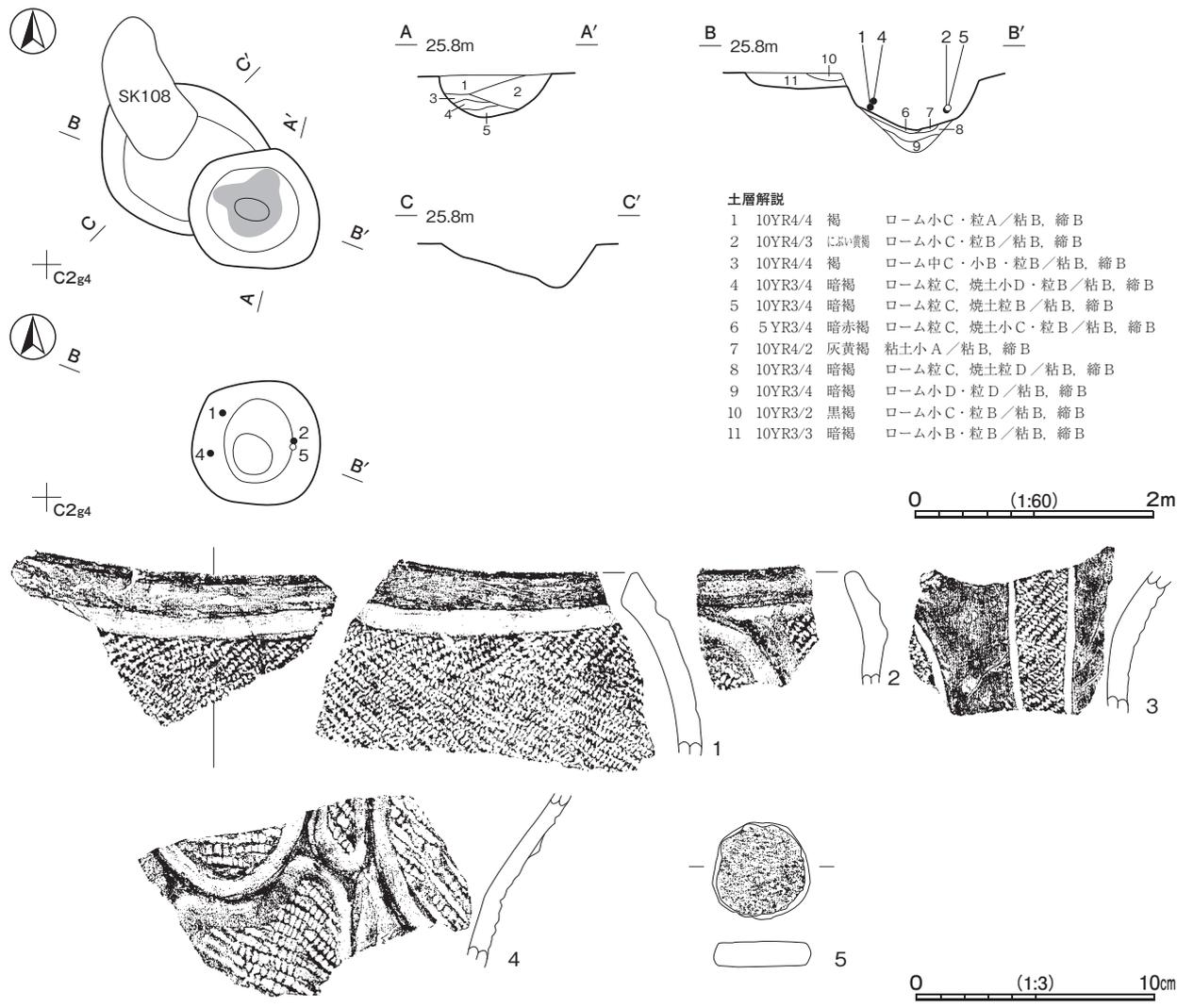
重複関係 第108号土坑に掘り込まれている。

規模と形状 長径 2.06 m, 短径 1.26 m の楕円形である。長径方向は N - 54° - W である。深さは 61cm で, 炉床面は皿状である。

覆土 11層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。第6層は灰が少量混じり, 火床面と推測される。

遺物出土状況 縄文土器 59点 (深鉢口縁部 4, 胴部 55), 土製品 1点 (土器片円盤) が出土している。

所見 時期は出土土器から中期後半 E IV 式期に比定できる。性格は, 一般的にこの時期の竪穴建物跡は掘り込みが浅く, ピットも不規則で, 建物跡が捉えにくい場合が多いことから, 本来は屋外炉より竪穴建物跡に帰属していたものと考えられる。



第28図 第3号炉跡・出土遺物実測図

第27表 第3号炉跡出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 におい橙	口縁部下に無文部 LR 縄文縦位施文	覆土中	PL16
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR6/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	覆土中	PL16
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/4 におい橙	RL 縄文充填後無文部磨き 沈線による対向U字文	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR6/6 橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
5	土器片 円盤	4.0	4.0	1.1	24.5	長石	7.5YR4/3 褐	側縁全周研磨	覆土中	PL17

第28表 縄文時代の炉跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	B 2h6	N - 5° - E	[楕円形]	0.72 × 0.56	13	平坦	外傾緩斜	自然	—	
2	B 2g7	N - 21° - W	[楕円形]	(0.92 × 0.54)	20	平坦	外傾緩斜	自然	石器 (石皿)	
3	C 2f4	N - 54° - W	楕円形	2.06 × 1.26	61	皿状	外傾	人為	縄文土器 (深鉢), 土製品 (土器片円盤)	本跡→SK108

(3) 土坑

当時代の土坑を 56 基確認した。このうち形状や出土遺物量が多い 16 基について取り上げて記述し、他は実測図と計測表を掲載する。

第 4 号土坑 (第 29・30 図 PL 5)

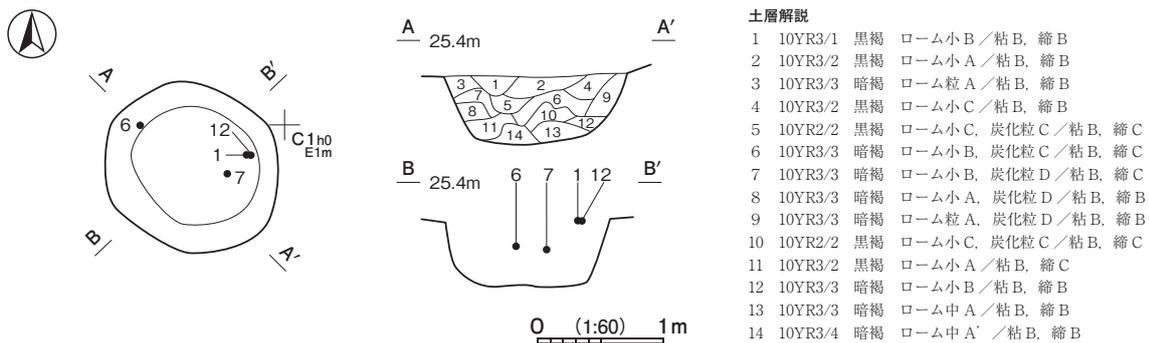
位置 調査区南部の C 1 h0 区、標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.45 m、短径 1.28 m の楕円形で、長径方向は N - 45° - W である。深さは 52cm で、底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 14 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 330 点(深鉢口縁部 47, 胴部 280, 壺形胴部 2, 台付鉢脚部 1), 土製品 3 点(土器片錘 1, 土器片円盤 2), 石器 1 点(剥片)が出土している。遺物は覆土中からまんべんなく出土しているが、大形破片は、覆土中層から上層にかけて多く出土している。6 は北西壁際の覆土中層, 7 は東部の覆土中層, 1 と 12 は東壁寄りの覆土上層のほぼ同一地点からそれぞれ出土している。

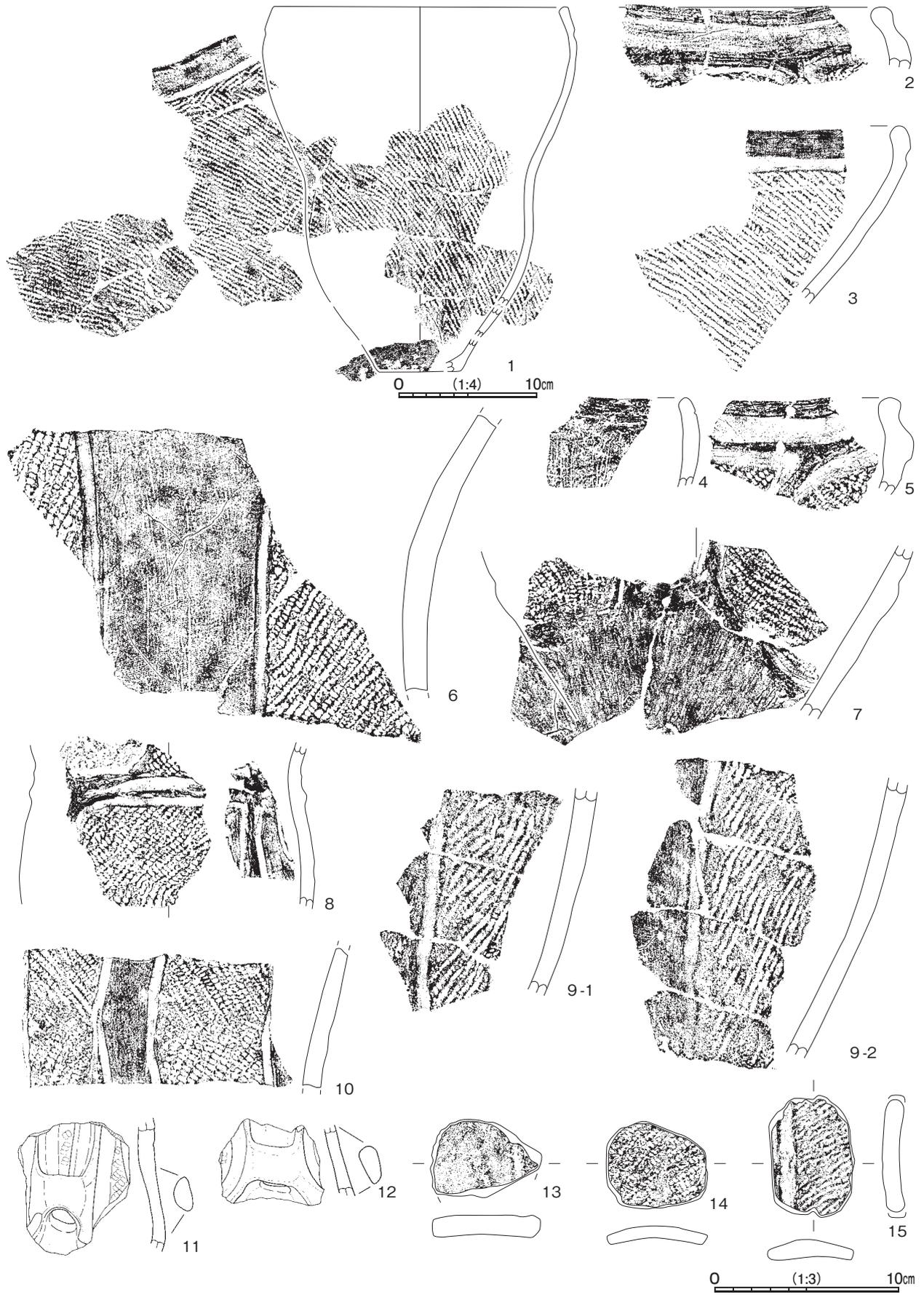
所見 時期は、出土土器から中期後半加曾利 E IV 式期に比定できる。



第 29 図 第 4 号土坑実測図

第 29 表 第 4 号土坑出土遺物一覧 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[21.0]	(26.2)	[5.8]	長石・石英・雲母・赤色粒子	5YR5/4 におい赤褐	口縁部下に無文帯 無節 L 縄文縦位施文	東壁 覆土上層	25% PL 9
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・赤色粒子	5YR3/2 暗赤褐	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり キャリパー型の口縁部	覆土中	PL14
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR5/3 におい褐	口縁部下無文帯 LR 縄文縦位施文	覆土中	PL14
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR5/8 明赤褐	口縁部下無文帯 胴部櫛歯状工具による条線	覆土中	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	5YR6/8 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり キャリパー型の口縁部	覆土中	PL14
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	5YR5/6 明赤褐	LR 縄文横位施文後沈線内磨き 幅広い磨消縄文 キャリパー型の胴部	北西壁 覆土中層	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英	5YR4/8 赤褐	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向 U 字文系	東部 覆土中層	
8	縄文土器	深鉢	—	(9.1)	—	長石・雲母	5YR6/6 橙	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇沈線施文 微隆起線による渦巻文施文	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	5YR5/4 におい赤褐	RL 縄文施文後沈線内磨き キャリパー型の胴部或いは磨消縄文による対向 U 字文	覆土中	PL14
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	RL 縄文と LR 縄文の異原体による羽状縄文施文後沈線内磨き キャリパー型の胴部或いは磨消縄文による対向 U 字文	覆土中	
11	縄文土器	壺形	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR5/4 におい赤褐	橋状把手部分 RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり	覆土中	
12	縄文土器	壺形	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR5/6 黄褐	橋状把手部分	東壁 覆土上層	



第 30 图 第 4 号土坑出土遗物实测图

第 30 表 第 4 号土坑出土遺物一覧 (2)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
13	土器片 円盤	(4.3)	6.0	1.3	33.5	長石・雲母・ 赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい橙	左側縁の一部のみ研磨	覆土中	
14	土器片 円盤	4.2	5.5	1.1	23.8	長石・雲母	7.5YR5/3 にぶい褐	側縁全周研磨	覆土中	
15	土器片 鉢	6.6	4.8	1.3	37.1	長石・石英・ 赤色粒子	7.5YR4/1 褐灰	深鉢口縁部破片を再利用 長軸側に紐かけの抉り	覆土中	PL17

第 8 号土坑 (第 31・32 図 PL 5)

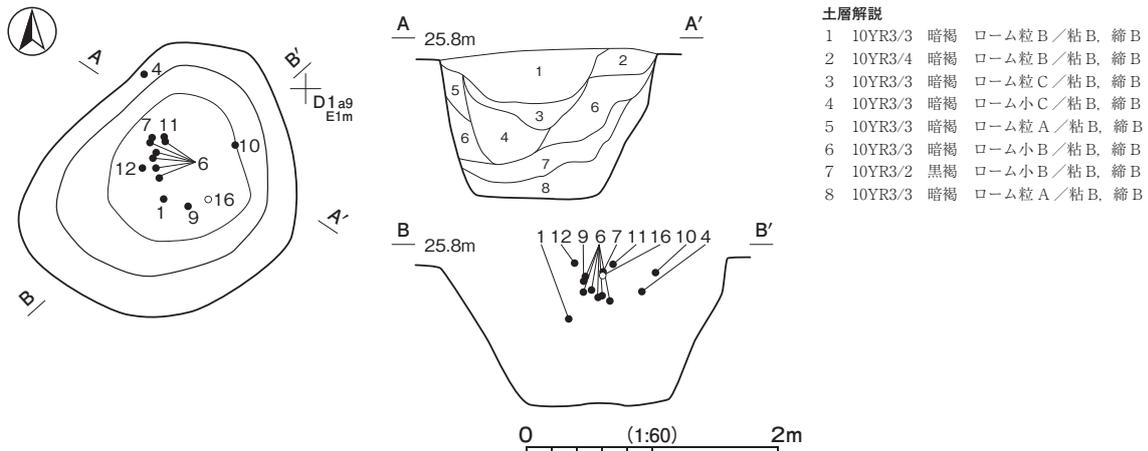
位置 調査区南部の D 1 a9 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 2.31 m, 短径 1.85 m の楕円形で, 長径方向は N - 35° - E である。深さは 112cm で, 底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 8 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 228 点 (深鉢口縁部 11, 胴部 210, 底部 6, 蓋 1), 土製品 3 点 (土器片円盤 2, 有孔円盤 1) が出土している。遺物は覆土中からまんべんなく出土しているが, 大形破片は, 中央の覆土中層から上層にかけて多く出土している。1 は中央部覆土中層, 6・7・9・11・12 は中央の覆土上層からまとめて出土している。4 は北壁寄りの覆土上層, 10 は東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

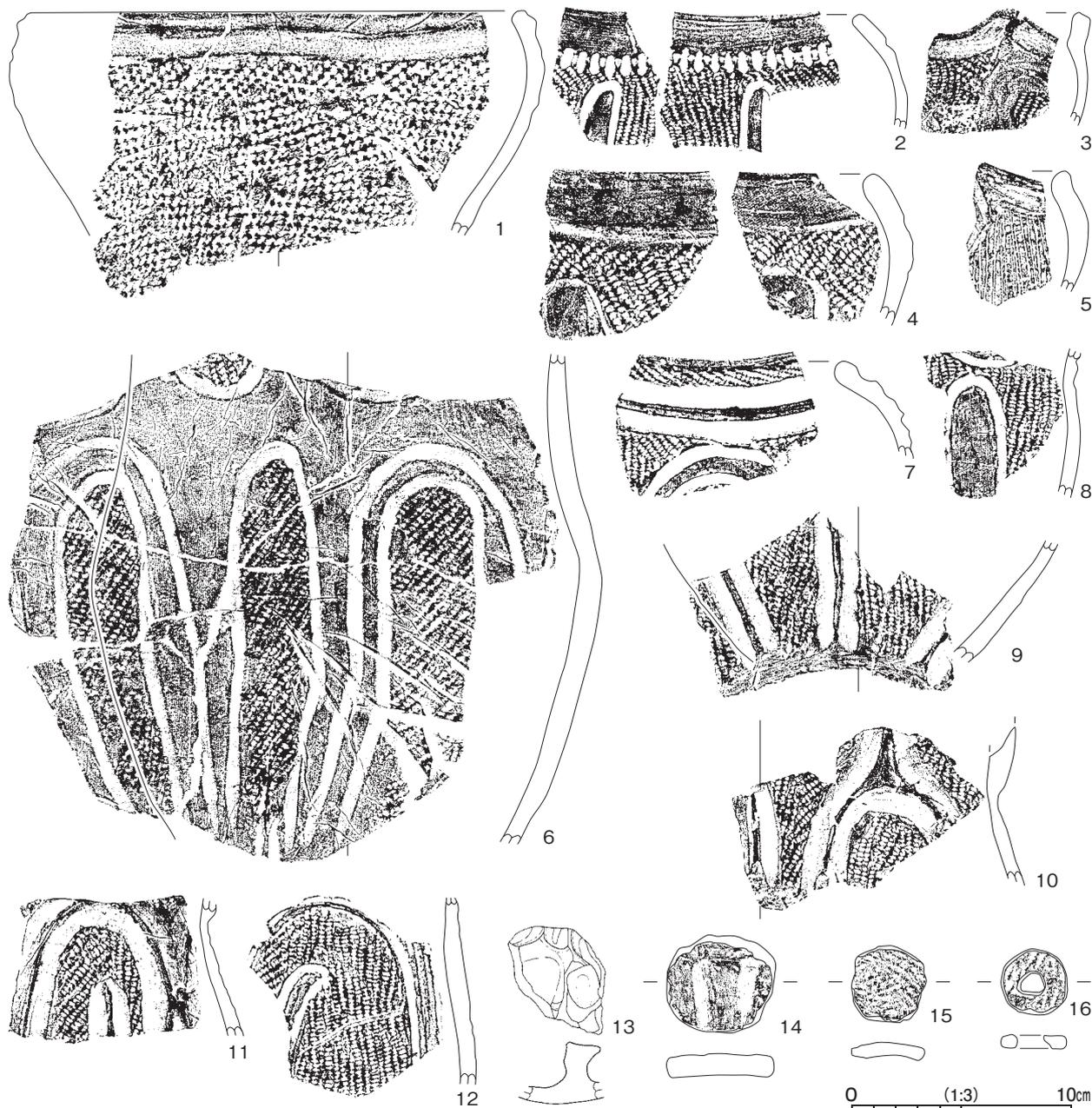
所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E Ⅲ 式新段階期に比定できる。



第 31 図 第 8 号土坑実測図

第 31 表 第 8 号土坑出土遺物一覧 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[22.6]	(10.3)	—	長石・雲母	5YR6/8 橙	口縁部下強いナデによる微隆起線 0 段 3 条の LR 縄文横位施文	中央部 覆土中層	10% PL14
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・黒色粒子	5YR5/4	RL 縄文施文後沈線内磨き 沈線による横位連携弧線文	覆土中	PL14
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英	5YR5/6 明赤褐	緩い波状口縁 RL 縄文施文後凹線内なぞり 渦巻文	覆土中	PL14
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	5YR3/2 暗赤褐	LR 縄文施文後沈線内磨き 沈線による横位連携弧線文	北壁 覆土上層	PL14
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 角閃石	5YR7/4 にぶい橙	鋭い工具による縦位沈線施文後沈線内磨き 緩い波状口縁	覆土中	PL14
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR6/6 橙	RL 縄文横位施文後沈線内磨き 沈線による横位連携弧線文	中央部 覆土上層	10% PL 9
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	7.5YR4/2 灰褐	RL 縄文施文後沈線内磨き 沈線による渦巻文	中央部 覆土上層	PL14
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	7.5YR4/3 褐	RL 縄文横位施文後無沈線内磨き 沈線による横位連携弧線文	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	5YR7/8 橙	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・細礫	5YR6/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	東壁 覆土上層	



第32図 第8号土坑出土遺物実測図

第32表 第8号土坑出土遺物一覧(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特征ほか	出土位置	備考
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR3/2 黒褐	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	PL14
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	7.5YR8/6 浅黄橙	RL 縄文施文後沈線内磨き 沈線による渦巻文	中央部 覆土上層	
13	縄文土器	蓋	—	—	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	微隆起線による施文 内面やや凸	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
14	土器片 円盤	4.5	4.9	1.1	30.0	長石・雲母	7.5YR5/4 にぶい褐	側縁全周研磨	覆土中	PL17
15	土器片 円盤	3.5	3.4	0.8	10.7	石英・雲母	7.5YR4/3 褐	敲打による成形 下端部のみ側縁研磨	覆土中	
16	有孔円盤	3.1	3.0	0.6	6.2	長石	7.5YR5/4 にぶい褐	側縁全周研磨 裏面からの穿孔	中央部 覆土上層	PL17

第 14 号土坑 (第 33 図 PL 5)

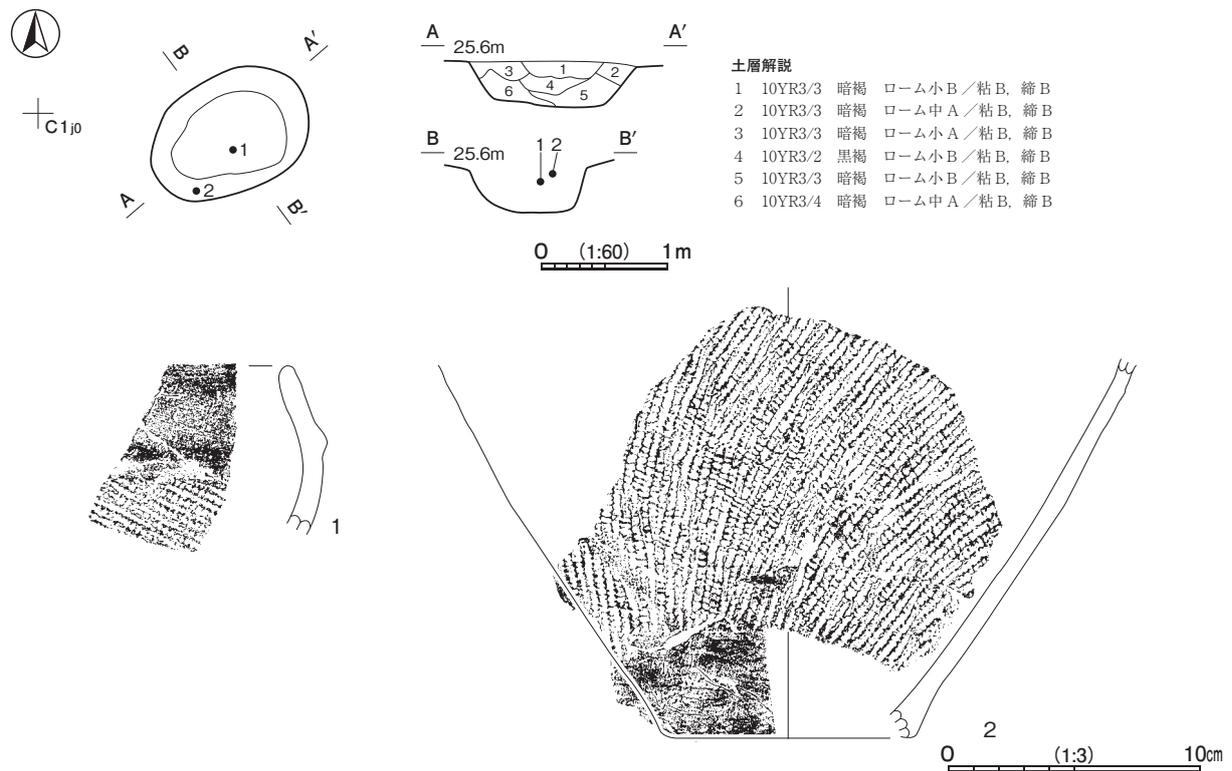
位置 調査区南部の C 1j0 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.34 m, 短径 0.95 m の楕円形で, 長径方向は N - 55° - E である。深さは 35cm で, 底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 6 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 3 点 (深鉢口縁部 1, 胴部 2) が出土している。1 は中央の覆土中層, 2 は南壁の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E IV 式~後期初頭加曾利 E V 式期に比定できる。



第 33 図 第 14 号土坑・出土遺物実測図

第 33 表 第 14 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英・雲母	5YR6/6 橙	口縁部下無文帯 LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なきり	中央部 覆土中層	PL15
2	縄文土器	深鉢	—	(15.0)	[9.8]	長石・雲母	2.5YR6/8 橙	RL 縄文縦位施文 下端部磨き	南壁 覆土上層	10%

第 25・29 号土坑 (第 34 図 PL 5)

位置 調査区北部の B 2g4 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

重複関係 第 25 号土坑は, 第 29 号土坑を掘り込んでいる。

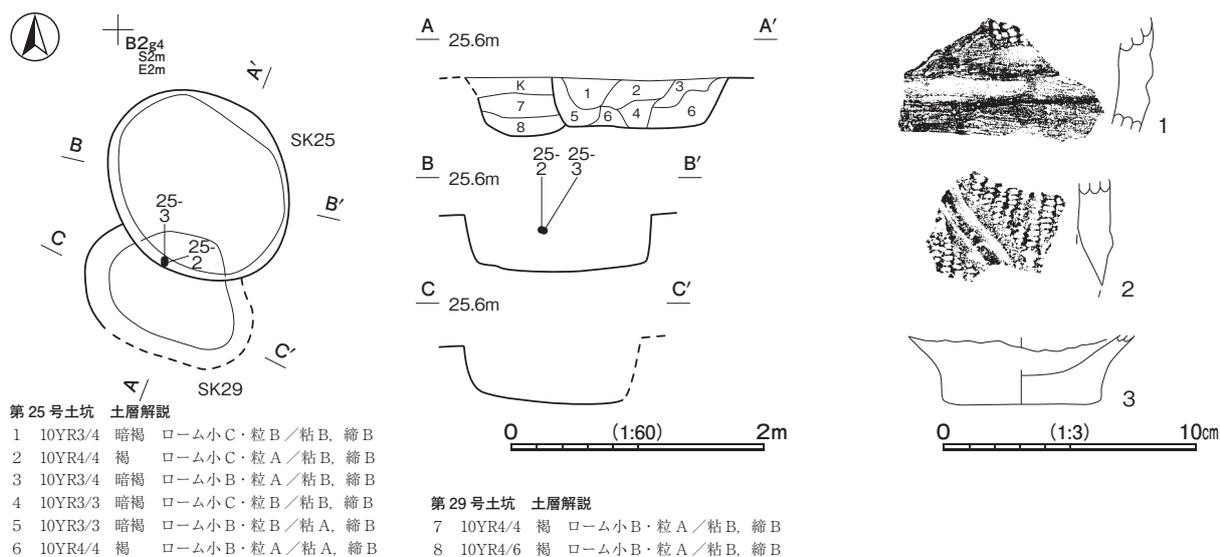
規模と形状 第 25 号土坑は長径 1.65 m, 短径 1.35 m の楕円形で, 長径方向は N - 36° - W である。深さは 45cm で, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。第 29 号土坑は長径 1.45 m と推定される。短径は第 25 号土坑に掘り込まれているため, 1.18 m ほどしか確認できなかった。長径方向は N - 53° - W である。深さは 49cm で,

底面は平坦である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 第25号土坑は6層，第29号土坑は2層に分層できる。両遺構ともロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 第25号土坑からは縄文土器9点（深鉢胴部8，底部1）が出土している。2・3は南壁の覆土上層からそれぞれ出土している。第29号土坑からは縄文土器23点（深鉢胴部）が出土している。

所見 時期は，両遺構に大きな時期差は見られず，出土土器や遺構の形状から中期後半加曽利E IV式期に比定できる。



第34図 第25・29号土坑，第25号土坑出土遺物実測図

第34表 第25号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・黒色粒子	7.5YR8/6 浅黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 キャリパー型	覆土中	
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	7.5YR8/4 浅黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 巻文	南壁 覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	—	(2.8)	6.3	長石・雲母	5YR5/4 にぶい赤褐	外・内・底面磨き	南壁 覆土上層	

第32号土坑（第35図）

位置 調査区北部のB 2h6区，標高25.5mの台地上に位置している。

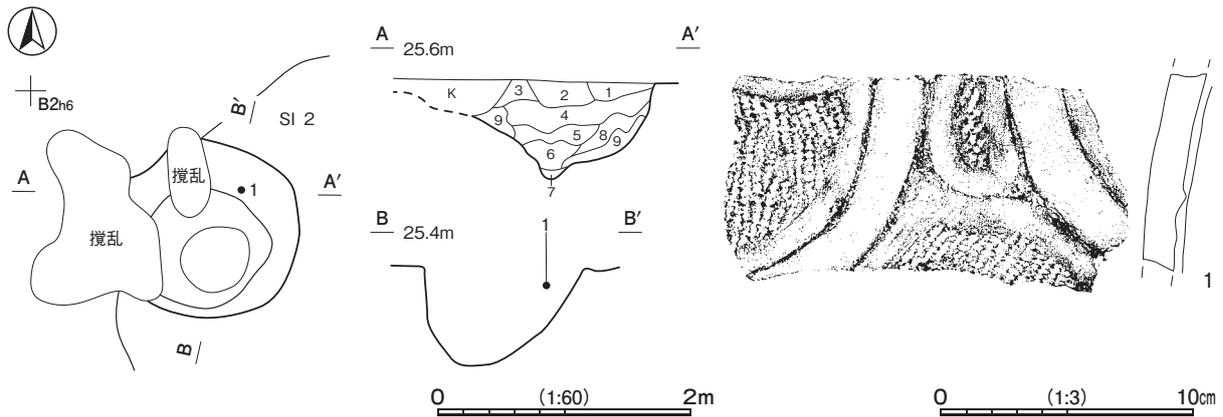
重複関係 第2号竪穴建物跡を掘り込んでいる。

規模と形状 長径1.42m，短径1.40mの不整円形である。深さは78cmで，底面は皿状である。壁は外傾して立ち上がっている。

覆土 9層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから，埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器1点（深鉢胴部）が出土している。1は北壁寄りの覆土上層から出土している。

所見 時期は，出土土器と他の遺構との関係から中期後半加曽利E IV式期に比定できる。



土層解説

- | | | | |
|--------------|----------------------|--------------|----------------|
| 1 10YR3/2 黒褐 | ローム小C / 粘B, 締B | 6 10YR2/1 黒 | ローム中A / 粘B, 締B |
| 2 10YR3/3 暗褐 | ローム小B / 粘B, 締B | 7 10YR3/3 暗褐 | ローム小A / 粘B, 締C |
| 3 10YR3/2 黒褐 | ローム小C, 焼土粒D / 粘B, 締B | 8 10YR3/3 暗褐 | ローム粒A / 粘B, 締B |
| 4 75YR2/2 黒褐 | ローム中B / 粘B, 締B | 9 10YR3/3 暗褐 | ローム小A / 粘B, 締B |
| 5 10YR2/1 黒 | ローム中C / 粘B, 締B | | |

第 35 図 第 32 号土坑・出土遺物実測図

第 35 表 第 32 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・雲母	7.5YR6/6 橙	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	北壁 覆土上層	

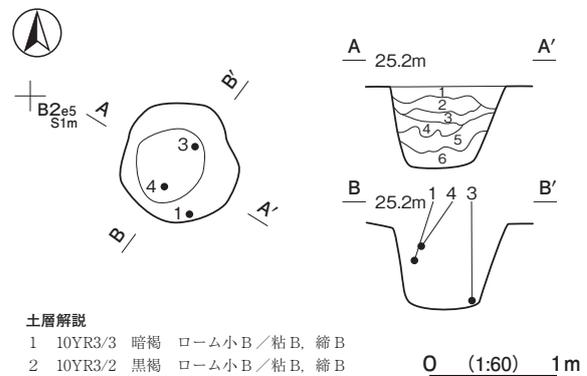
第 33 号土坑(第 36・37 図 PL 6)

位置 調査区北部の B 2 e5 区, 標高 25.0 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 0.95 m, 短径 0.94 m の円形である。深さは 66cm で, 底面はほぼ平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 6 層に分層できる。レンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。

遺物出土状況 縄文土器 63 点(深鉢口縁部 3, 胴部 59, 底部 1) が出土している。3 は北壁寄りの床面, 1・4 は南壁寄りの覆土中層の, ほぼ同一地点から出土した。



土層解説

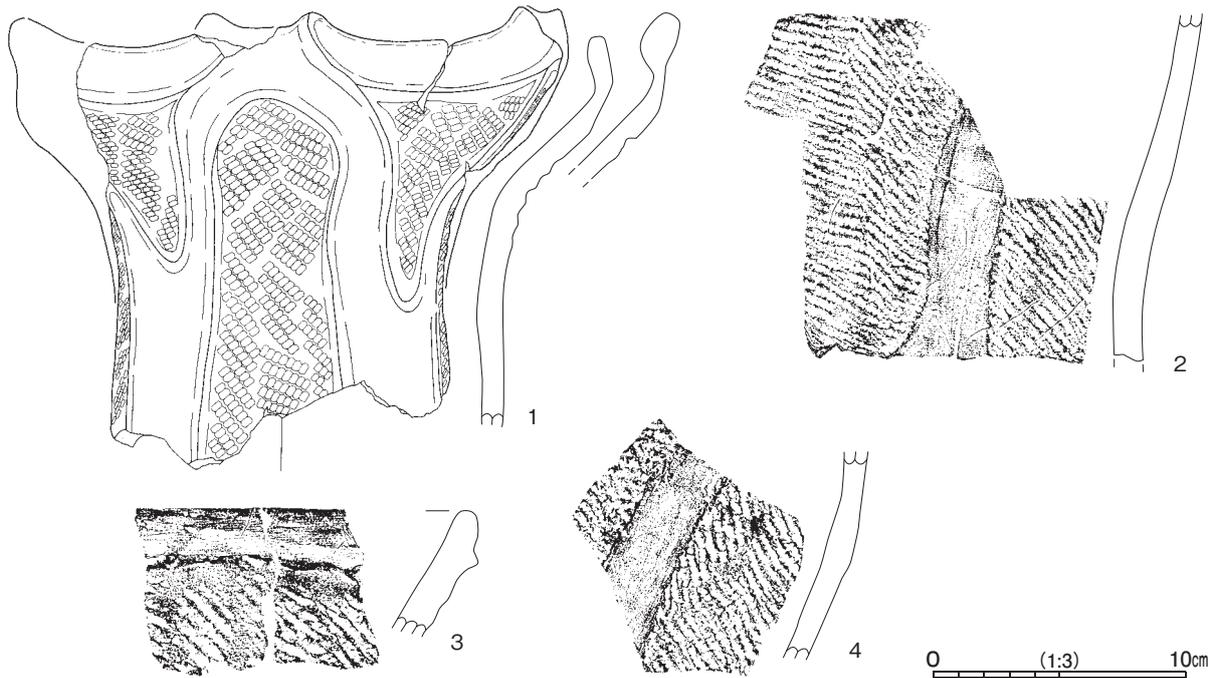
- | | |
|--------------|----------------|
| 1 10YR3/3 暗褐 | ローム小B / 粘B, 締B |
| 2 10YR3/2 黒褐 | ローム小B / 粘B, 締B |
| 3 10YR3/3 暗褐 | ローム小C / 粘B, 締B |
| 4 10YR2/2 黒褐 | ローム小C / 粘B, 締B |
| 5 10YR2/1 黒 | ローム中C / 粘B, 締B |
| 6 10YR2/2 黒褐 | ローム小B / 粘B, 締B |

第 36 図 第 33 号土坑実測図

所見 時期は, 出土土器から後期初頭加曾利 E V 式期に比定できる。

第 36 表 第 33 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[224]	(18.0)	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/3 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文 微隆起線による対向 U 字文	南壁 覆土中層	20% PL 9
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・赤色粒子	5YR7/6 橙	無節 L 縄文縦位施文 微隆起線上にも縄文が被る 微隆起線による逆 U 字文	覆土中	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR4/3 褐	口縁部下に微隆起線 無節 L 縄文縦位施文	北壁床面	PL15
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR4/3 褐	無節 L 縄文縦位施文 微隆起線上にも縄文が被る 微隆起線による逆 U 字文	南壁 覆土中層	



第 37 図 第 33 号土坑出土遺物実測図

第 36 号土坑 (第 38・39 図 PL 6)

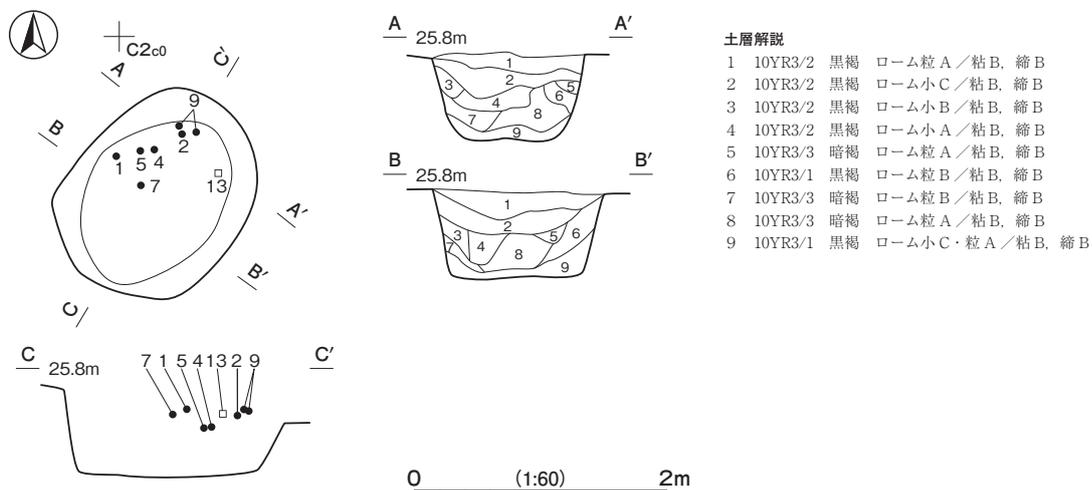
位置 調査区中央部の C 2c0 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.76 m, 短径 1.36 m の楕円形で, 長径方向は N - 41° - E である。深さは 70cm, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

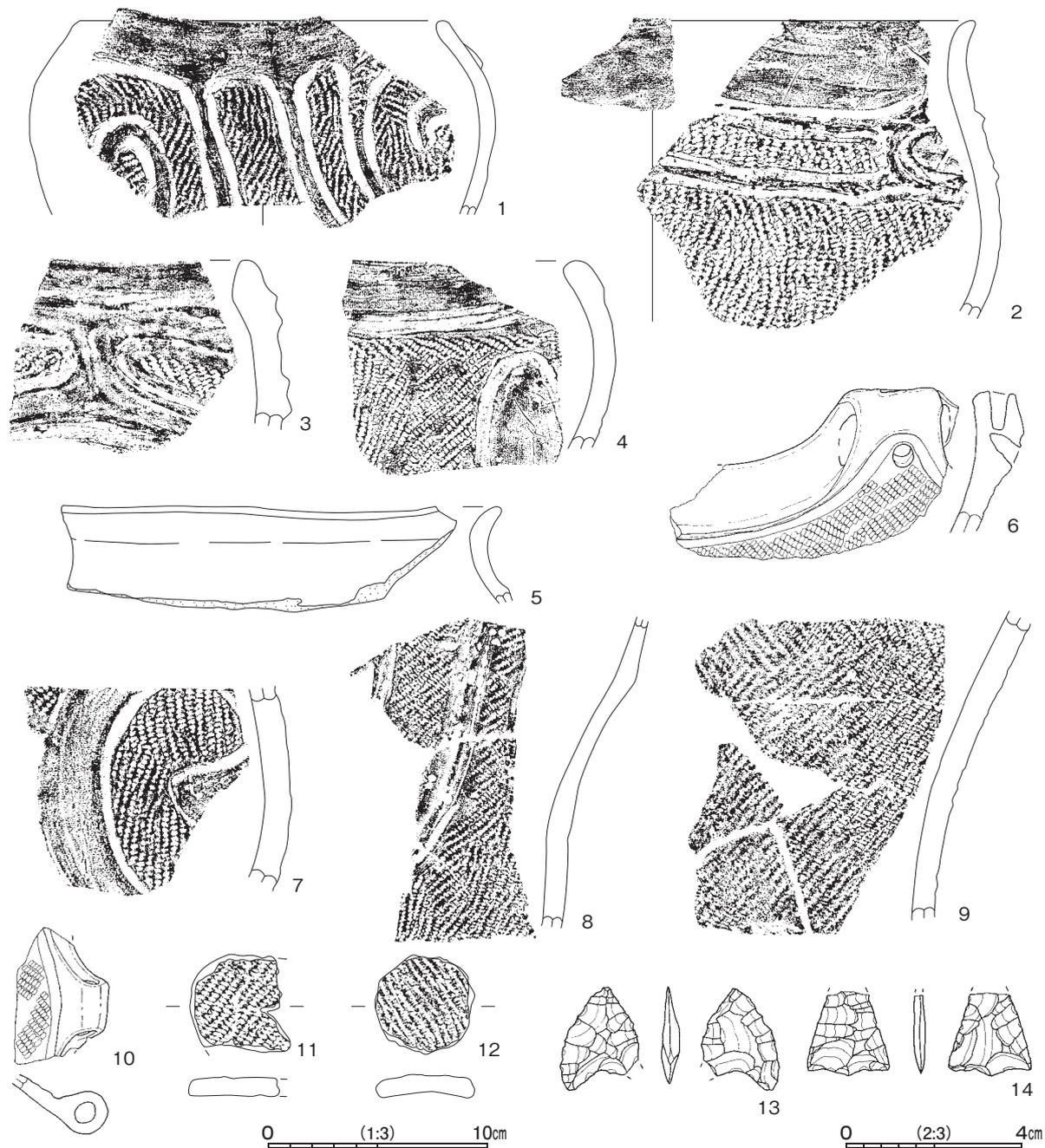
覆土 9層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 197 点 (深鉢口縁部 20, 胴部 172, 底部 4, 蓋 1), 土製品 2 点 (土器片円盤), 石器 3 点 (剥片 1, 石鏃 2) が出土している。遺物は覆土中からまんべんなく出土しているが, 大形破片は, 中央の覆土中層から上層にかけて多く出土している。1・2・4・5・9 は北部, 7 は中央部, 13 は東壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E Ⅲ式新段階期に比定できる。



第 38 図 第 36 号土坑実測図



第 39 図 第 36 号土坑出土遺物実測図

第 37 表 第 36 号土坑出土遺物一覧 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[16.6]	(8.9)	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	北部 覆土上層	20% PL15
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部下に広く無文帯 RL 縄文横位施文後微隆起線脇沈線	北部 覆土上層	PL15
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR5/4 にぶい褐	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	覆土中	PL15
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後沈線 沈線による横位連携弧線文	北部 覆土上層	PL15
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい黄橙	外・内面横位の磨き キャリバー形	北部 覆土上層	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文横位施文	覆土中	PL15
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	覆土中	

第 38 表 第 36 号土坑出土遺物一覧 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・角閃石	2.5Y6/4 におい橙	上部 RL 縄文横位施文 下部 RL 縄文縦位施文	北部 覆土上層	PL15
10	縄文土器	蓋 <small>カ</small>	—	—	—	長石・石英	2.5Y7/3 浅黄	無節 R 縄文施文 内面凹状	覆土中	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
11	土器片 円盤	(4.4)	(4.6)	0.9	21.8	長石・雲母	7.5YR6/4 におい橙	左側縁部のみ研磨 裏面に未貫通の孔あり 有孔円盤の未成品。	覆土中	
12	土器片 円盤	4.5	4.5	1.0	21.2	長石・赤色粒子	7.5YR7/3 におい橙	周縁敲打による成形で研磨は弱い	覆土中	PL17

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
13	石鏃	2.4	1.8	0.4	1.3	チャート	無茎鏃 左脚部が欠損	西壁 覆土上層	PL17
14	石鏃	(1.9)	1.8	0.3	1.2	チャート	茎部が短く張り出す 先端部欠損	覆土中	PL17

第 38 号土坑 (第 40 図 PL 6)

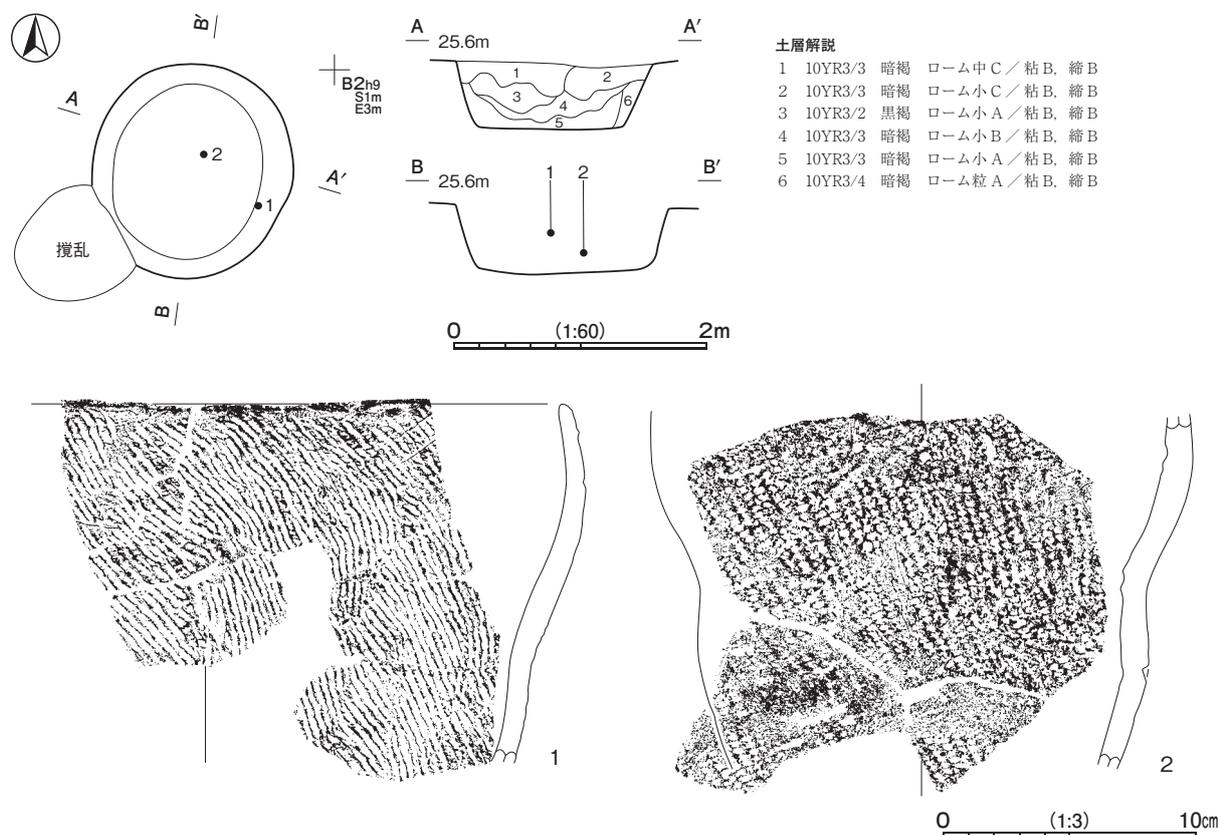
位置 調査区北部の B 2h9 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.72 m, 短径 1.55 m の楕円形で, 長径方向は N - 10° - E である。深さは 52cm, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 6層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 7 点 (深鉢口縁部 1, 胴部 6) が出土している。2 は中央の覆土下層, 1 は東壁際の覆土中層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E III 式新段階 ~ E IV 式期に比定できる。



第 40 図 第 38 号土坑・出土遺物実測図

第 39 表 第 38 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[28.2]	(14.2)	—	長石・石英・雲母	5YR6/6 橙	無節 L 縦位施文	東壁 覆土中層	10% PL15
2	縄文土器	深鉢	—	(13.9)	—	長石・石英・ 赤色粒子	7.5YR7/4 にぶい橙	RL 縄文横位施文	中央部 覆土下層	10%

第 39 号土坑 (第 41 図 PL 6)

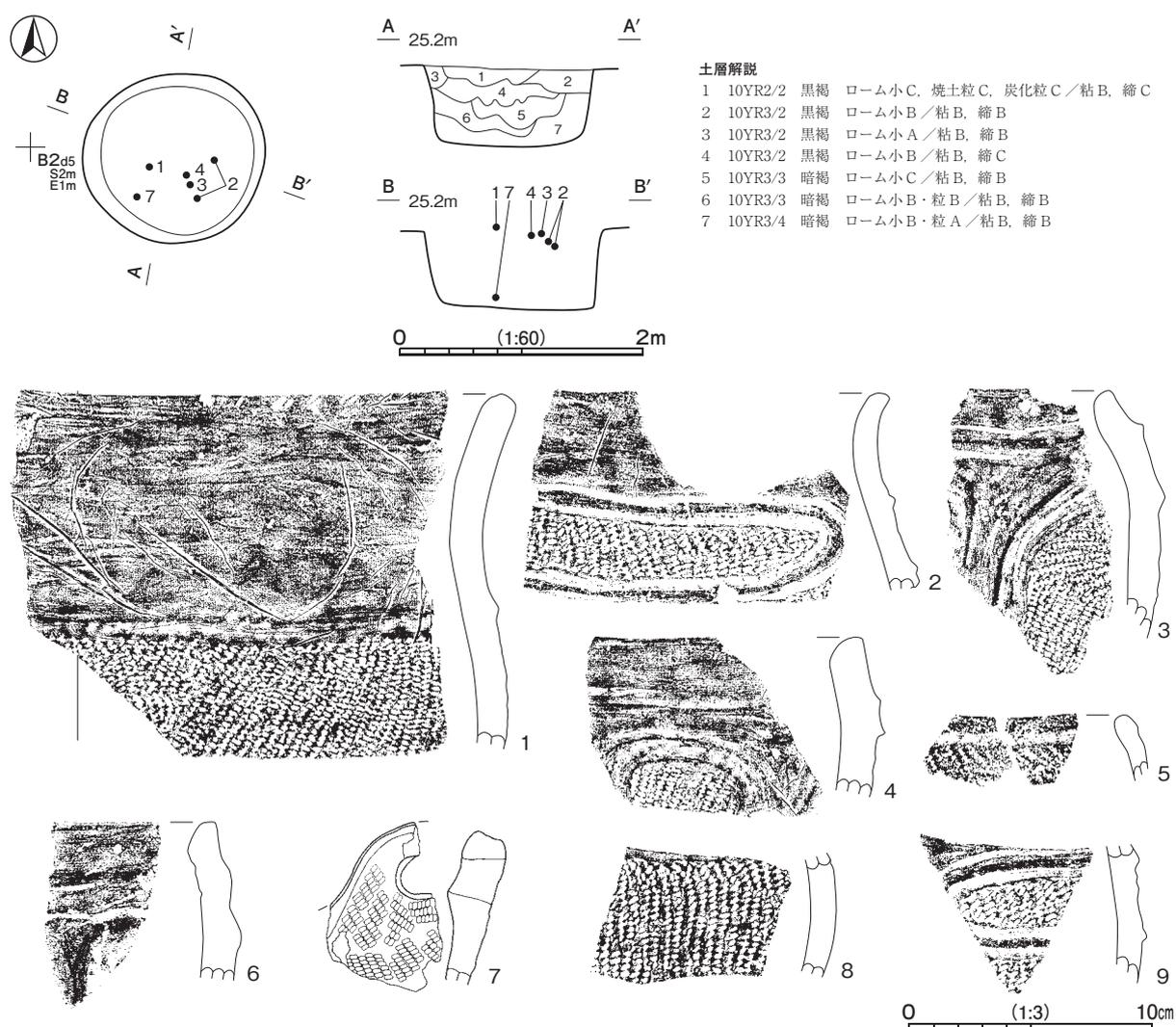
位置 調査区北部の B 2 d5 区, 標高 25.0 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.50 m, 短径 1.40 m の円形である。深さは 65 cm で, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 7 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 20 点 (深鉢口縁部 7, 胴部 13) が出土している。7 は中央の覆土下層, 1 ~ 4 は中央の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E IV 式期に比定できる。



第 41 図 第 39 号土坑・出土遺物実測図

第 40 表 第 39 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	両耳壺 ₉	[39.6]	(14.6)	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部下に広く無文帯 LR 縄文横位施文	中央部 覆土上層	PL15
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/3 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 両耳壺 ₉	中央部 覆土上層	PL15
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/4 にぶい黄褐	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線	中央部 覆土上層	PL15
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり	中央部 覆土上層	PL15
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文 摩滅著しい	覆土中	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	10YR5/2 灰黄褐	微隆起線による渦巻文 ₉	覆土中	PL15
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	2.5Y4/1 黄灰	波状口縁 LR 縄文縦位施文	中央部 覆土下層	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/3 にぶい黄橙	RL 縄文横位施文	覆土中	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	2.5Y5/1 黄灰	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 2と同一個体 ₉	覆土中	

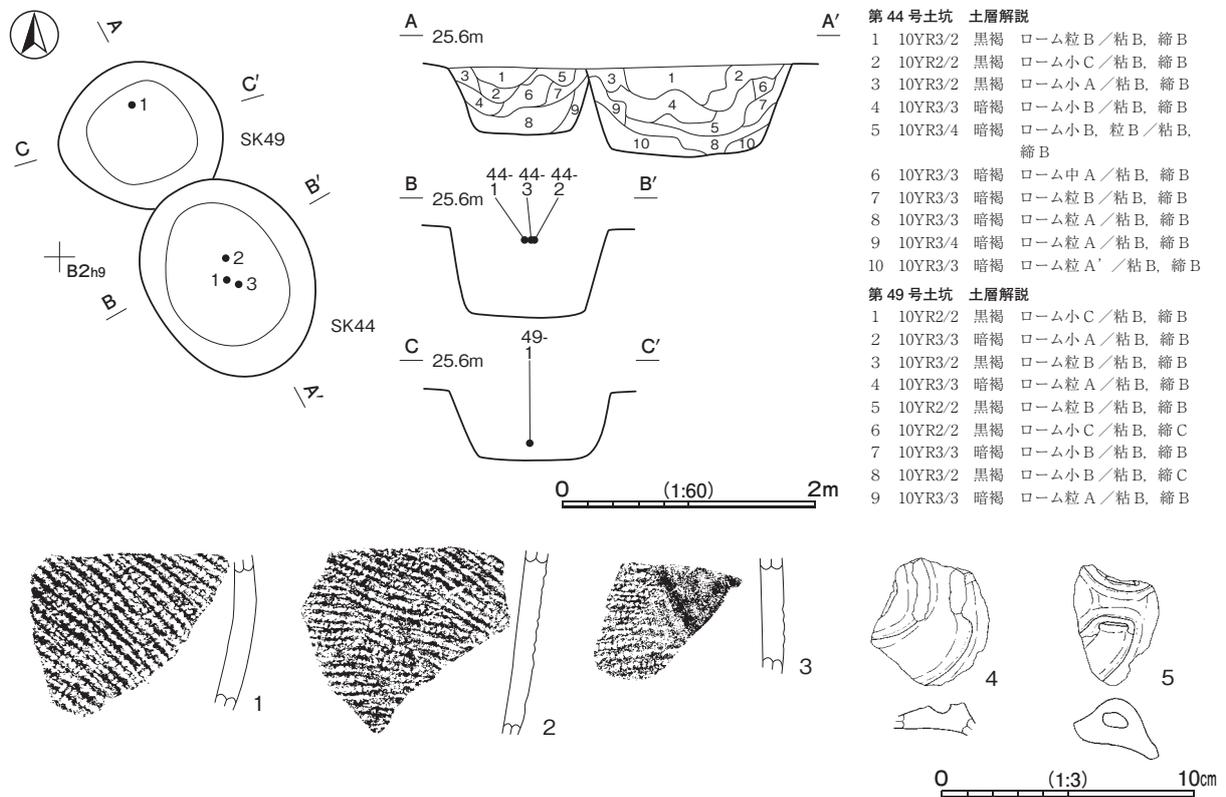
第 44・49 号土坑 (第 42・43 図 PL 6)

位置 調査区北部の B 2 g9 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

重複関係 第 44 号土坑が, 第 49 号土坑を掘り込んでいる。

規模と形状 第 44 号土坑は長径 1.60 m, 短径 1.30 m の楕円形で, 長径方向は N - 27° - W である。深さは 71cm で, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。第 49 号土坑は長径 1.28 m, 短径 1.17 m の円形である。深さは 54cm で, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 第 44 号土坑は 10 層に分層できる。第 1~6 層はロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。第 7~10 層はレンズ状に堆積していることから, 自然堆積である。第 49 号土坑は 9 層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻され



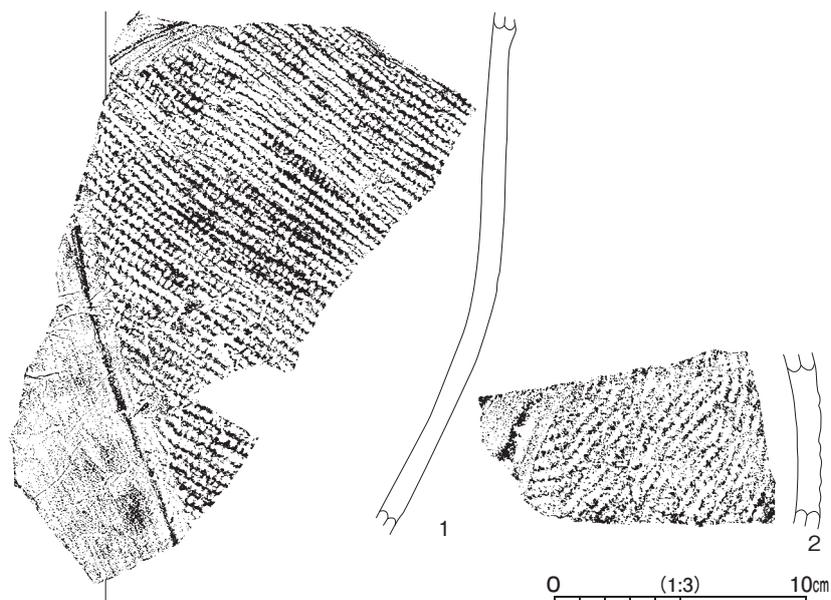
第 42 図 第 44・49 号土坑, 第 44 号土坑出土遺物実測図

ている。

遺物出土状況 第44号土坑からは、縄文土器33点(深鉢口縁部3, 胴部28, 蓋2)が出土している。

1～3は中央の覆土上層からそれぞれ出土している。第49号土坑からは、縄文土器21点(深鉢口縁部1, 胴部20)が出土している。1は中央の覆土下層から出土している。

所見 時期は、両遺構に大きな時期差は見られず、出土土器から中期後半加曾利E IV式期に比定できる。



第43図 第49号土坑出土遺物実測図

第41表 第44号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・角閃石	7.5YR5/6 明褐	LR 縄文縦位施文	中央部 覆土上層	
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・角閃石	10YR6/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文	中央部 覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・角閃石	7.5YR5/6 明褐	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文 下部部研磨 土製円盤に転用。	中央部 覆土上層	
4	縄文土器	蓋	—	—	—	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	外・内面ナデ調整	覆土中	
5	縄文土器	蓋	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR5/6 黄褐	摩滅著しい	覆土中	

第42表 第49号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	中央部 覆土下層	
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR5/6 黄褐	RL 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	覆土中	

第45号土坑(第44図 PL 6)

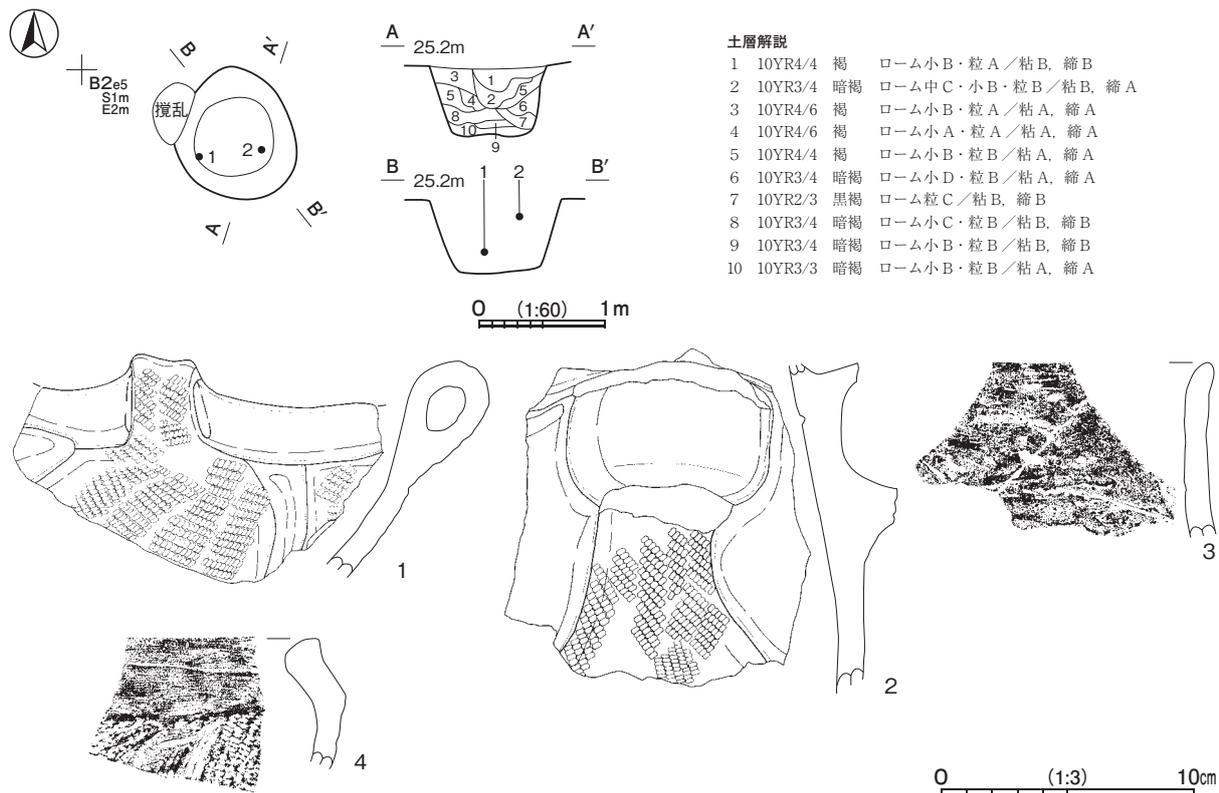
位置 調査区北部のB 2e5区, 標高25.0mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.05m, 短径0.93mの楕円形で, 長径方向はN-5°-Wである。深さは60cmで, 底面は平坦である。壁は外傾している。

覆土 10層に分類できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器38点(深鉢口縁部3, 胴部34, 両耳壺1)が出土している。1は西壁寄りの覆土下層, 2は中央の覆土上層からそれぞれ出土している。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利E IV式期に比定できる。



第44図 第45号土坑・出土遺物実測図

第43表 第45号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	LR縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文	西壁 覆土下層	PL15
2	縄文土器	両耳壺	—	—	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	橋状把手部分 微隆起線施文後LR縄文	中央部 覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	7.5YR6/6 橙	口縁部下に広い無文帯 両耳壺	覆土中	
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR3/1 黒褐	微隆起線施文後LR縄文 微隆起線施文による対向U字文	覆土中	PL15

第47号土坑 (第45図 PL6)

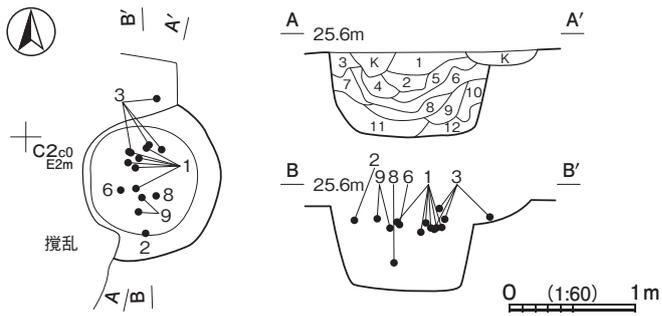
位置 調査区北部のC2c0区, 標高25.5mの台地上に位置している。

規模と形状 長径1.29m, 短径1.08mの楕円形で, 長径方向はN-22°-Eである。深さは64cmで, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 12層に分層できる。ロームブロックを含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

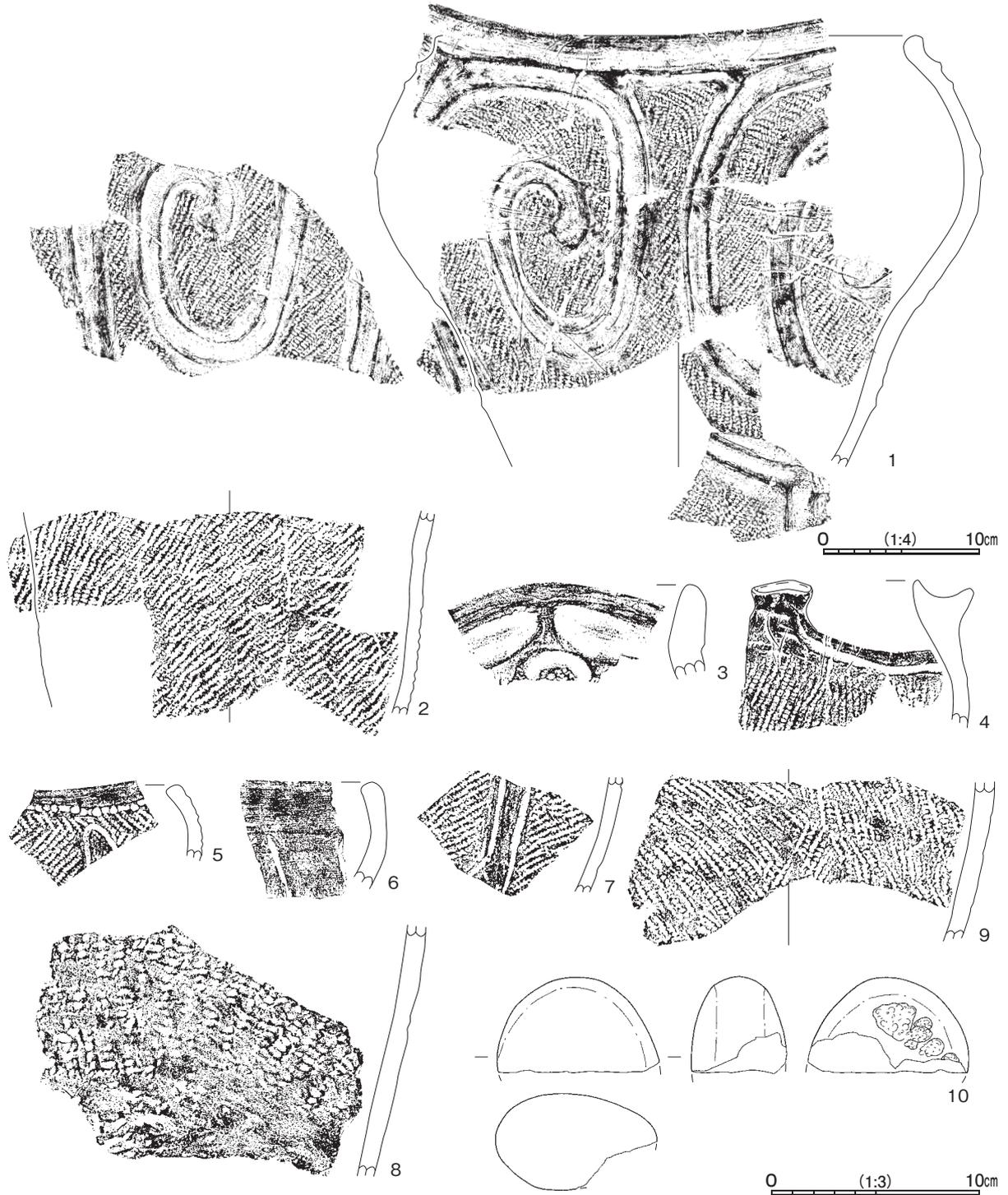
遺物出土状況 縄文土器155点(深鉢口縁部10, 胴部142, 底部2, 注口胴部1), 石器2点(磨石)が出土している。8は中央の覆土下層, 1・3・6・9は中央の覆土上層, 2は南壁寄りの覆土上層からそれぞれ出土している。出土状況から埋め戻しの際, 多量に廃棄したものと考えられる。

所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利EⅢ式新段階期に比定できる。



土層解説

- | | | | |
|----|---------|----|-----------------------|
| 1 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム粒B / 粘B, 締B |
| 2 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C, 炭化物粒C / 粘B, 締B |
| 3 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒C / 粘B, 締B |
| 4 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム小C・粒B / 粘B, 締B |
| 5 | 10YR2/1 | 黒 | ローム小C / 粘B, 締B |
| 6 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C / 粘B, 締B |
| 7 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒B / 粘B, 締B |
| 8 | 10YR2/1 | 黒 | ローム粒C / 粘B, 締C |
| 9 | 10YR3/3 | 暗褐 | ローム小C / 粘B, 締C |
| 10 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小B / 粘B, 締B |
| 11 | 10YR3/2 | 黒褐 | ローム粒B / 粘B, 締B |
| 12 | 10YR2/2 | 黒褐 | ローム小C / 粘B, 締C |



第45図 第47号土坑・出土遺物実測図

第 44 表 第 47 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[29.8]	(20.3)	—	長石・石英・雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	20% PL 9
2	縄文土器	深鉢	—	(10.5)	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	RL 縄文縦位施文	南壁 覆土上層	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 黒色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	PL15
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	波状口縁 RL 縄文横位施文	覆土中	PL15
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	RL 縄文施文後沈線 沈線による横位連携弧線文 口縁部沈線内に凹形刺突文	覆土中	PL15
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR4/2 灰黄褐	縦位の沈線文 外・内面ナデ	中央部 覆土上層	PL15
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	10YR5/4 にぶい黄褐	RL 縄文施文後無文部・沈線脇磨き 沈線による対向 U 字文	覆土中	PL15
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	10YR6/6 明黄褐	RL 縄文横位施文	中央部 覆土下層	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR5/6 明赤褐	RL 縄文横位施文	中央部 覆土上層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
10	磨石	(4.6)	7.8	4.6	197.2	輝石安山岩	表面磨り面 裏面に敲打痕	覆土中	
11	磨石	(4.5)	(2.9)	(0.7)	9.1	硬砂岩	磨り面の一部を確認	覆土中	観察表のみ

第 51 号土坑(第 46・47 図 PL 7)

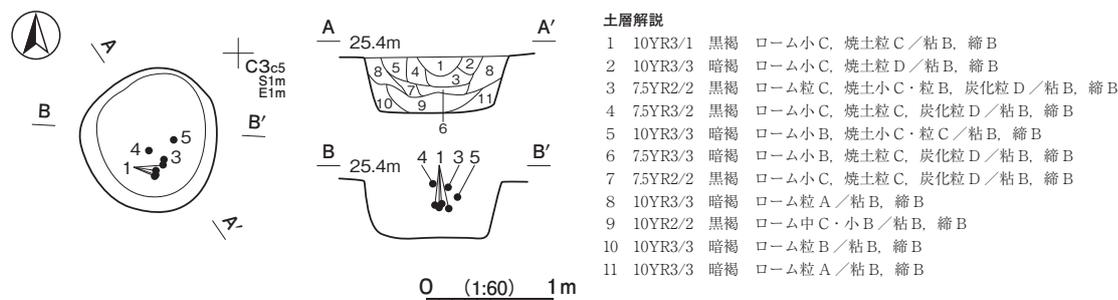
位置 調査区東部の C 3 c5 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.13 m, 短径 1.07 m の円形である。深さは 46 cm で, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

覆土 11 層に分層できる。ロームブロックや焼土を含む層が不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 29 点(深鉢口縁部 5, 胴部 23, 底部 1), 石器 1 点(剥片)が出土している。1 は南壁寄りの覆土中層, 3~5 は中央の覆土上層からそれぞれ出土している。

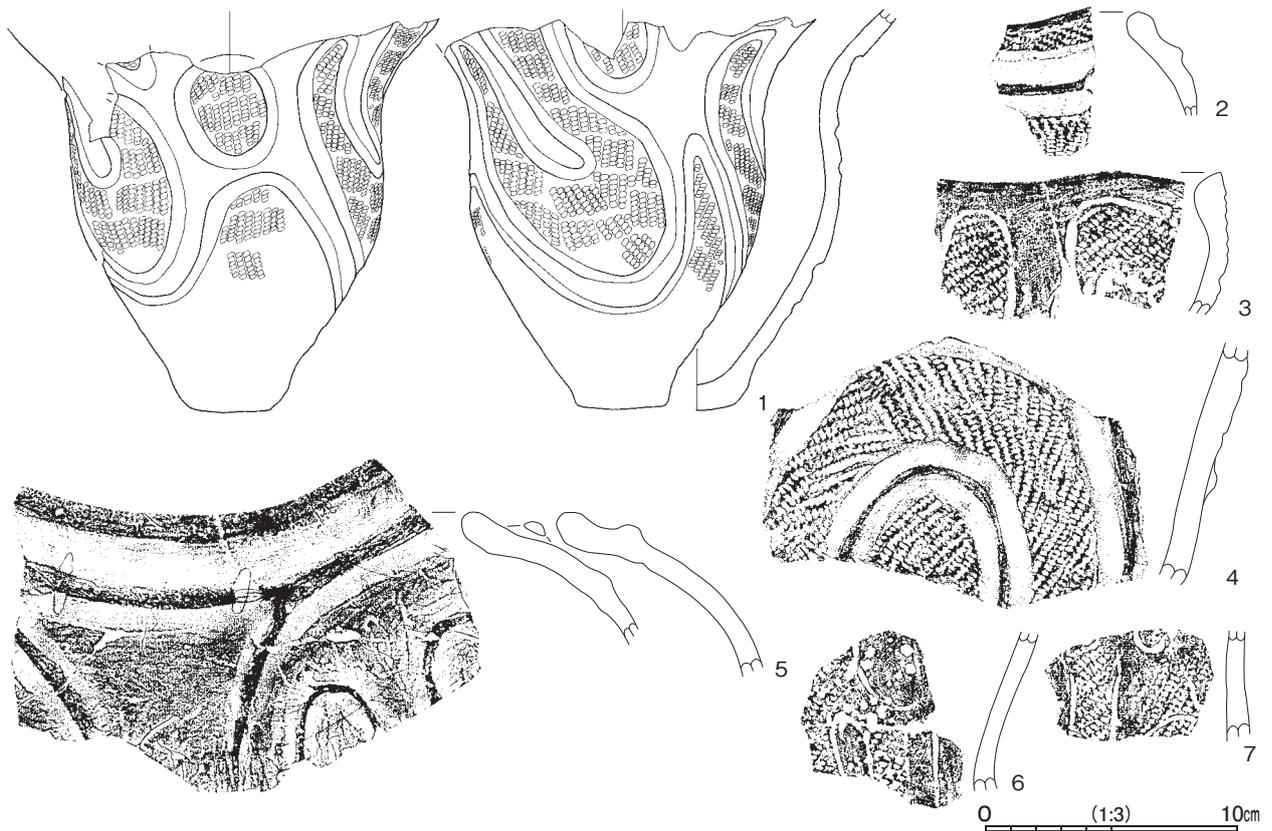
所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E Ⅲ式新段階期に比定できる。



第 46 図 第 51 号土坑実測図

第 45 表 第 51 号土坑出土遺物一覧

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	—	(15.5)	3.0	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文充填の磨消縄文によるアルファベット文	南壁 覆土中層	70% PL 9
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/1 褐灰	沈線施文後 RL 縄文・沈線内磨き 微隆起線による渦巻文	覆土中	PL16
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/3 にぶい黄褐	RL 縄文充填 無文部磨き 沈線による横位連携弧線文	中央部 覆土上層	PL16
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・細礫	7.5YR6/6 橙	微隆起線による渦巻文	中央部 覆土上層	PL16
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文充填 沈線による横位連携弧線文 7 と同一	覆土中	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/3 にぶい黄褐	RL 縄文充填 沈線による横位連携弧線文 6 と同一	覆土中	



第 47 図 第 51 号土坑出土遺物実測図

第 111 号土坑 (第 48 ~ 50 図 PL 7)

位置 調査区中央部の C 2e2 区, 標高 25.5 m の台地上に位置している。

規模と形状 長径 1.61 m, 短径 1.60 m の円形である。深さは 100cm で, 底面は平坦である。壁はほぼ直立している。

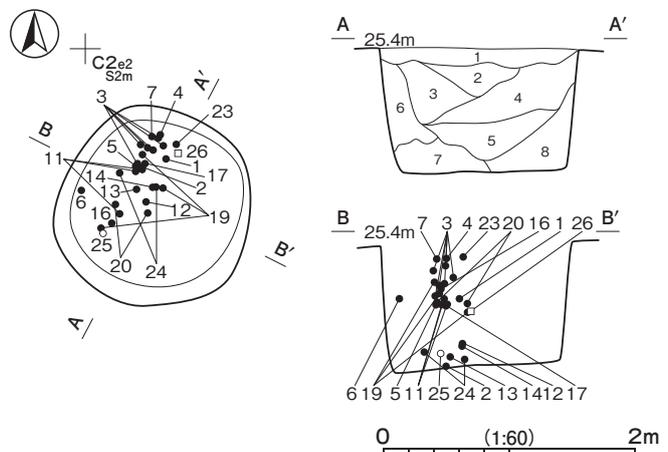
覆土 8 層に分層できる。不規則な堆積状況を示していることから, 埋め戻されている。

遺物出土状況 縄文土器 276 点 (深鉢口縁部 41, 胴部 233, 底部 2), 土製品 1 点 (土器片円盤),

石器 1 点 (磨石) が出土している。遺物は覆土中からまんべんなく出土しているが, 大形破片は, 覆土中層から上層にまとまって出土している。2 は北壁寄りの床面, 12 ~ 14・24・25 は中央の覆土下層, 16・19・20・26 は中央の覆土中層, 6 は西壁寄りの覆土中層, 1・3 ~ 5・7・11・

17・23 は北壁寄りの覆土中層から上層にかけてそれぞれ出土している。出土状況から埋め戻しの際, 多量に廃棄したものと考えられる。

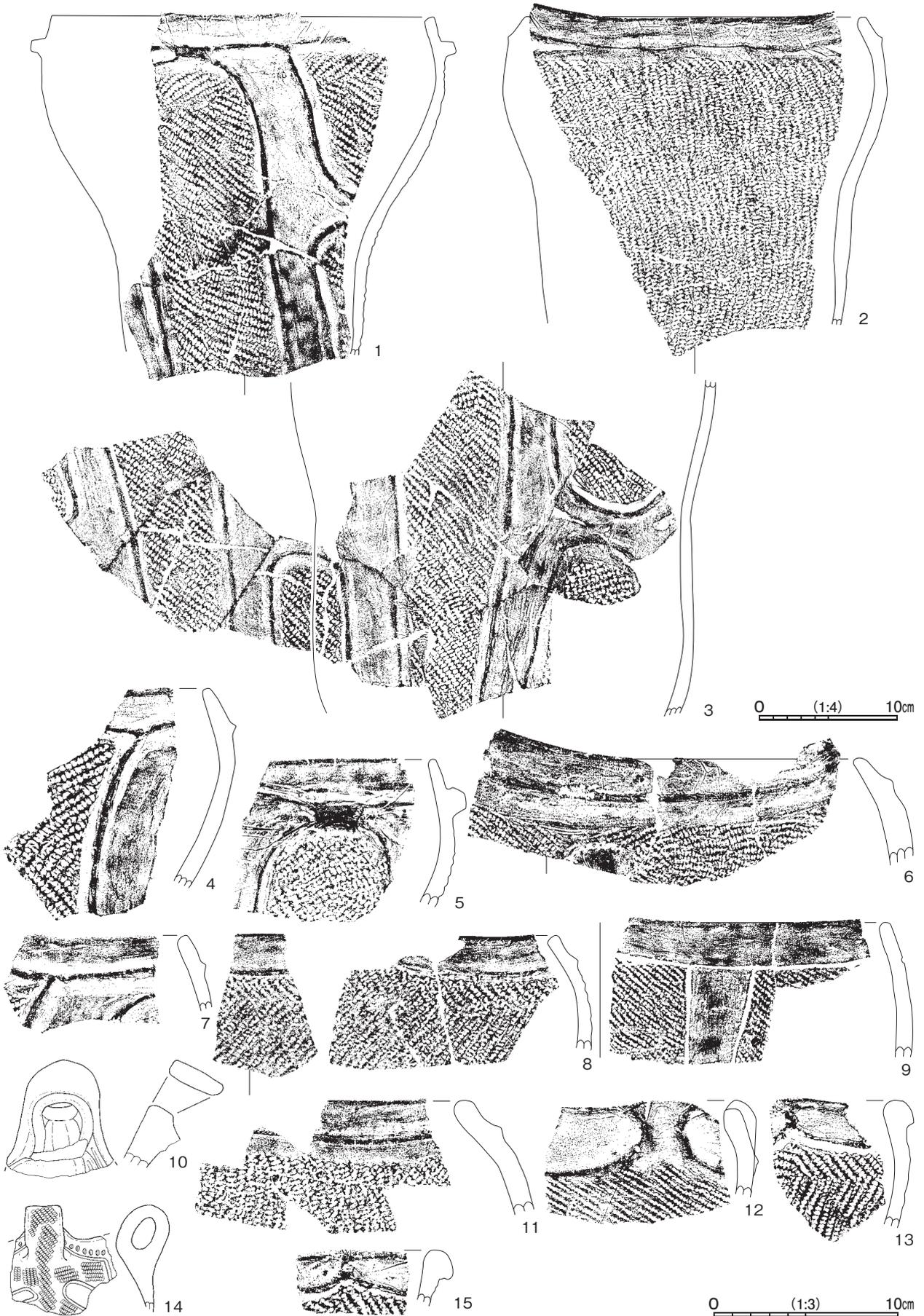
所見 時期は, 出土土器から中期後半加曾利 E IV 式期に比定できる。



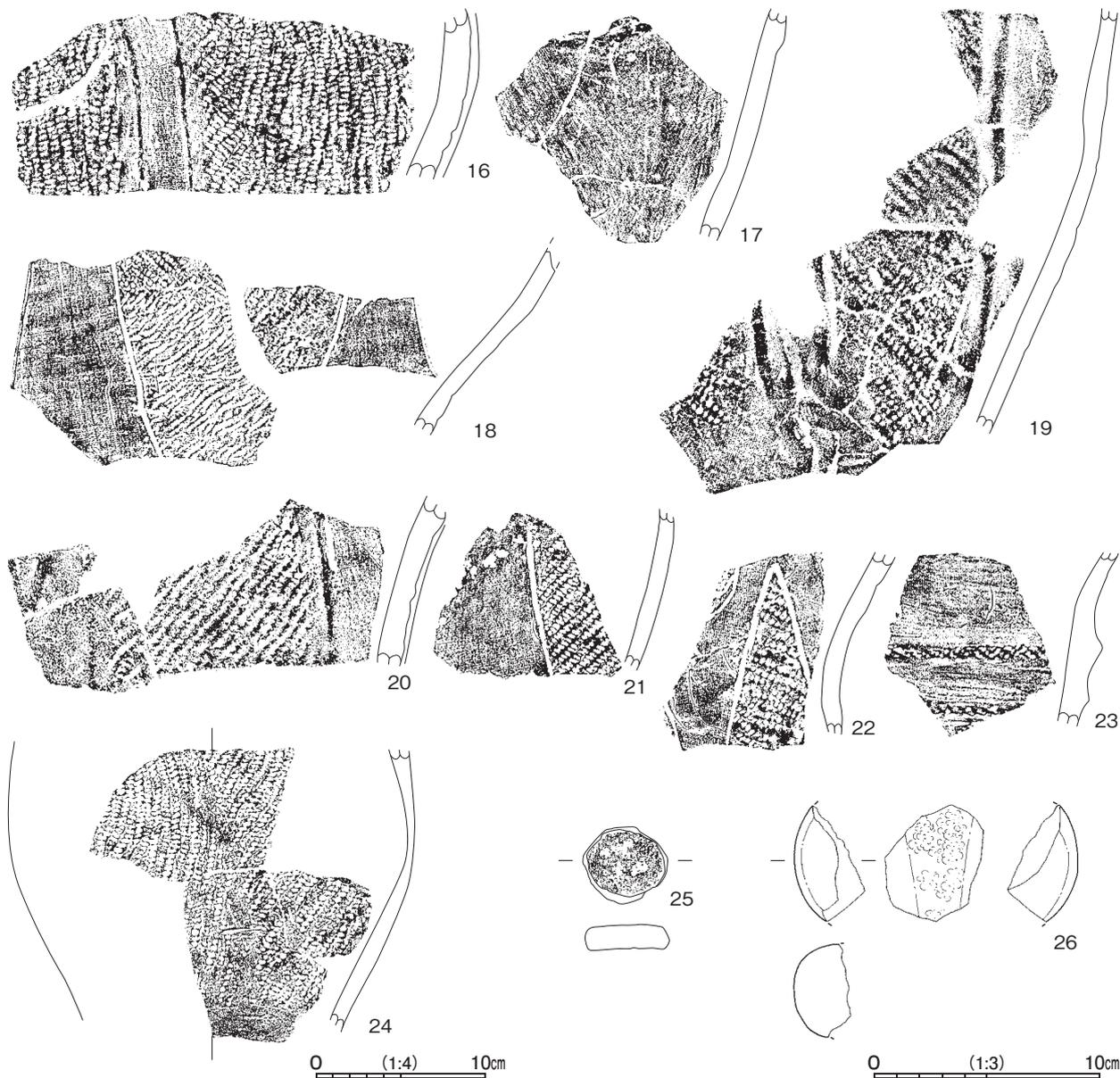
土層解説

- | | | |
|---|---------------|-----------------------------------|
| 1 | 10YR3/3 暗褐 | ローム小D・粒B, 焼土粒D/粘B, 締B |
| 2 | 10YR4/3 におい黄褐 | ローム小C・粒B, 焼土粒D/粘B, 締B |
| 3 | 10YR5/4 におい黄褐 | ローム中D・小C・粒B, 焼土粒D/粘B, 締B |
| 4 | 10YR5/4 におい黄褐 | ローム中C・小C・粒B, 焼土粒D/粘B, 締B |
| 5 | 10YR4/2 灰黄褐 | ローム小C・粒B, 焼土粒D, 炭化粒D/粘B, 締B |
| 6 | 10YR4/6 褐 | ローム中B・小B・粒B, 焼土粒D/粘B, 締B |
| 7 | 10YR4/4 褐 | ローム中D・小B・粒B, 焼土粒D, 炭化物D・粒D/粘B, 締B |
| 8 | 10YR3/2 黒褐 | ローム小C・粒B, 焼土小D・粒D, 炭化粒D/粘B, 締B |

第 48 図 第 111 号土坑実測図



第 49 图 第 111 号土坑出土遗物实测图 (1)



第50図 第111号土坑出土遺物実測図(2)

第46表 第111号土坑出土遺物一覧(1)

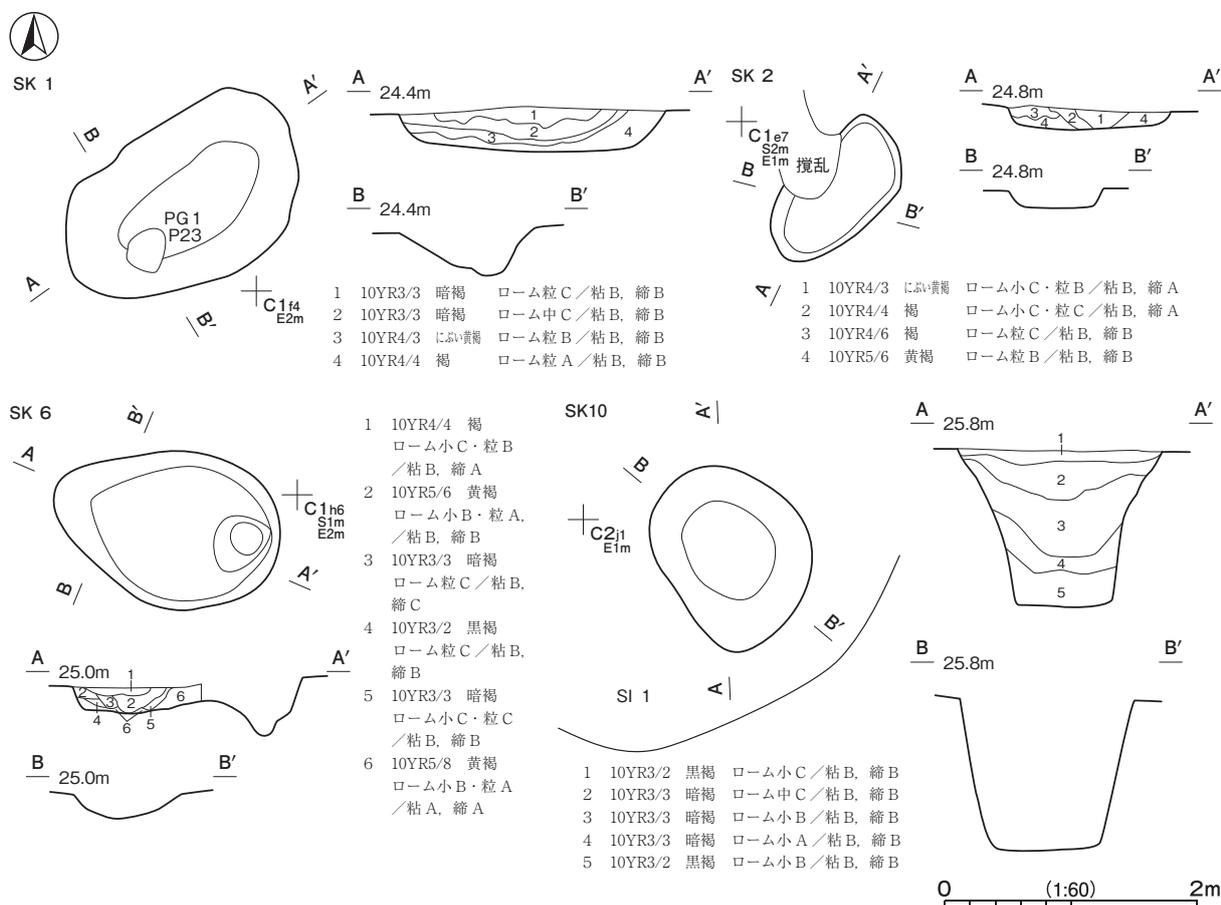
番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
1	縄文土器	深鉢	[27.2]	(24.4)	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文	北壁 覆土中層	30% PL 9
2	縄文土器	深鉢	[23.6]	(22.0)	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/6 橙	RL 縄文横位施文後口縁部微隆起線脇なぞり	北壁床面	30% PL 9
3	縄文土器	深鉢	—	(23.2)	—	長石	10YR7/6 明黄褐	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文 内面剥離	北壁 覆土中層	20% PL 9
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい黄橙	LR の波状縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による逆U字文	北壁 覆土上層	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	LR 縄文と RL 縄文の波状施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線交差部に突起 微隆起線による逆U字文	北壁 覆土中層	PL16
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/6 橙	口縁部下に無文帯 RL 縄文施文後沈線 沈線による横位連携弧線文	西壁 覆土中層	PL16
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	北壁 覆土上層	PL16
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部下に無文帯 RL 縄文施文	覆土中	PL16
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文横位施文後沈線 沈線による垂下縄文帯	覆土中	PL16
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/4 にぶい黄橙	波状口縁 微隆起線による施文	覆土中	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/3 にぶい黄橙	口縁部下に無文帯 RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり	北壁 覆土中層	PL16

第 47 表 第 111 号土坑出土遺物一覧 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	緩い波状口縁 LR 縄文縦位施文	中央部 覆土下層	PL16
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	5YR6/6 橙	緩い波状口縁 RL 縄文施文後微隆起線脇沈線	中央部 覆土下層	PL16
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	10YR5/6 黄褐	LR 縄文充填 沈線による C 字文	中央部 覆土下層	
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・ 赤色粒子	7.5YR6/6 橙	RL 縄文横位施文	覆土中	PL16
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による 逆 U 字文	中央部 覆土中層	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/4 にぶい橙	微隆起線による対向 U 字文。	北壁 覆土中層	
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR3/2 黒褐	上部 RL 縄文充填 下部無節 L 縄文充填 沈線に よる対向 U 字文	覆土中	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線に よる対向 U 字文 摩滅著しい	中央部 覆土中層	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による 対向 U 字文	中央部 覆土中層	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	5YR6/6 橙	沈線施文後 RL 縄文縦位施文 沈線による対向 U 字文	覆土中	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR5/3 にぶい褐	LR 縄文充填 沈線による対向 U 字文	覆土中	
23	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 角閃石	7.5YR7/6 橙	微隆起線上に RL 縄文施文	北壁 覆土上層	PL16
24	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・ 赤色粒子・角閃石	7.5YR6/6 橙	RL 縄文縦位施文	中央部 覆土下層	

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
25	土器片 円盤	3.4	3.8	1.1	17.3	長石・石英	7.5YR5/4 にぶい褐	側縁全周研磨	中央部 覆土下層	

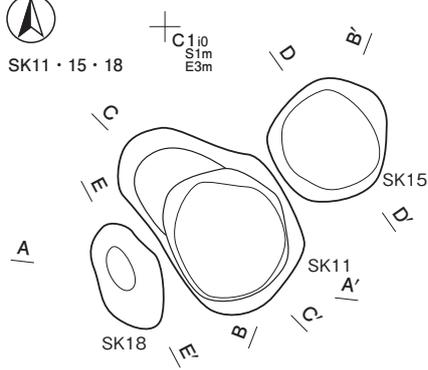
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
26	磨石	(5.2)	(3.1)	(4.4)	58.5	輝石安山岩	表裏磨り面 側縁部に敲打痕	北壁 覆土中層	



第 51 図 縄文時代の土坑実測図 (1)



SK11・15・18



第11号土坑 土層解説

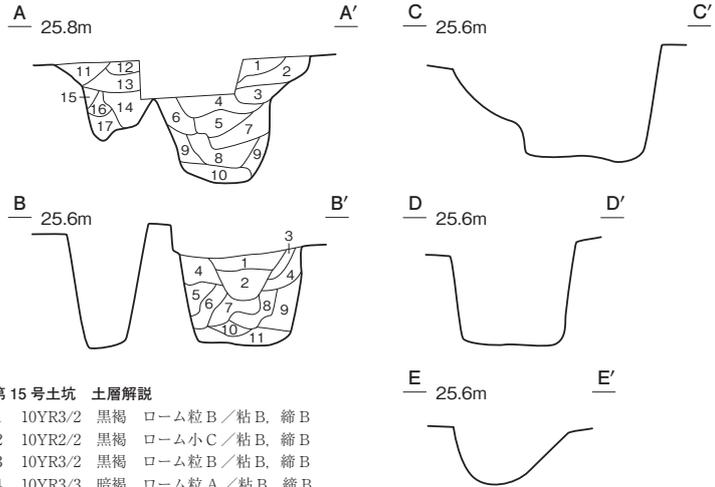
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム粒A/粘B, 締B
- 5 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
- 7 10YR3/3 暗褐 ローム小A・粒A/粘B, 締B
- 8 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 9 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
- 10 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B

第15号土坑 土層解説

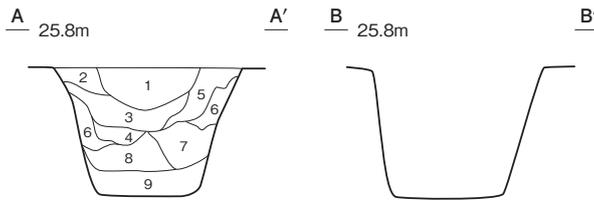
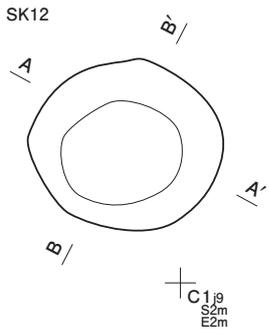
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 2 10YR2/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム粒A/粘B, 締B
- 5 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム小A'/粘B, 締B
- 7 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 8 10YR3/3 暗褐 ローム中A/粘B, 締B
- 9 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 10 10YR3/3 暗褐 ローム中B/粘B, 締B
- 11 10YR3/4 暗褐 ローム中A/粘B, 締B

第18号土坑 土層解説

- 11 10YR2/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 12 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B
- 13 10YR3/2 黒褐 ローム小A/粘B, 締B
- 14 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B
- 15 10YR3/4 暗褐 ローム中A'/粘B, 締B
- 16 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 17 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B

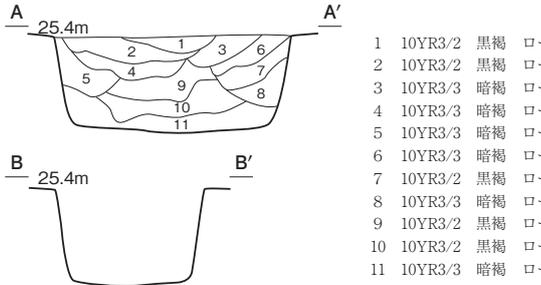
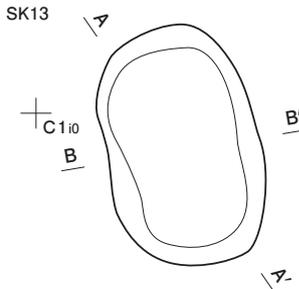


SK12



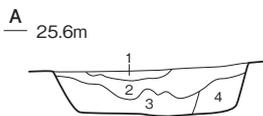
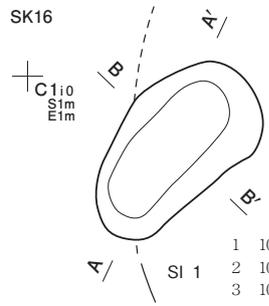
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒A/粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B, 焼土粒B/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小B, 焼土小B/粘B, 締B
- 5 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 6 10YR3/4 暗褐 ローム粒A/粘B, 締B
- 7 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締C
- 8 10YR3/3 暗褐 ローム小A'/粘B, 締C
- 9 10YR3/3 暗褐 ローム小B, 焼土小C/粘B, 締C

SK13



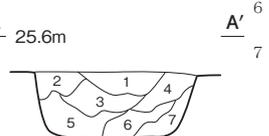
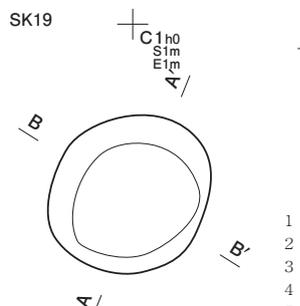
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム粒A/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
- 5 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 7 10YR3/2 黒褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 8 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B
- 9 10YR3/2 黒褐 ローム中B・小C/粘B, 締B
- 10 10YR3/2 黒褐 ローム中C・小B/粘B, 締B
- 11 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B

SK16

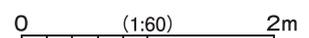


- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B
- 2 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小A/粘B, 締B
- 4 10YR3/4 暗褐 ローム小A'/粘B, 締B

SK19

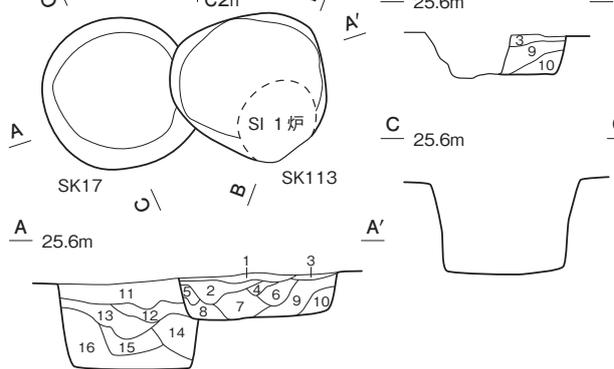


- 1 10YR3/3 暗褐 ローム粒B/粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒A/粘B, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小C/粘B, 締B
- 5 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム中A・小A/粘B, 締B
- 7 10YR3/3 暗褐 ローム小A・粒A/粘B, 締C



第52図 縄文時代の土坑実測図(2)

SK17・113

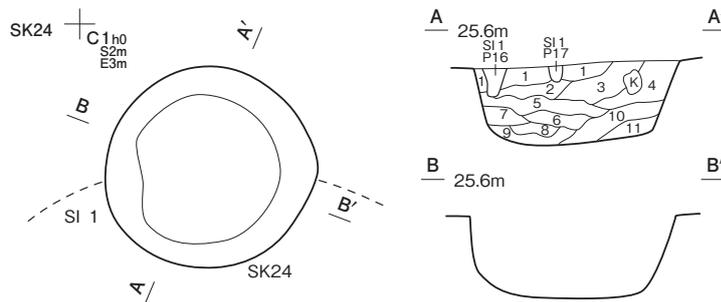


第17号土坑 土層解説

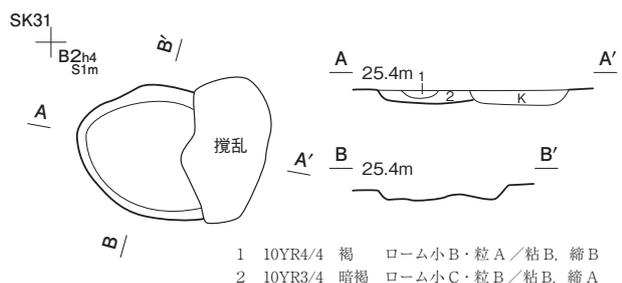
- 11 10YR3/3 暗褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 12 10YR3/4 暗褐 ローム小A / 粘B, 締B
- 13 10YR3/2 黒褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 14 10YR3/3 暗褐 ローム小A' / 粘B, 締B
- 15 10YR3/2 黒褐 ローム中B / 粘B, 締B
- 16 10YR3/3 暗褐 ローム中A / 粘B, 締B

第113号土坑 土層解説

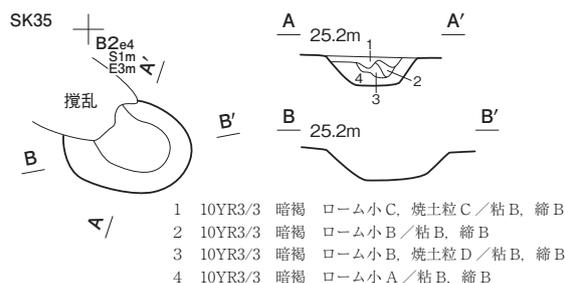
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小B, 焼土小C・粒C, 炭化粒D / 粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小A, 焼土粒D, 炭化粒D / 粘B, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム小C, 焼土粒D / 粘B, 締B
- 4 7.5YR2/1 黒 ローム小C, 焼土粒B, 炭化粒C / 粘C, 締C
- 5 10YR2/2 黒褐 ローム小C / 粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム小A / 粘B, 締B
- 7 10YR3/3 暗褐 ローム中A / 粘B, 締B
- 8 10YR3/4 暗褐 ローム中A' / 粘B, 締B
- 9 10YR3/2 黒褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 10 10YR3/3 暗褐 ローム小A / 粘B, 締B



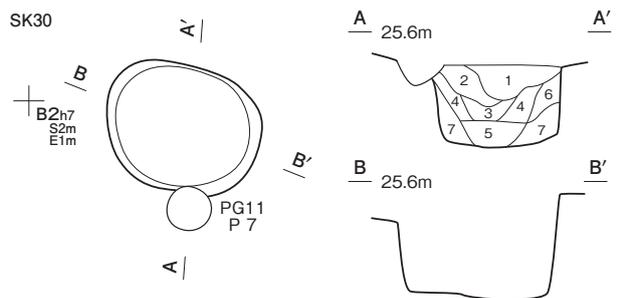
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小C / 粘B, 締B
- 3 10YR3/2 黒褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム大C・小A / 粘B, 締B
- 5 10YR3/2 黒褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム小A / 粘B, 締B
- 7 10YR3/4 暗褐 ローム中A' / 粘B, 締B
- 8 10YR3/2 黒褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 9 10YR3/3 暗褐 ローム中B / 粘B, 締B
- 10 10YR3/3 暗褐 ローム中B・小A / 粘B, 締B
- 11 10YR3/3 暗褐 ローム小A / 粘B, 締B



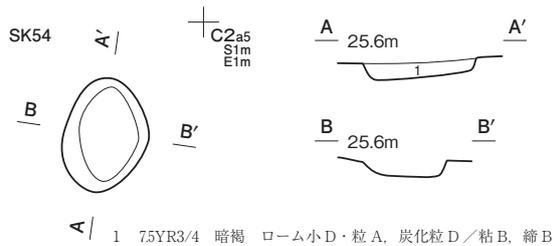
- 1 10YR4/4 褐 ローム小B・粒A / 粘B, 締B
- 2 10YR3/4 暗褐 ローム小C・粒B / 粘B, 締A



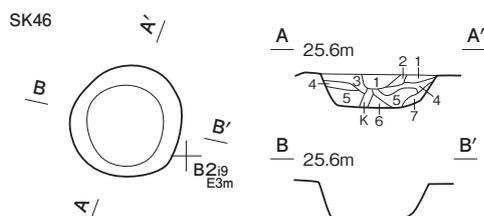
- 1 10YR3/3 暗褐 ローム小C, 焼土粒C / 粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小B / 粘B, 締B
- 3 10YR3/3 暗褐 ローム小B, 焼土粒D / 粘B, 締B
- 4 10YR3/3 暗褐 ローム小A / 粘B, 締B



- 1 10YR4/4 褐 ローム中C・小B・粒A / 粘B, 締B
- 2 10YR4/6 褐 ローム小B・粒A / 粘B, 締B
- 3 10YR3/4 暗褐 ローム中C・小B・粒B / 粘B, 締C
- 4 10YR3/4 暗褐 ローム小B・粒B / 粘B, 締B
- 5 10YR4/4 褐 ローム小B・粒A / 粘B, 締B
- 6 10YR3/3 暗褐 ローム小C・粒B / 粘B, 締B
- 7 10YR2/3 黒褐 ローム小D・粒B / 粘A, 締B



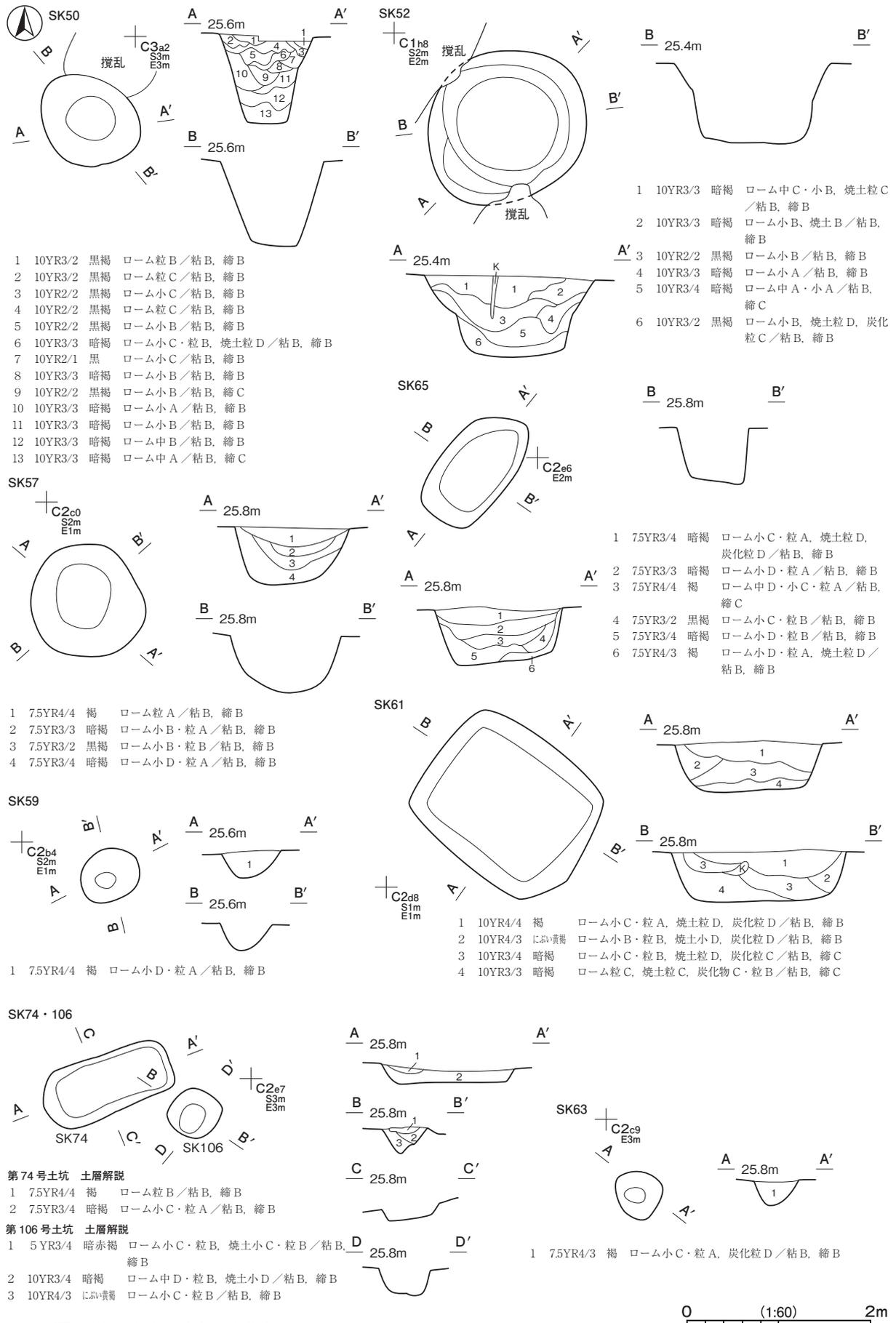
- 1 7.5YR3/4 暗褐 ローム小D・粒A, 炭化粒D / 粘B, 締B



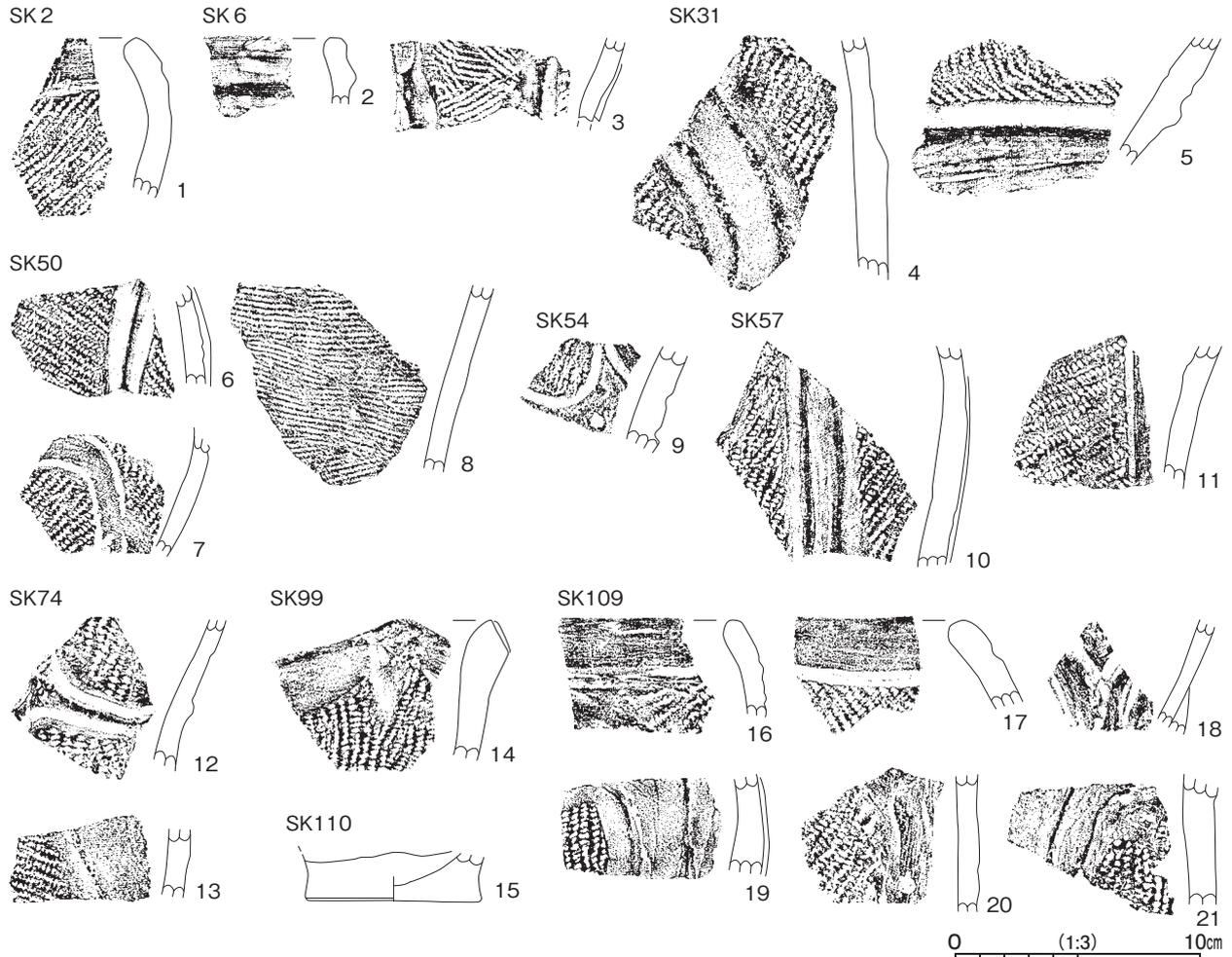
- 1 10YR3/4 暗褐 ローム小C・粒B / 粘A, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム粒B / 粘B, 締C
- 3 10YR4/4 褐 ローム小B・粒A / 粘B, 締B
- 4 10YR4/4 褐 ローム小A・粒A / 粘B, 締B
- 5 10YR3/3 暗褐 ローム中D・小C・粒B / 粘B, 締B
- 6 10YR3/4 暗褐 ローム小B・粒B / 粘A, 締A
- 7 10YR4/4 褐 ローム小A・粒A / 粘A, 締A

0 (1:60) 2m

第53図 縄文時代の土坑実測図 (3)



第54図 縄文時代の土坑実測図(4)



第 56 図 縄文時代の土坑出土遺物実測図

第 48 表 縄文時代の土坑出土遺物一覧 (1)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土遺構	備考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	黒色粒子	7.5YR8/6 浅黄橙	口縁部下無文帯 LR 縄文縦位施文	SK 2	
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR7/6 橙	口縁部に微隆起線	SK 6	
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石	7.5YR8/6 浅黄橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	SK 6	
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	石英	7.5YR7/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	SK31	
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・細礫	10YR8/4 浅黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり	SK31	
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦位施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	SK50	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・針状鉱物	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文充填後無文部磨き 沈線による逆U字文	SK50	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	LR 縄文縦～斜位施文	SK50	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	LR 縄文充填 沈線による対向U字文。	SK54	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	SK57	
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR5/4 にぶい褐	RL 縄文充填	SK57	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	SK74	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	SK74	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	口縁部下無文帯 緩い波状口縁 RL 縄文	SK99	
15	縄文土器	深鉢	—	(20)	7.2	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	外・内・底面ナデ	SK110	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後無文部磨き 微隆起線による逆U字文。	SK109	
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR7/6 橙	口縁部下無文帯 沈線施文後 RL 縄文施文	SK109	

第 49 表 縄文時代の土坑出土遺物一覧 (2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土遺構	備考
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後微隆起線脇沈線 微隆起線による渦巻文	SK109	
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR3/1 黒褐	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による渦巻文	SK109	
20	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	SK109	
21	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による逆U字文	SK109	

第 50 表 縄文時代の土坑一覧 (1)

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
1	C 1 e4	N - 48° - E	楕円形	2.08 × 1.35	34	平坦	外傾	自然	—	PG 1 (P23) 重複
2	C 1 e7	N - 50° - E	楕円形	1.30 × 0.64	15	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
4	C 1 h0	N - 45° - W	楕円形	1.45 × 1.28	52	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢・台付鉢), 土製品 (土器片鏟・土器片円盤), 石器 (剥片)	
6	C 1 h6	N - 74° - W	楕円形	1.83 × 1.26	19	皿状	緩斜	人為	縄文土器 (深鉢)	
8	D 1 a9	N - 35° - E	楕円形	2.31 × 1.85	112	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢・蓋), 土製品 (土器片円盤・有孔円盤)	
10	C 2 j1	N - 51° - W	楕円形	1.40 × 1.10	124	平坦	ほぼ直立	自然	—	SI 1 → 本跡
11	C 1 i0	N - 45° - W	楕円形	1.66 × 1.06	92	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	SI 1 → 本跡
12	C 1 j9	N - 85° - E	楕円形	1.52 × 1.36	102	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
13	C 1 i0	N - 16° - W	楕円形	1.90 × 1.23	76	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
14	C 1 j0	N - 55° - E	楕円形	1.34 × 0.95	35	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
15	C 2 i1	—	円形	0.98 × 0.96	75	平坦	直立	人為	縄文土器 (深鉢)	SI 1 → 本跡
16	C 1 i0	N - 25° - E	楕円形	1.54 × 0.88	40	平坦	外傾	自然	—	本跡 → SI 1
17	C 1 i0	—	円形	1.19 × 1.12	74	平坦	直立	人為	—	本跡 → SK113 → SI 1
18	C 1 i0	N - 25° - W	楕円形	0.90 × 0.51	60	皿状	緩斜 外傾	人為	—	SI 1 → 本跡
19	C 1 h0	N - 53° - E	楕円形	1.40 × 1.23	50	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
24	C 1 h0	—	円形	1.65 × 1.61	65	平坦	外傾	人為	—	本跡 → SI 1
25	B 2 g4	N - 36° - W	楕円形	1.65 × 1.35	45	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	SK29 → 本跡
29	B 2 g4	N - 53° - W	不整楕円形	[1.45 × 1.18]	49	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡 → SK25
30	B 2 h7	N - 50° - W	楕円形	1.28 × 1.05	65	平坦	直立	人為	—	本跡 → PG11 (P7)
31	B 2 h4	N - 76° - W	[楕円形]	1.05 × [0.85]	10	平坦	緩斜	人為	縄文土器 (深鉢)	
32	B 2 h6	—	不整円形	1.42 × 1.40	78	皿状	ほぼ直立 外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	SI 2 → 本跡
33	B 2 e5	—	円形	0.95 × 0.94	66	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器 (深鉢)	
35	B 2 e4	N - 75° - W	[楕円形]	1.00 × 0.74	24	平坦	緩斜	人為	縄文土器 (深鉢)	
36	C 2 c0	N - 41° - E	楕円形	1.76 × 1.36	70	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢・蓋), 土製品 (土器片円盤), 石器 (石鏟・剥片)	
38	B 2 h9	N - 10° - E	楕円形	1.72 × 1.55	52	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
39	B 2 d5	—	円形	1.50 × 1.40	65	平坦	ほぼ直立 直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
44	B 2 h9	N - 27° - W	楕円形	1.60 × 1.30	71	平坦	ほぼ直立	自然	縄文土器 (深鉢・蓋)	SK49 → 本跡
45	B 2 e5	N - 5° - W	楕円形	1.05 × 0.93	60	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢・両耳壺)	
46	B 2 h9	—	円形	0.88 × 0.87	30	平坦	外傾	人為	—	
47	C 2 c0	N - 22° - E	楕円形	1.29 × 1.08	64	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢・注口), 石器 (磨石)	
49	B 2 g9	—	円形	1.28 × 1.17	54	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡 → SK44
50	C 3 a2	N - 50° - W	楕円形	1.16 × 0.94	94	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
51	C 3 c5	—	円形	1.13 × 1.07	46	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢), 石器 (剥片)	
52	C 1 h8	N - 44° - E	楕円形	1.85 × 1.60	88	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	—	
54	C 2 a5	N - 9° - E	楕円形	0.92 × 0.67	14	平坦	外傾 緩斜	自然	縄文土器 (深鉢)	
55	C 2 b7	N - 87° - W	不整楕円形	0.95 × 0.83	10	平坦	外傾	自然	縄文土器 (深鉢)	
57	C 2 c0	—	円形	1.27 × 1.22	60	平坦	ほぼ直立 外傾	自然	縄文土器 (深鉢), 石器 (石皿)	
59	C 2 b4	N - 47° - E	楕円形	0.70 × 0.56	30	皿状	外傾 緩斜	人為	縄文土器 (深鉢)	
61	C 2 d8	N - 51° - W	長方形	1.94 × 1.60	55	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
63	C 2 c9	—	円形	0.52 × 0.51	25	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
65	C 2 e6	N - 43° - E	楕円形	1.42 × 0.77	60	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	—	
74	C 2 e7	N - 67° - E	長方形	1.46 × 0.69	18	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
76	C 2 f3	—	[円形]	[0.94] × 0.92	26	平坦	外傾 緩斜	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡 → SK75・77
80	C 2 f6	N - 76° - E	楕円形	1.02 × 0.87	40	平坦	外傾	自然	縄文土器 (深鉢)	

第 51 表 縄文時代の土坑一覧 (2)

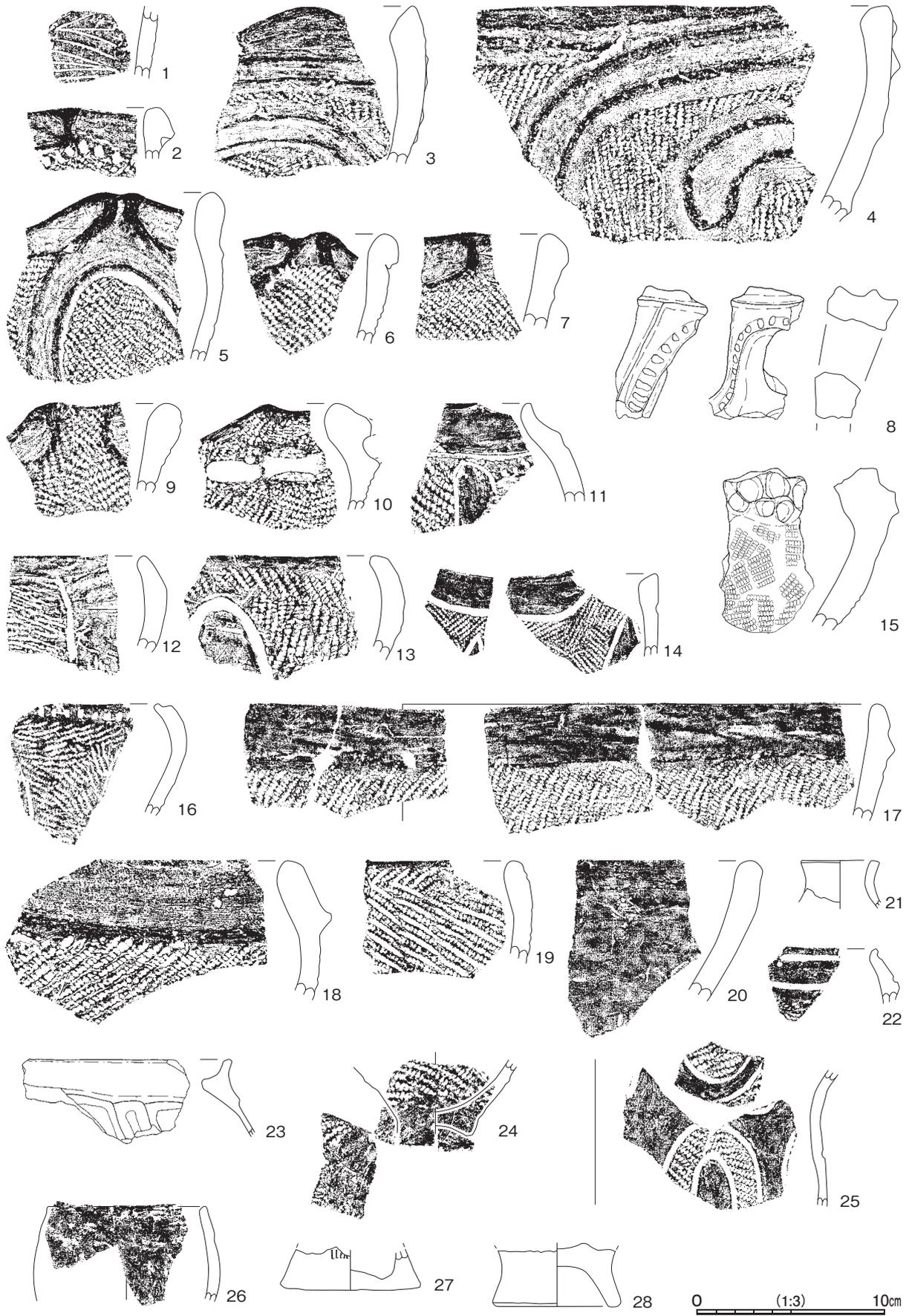
番号	位置	長径方向	平面形	規 模		底 面	壁 面	覆 土	主な出土遺物	備 考
				長径×短径 (m)	深さ (cm)					
93	C 2 e8	N - 25° - W	楕円形	2.45 × 1.35	55	平坦	緩斜	自然	縄文土器 (深鉢), 石器 (剥片)	
94	C 2 i6	N - 63° - W	[楕円形]	(1.40) × 1.05	21	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	本跡→SK95
95	C 2 i7	—	円形	0.75 × 0.74	25	平坦	ほぼ直立 外傾	人為	—	SK94→本跡
96	C 2 e7	—	円形	0.53 × 0.51	50	平坦	直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
99	C 2 h6	N - 16° - E	[楕円形]	0.60 × [0.45]	33	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
100	C 2 h6	N - 73° - W	楕円形	0.60 × 0.48	45	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	
106	C 2 e7	—	円形	0.61 × 0.56	28	平坦	外傾	人為	縄文土器 (深鉢)	
109	C 2 b6	—	円形	1.59 × 1.58	105	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢)	SI 6 と重複
110	C 2 e2	N - 21° - E	楕円形	1.23 × 1.05	62	平坦	ほぼ直立 外傾	自然	縄文土器 (深鉢), 石器 (剥片)	本跡→SK112
111	C 2 e2	—	円形	1.61 × 1.60	100	平坦	ほぼ直立	人為	縄文土器 (深鉢), 土製品 (土器片円盤), 石器 (磨石)	
112	C 2 e2	N - 17° - E	[楕円形]	[1.12] × 0.93	22	平坦	緩斜	自然	—	SK110→本跡
113	C 2 i1	—	不整形円形	1.22 × 1.18	36	平坦	ほぼ直立	人為	—	SI 1 炉に掘り込まれる SK17→本跡

(4) 遺構外出土遺物 (第 57 ~ 59 図)

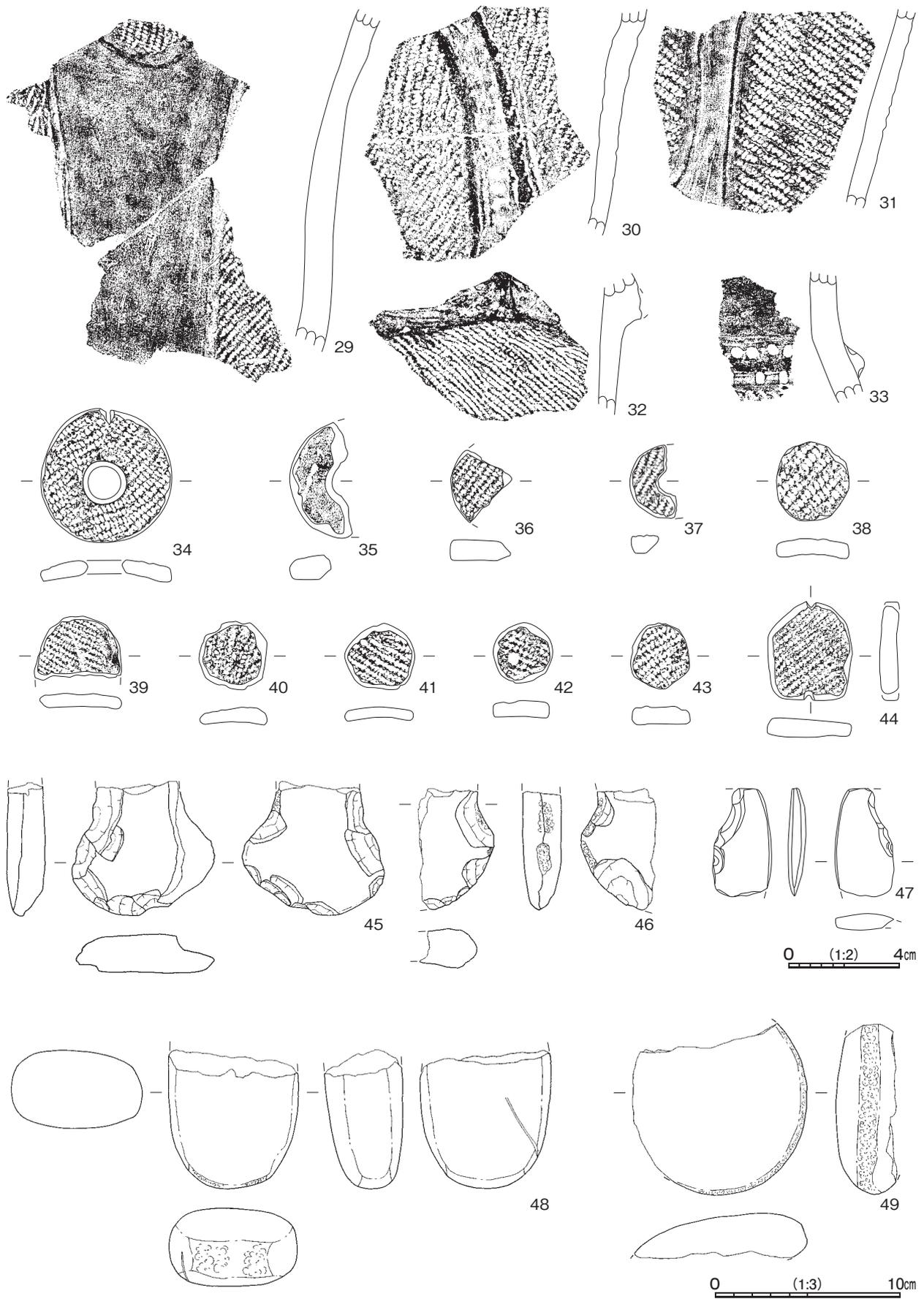
当時代の遺構外出土遺物は、縄文土器 5,120 点、土製品 11 点 (土器片錘 1, 有孔円盤 3, 土器片円盤 7), 石器 43 点 (石核 2 (黒曜石・チャート), 剥片 16 (黒曜石 6・チャート 9・頁岩 1), 石鏃 3, 石鏃未成品 2, 磨製石斧 1, 打製石斧 3, 石皿 1, 磨石 12, 敲石 1・凹石 1・砥石 1) が出土している。多くが表土除去時及び遺構確認時に出土したもので、時期は数点の早期沈線文系, 前期浮島式期, 後期中葉加曾利 B 式期の破片を除いて, 中期後半から後期初頭の加曾利 E IV~V 式期のものである。遺物量からみて、本来は遺物包含層が形成されていたものと考えられるが、後世の削平が著しく、調査では確認することができなかった。

第 52 表 遺構外出土遺物一覧 (1)

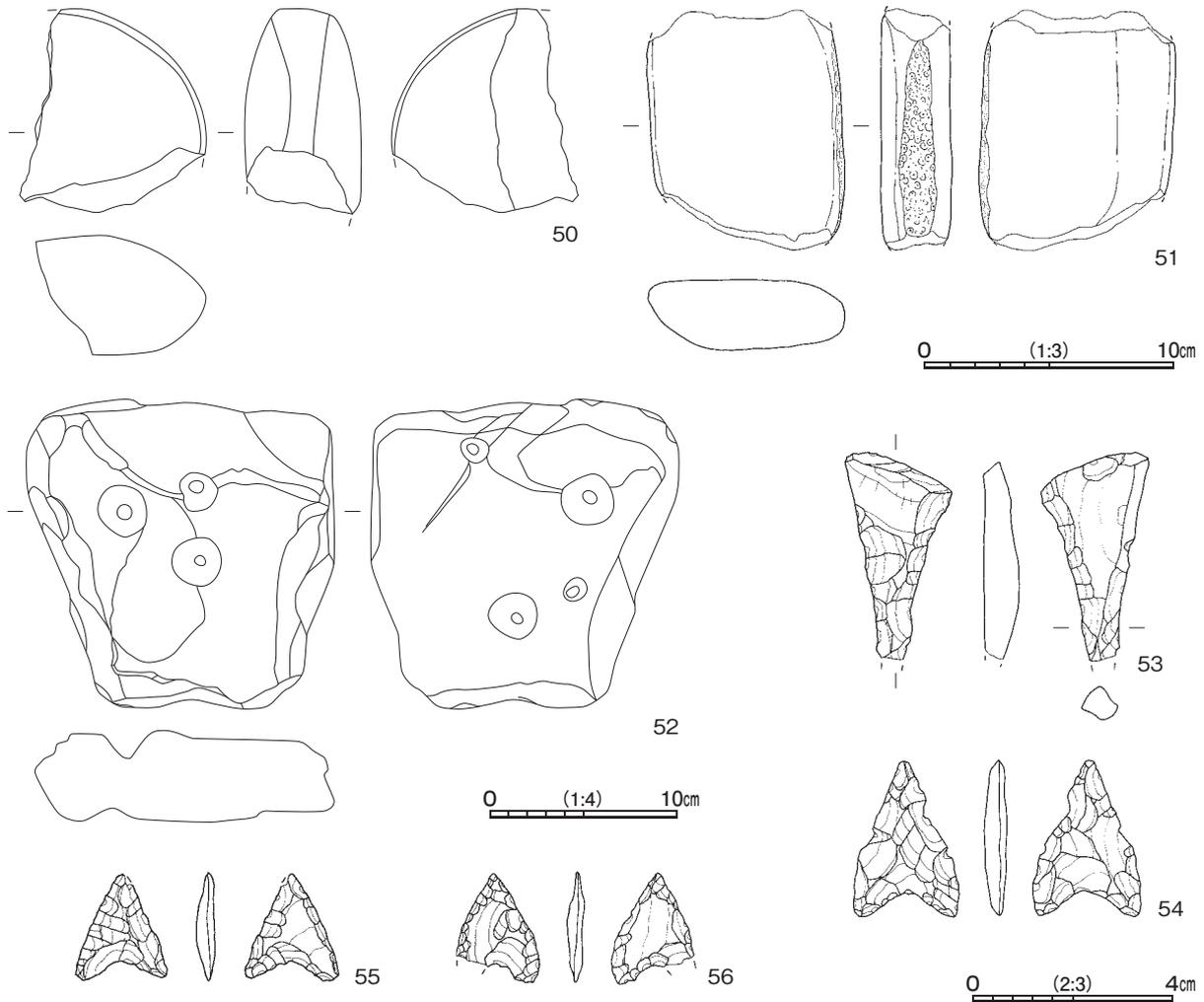
番号	種 別	器種	口径	器高	底径	胎 土	色 調	文 様 の 特 徴 ほか	出土位置	備 考
1	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	横線区画内に斜位の沈線文 早期沈線文系	H29 西部	
2	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR5/1 褐灰	LR 縄文施文 沈線による横位連携弧線文施文。	H29 西部	PL16
3	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による過巻文	SI 2 周辺	PL16
4	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・細礫	10YR5/4 にぶい黄褐	RL 縄文横位施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による過巻文	H29 西部	PL16
5	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR7/6 橙	0 段 3 条の LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向 U 字文	H29 西部	PL16
6	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	緩い波状口縁 LR 縄文縦位施文	H29 北西部	
7	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	0 段 3 条の LR 縄文施文	H29 西部	
8	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	大きな波状になる突起部 沈線による横位連携弧線文。	H29 北西部	
9	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR6/6 橙	緩い波状口縁 LR 縄文施文	H29 北西部	
10	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	橋状突起がつく LR 縄文施文後沈線	H29 西部	PL16
11	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部に無文帯 RL 縄文施文後沈線内磨き 沈線による横位連携弧線文	SI 2 周辺	
12	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	無節 L 縄文施文後沈線 沈線による垂下縄文帯	H29 西部	
13	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR6/2 灰黄褐	RL 縄文充填 沈線による横位連携弧線文	H31 中央部	
14	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	5YR4/4 にぶい赤褐	LR 縄文充填 沈線による対向 U 字文。	SI 2 周辺	PL16
15	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/6 橙	大きな波状を呈する 突起部 LR 縄文施文	H29 西部	
16	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部に狭い無文帯と刺突列 LR 縄文施文 沈線による横位連携弧線文。	H29 北西部	PL16
17	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部に無文帯 LR 縄文横位施文	H29 北西部	PL16
18	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文縦位施文	H29 西部	PL16
19	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・赤色粒子	7.5YR6/3 にぶい褐	LR 縄文口縁部横位・胴部縦位施文	H31 中央部	



第 57 図 遺構外出土遺物実測図 (1)



第 58 図 遺構外出土遺物実測図 (2)



第59図 遺構外出土遺物実測図(3)

第53表 遺構外出土遺物一覧(2)

番号	種別	器種	口径	器高	底径	胎土	色調	文様の特徴ほか	出土位置	備考
20	縄文土器	浅鉢 _カ	—	—	—	長石・石英・赤色粒子・黒色粒子	10YR6/2 灰黄褐	外・内面磨き	H31 中央部	
21	縄文土器	壺形	[4.0]	(2.6)	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	外・内面磨き 中期中葉～後葉 _カ	H31 中央部	
22	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR5/2 灰黄褐	口縁部文様帯あり 胴部 RL 縄文施文 称名寺式 _カ	H31 中央部	
23	縄文土器	壺形	—	—	—	長石・石英	7.5YR6/6 橙	内面に蓋受け部 微隆起線による文様施文	H29 北西部	
24	縄文土器	深鉢	—	(4.1)	—	長石・石英	10YR5/4 にぶい黄褐	台付深鉢 LR 縄文縦位施文	SI 2 周辺	PL 9
25	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	7.5YR4/1 褐灰	LR 縄文充填 沈線による対向U字文	SI 2 周辺	
26	縄文土器	深鉢	[8.4]	(5.1)	—	長石・石英	10YR3/1 黒褐	外・内面削り 口縁部内面に赤彩	H31 中央部	
27	縄文土器	深鉢	—	(2.2)	7.4	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	底部から内傾して立ち上がる キヤタピラ文状の文様があるか 底面平滑	H29 南部	10%
28	縄文土器	深鉢	—	(3.2)	[6.4]	長石・石英	10YR5/1 褐灰	台付深鉢の台部 外・内面磨き	H29 東部	10%
29	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	RL 縄文施文後無文部磨き 沈線施文 微隆起線脇なぞり 幅広の無文部 キヤリバー型の胴部 _カ	H29 北西部	
30	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英・細礫	10YR7/4 にぶい黄橙	RL 縄文施文後微隆起線脇なぞり 内面あはた状に剥離 微隆起線による逆U字文	H29 南部	
31	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	LR 縄文施文後微隆起線脇なぞり 微隆起線による対向U字文	SI 2 周辺	
32	縄文土器	深鉢	—	—	—	長石・石英	10YR7/4 にぶい黄橙	口縁部無文帯に突起 LR 縄文縦位施文	H29 北西部	
33	縄文土器	両耳壺 _カ	—	—	—	長石・石英・雲母	7.5YR6/4 にぶい橙	口縁部下広く無文帯 微隆起線脇に刺突列 胴部 RL 縄文施文	SI 2 周辺	

第54表 遺構外出土遺物一覧(3)

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
34	有孔円盤	7.2	7.2	1.2	48.4	長石・石英・雲母	10YR7/4 にぶい黄橙	周縁の研磨明瞭 裏面からの穿孔	H29 北部	PL17
35	有孔円盤	(6.2)	(3.4)	1.3	24.2	長石・石英・雲母・赤色粒子	7.5YR5/4 にぶい褐	残存する周縁の研磨明瞭 表・裏面からの穿孔	H29 北西部	PL17
36	有孔円盤	(3.9)	(3.3)	1.1	13.6	長石	10YR7/4 にぶい黄橙	残存する周縁の研磨明瞭 表・裏面からの穿孔	SI 2 周辺	
37	有孔円盤	4.0	(2.5)	1.0	8.2	長石・石英・赤色粒子	10YR5/3 にぶい黄褐	残存する周縁の研磨明瞭 裏面からの穿孔	SI 2 周辺	
38	土器片 円盤	4.3	3.9	1.1	19.8	石英	10YR6/3 にぶい黄橙	欠損部を除き全周研磨	SI 2 周辺	PL17
39	土器片 円盤	(3.4)	4.7	0.9	13.7	長石・赤色粒子	10YR6/4 にぶい黄橙	残存する周縁の研磨明瞭	H29 北部	
40	土器片 円盤	3.7	3.7	1.0	11.9	長石・石英	10YR6/4 にぶい黄橙	周縁敲打による成形で研磨見られず	H29 西部	PL17
41	土器片 円盤	3.6	3.8	0.8	9.9	長石・石英・雲母	10YR4/2 灰黄褐	左側の約1/2が研磨	SI 2 周辺	PL17
42	土器片 円盤	(3.3)	3.2	1.0	10.2	石英	10YR6/3 にぶい黄橙	側縁全周研磨	H29 西部	PL17
43	土器片 円盤	3.6	3.1	1.0	13.6	長石・石英・雲母	7.5YR5/6 明褐	側縁全周研磨	SI 2 周辺	PL17
44	土器片 鉢	5.4	4.6	1.1	28.9	長石・石英	10YR6/3 にぶい黄橙	長軸側に紐かけの抉り 両側縁研磨	H29 西部	PL17

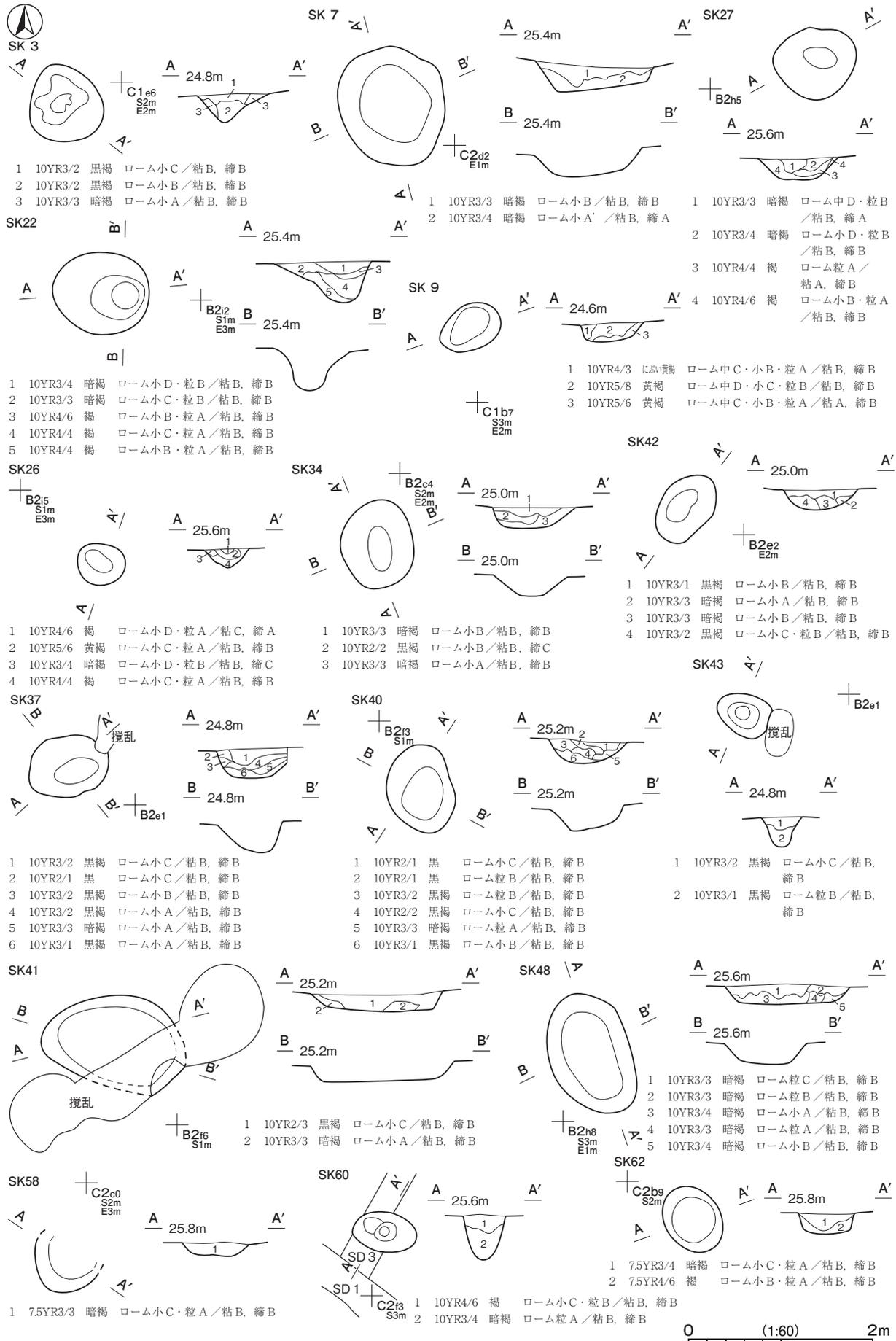
番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	材質	特徴	出土位置	備考
45	打製石斧	(7.3)	7.2	2.1	150.4	輝石安山岩	表裏に自然面残す 上部欠損	H29 西部	PL18
46	打製石斧	(6.6)	(4.1)	2.2	77.6	輝石安山岩	約1/4 残存 表裏に自然面残す 側縁部に敲打痕	SI 2 周辺	
47	磨製石斧	(3.9)	(2.1)	0.6	7.5	粘板岩	小型 下端部と側縁部の一部が欠損	H29 北部	PL18
48	磨石	(7.6)	7.0	4.2	350.7	安山岩	表裏磨り面 下端部に敲打痕	H29 西部	PL18
49	磨石	(9.2)	(9.4)	(2.4)	330.6	硬砂岩	表裏磨り面 側縁部敲打痕	H31 中央部	
50	磨石	(8.2)	(7.5)	4.8	343.9	安山岩	表裏磨り面	H29 西部	PL18
51	敲石	(9.6)	7.9	2.9	381.7	硬砂岩	表裏磨り面 右側縁部に敲打痕	H29 北部	PL18
52	凹石	16.5	16.2	4.9	1910.0	粘板岩	表裏に窪み 全体的に摩滅しており磨り面は確認できず	H29 北部	PL18
53	石錐 未成品	(4.1)	(2.2)	0.7	5.2	チャート	先端部欠損 両面押圧剥離	H31 中央部	PL18
54	石鏃	3.2	2.1	0.3	1.8	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	H29 西部	PL17
55	石鏃	2.1	1.7	0.4	1.0	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	SI 2 周辺	PL17
56	石鏃	2.2	1.6	0.3	0.8	チャート	凹基無茎鏃 両面押圧剥離	H29 北部	PL17
57	打製 石斧	(6.5)	(6.7)	(2.0)	82.3	角閃石安山岩	表面自然面を一部残して剥離痕 裏面・上下欠損	H29 北部	観察表のみ
58	砥石	(2.2)	(2.4)	(2.0)	13.2	凝灰岩	砥面2面確認 縄文時代以降	H29 西部	観察表のみ
59	磨石	(4.3)	(3.0)	(4.0)	322.1	硬砂岩	磨り面の一部を確認	H29 北西部	観察表のみ
60	磨石	(6.6)	(6.5)	(4.6)	262.5	輝石安山岩	磨り面の一部を確認	H29 北西部	観察表のみ
61	磨石	(4.6)	6.3	3.0	152.3	砂岩 ホルンフェルス	表面・1側縁が磨り面	H29 北部	観察表のみ
62	磨石	(4.6)	(4.7)	(3.9)	128.7	硬砂岩	磨り面の一部を確認	H29 北部	観察表のみ
63	磨石	(3.8)	(6.6)	(1.4)	36.7	安山岩	磨り面の一部を確認	H29 北部	観察表のみ
64	磨石	(2.2)	(3.7)	(1.5)	12.6	硬砂岩	磨り面の一部を確認	H29 北部	観察表のみ
65	石皿	(5.5)	(8.0)	6.7	315.4	砂岩	表裏磨り面	H29 東部	観察表のみ
66	磨石	(4.6)	(4.4)	(3.6)	287.3	硬砂岩	磨り面の一部を確認	SI 2 周辺	観察表のみ
67	磨石	(2.3)	(3.2)	(0.8)	267.5	硬砂岩	磨り面の一部を確認	SI 2 周辺	観察表のみ
68	磨石	(3.0) (2.3)	(3.7) (2.8)	(1.0) (0.6)	324.6	砂岩	同一個体の2片 磨り面の一部	SI 2 周辺	観察表のみ

2 時期不明の遺構と遺物

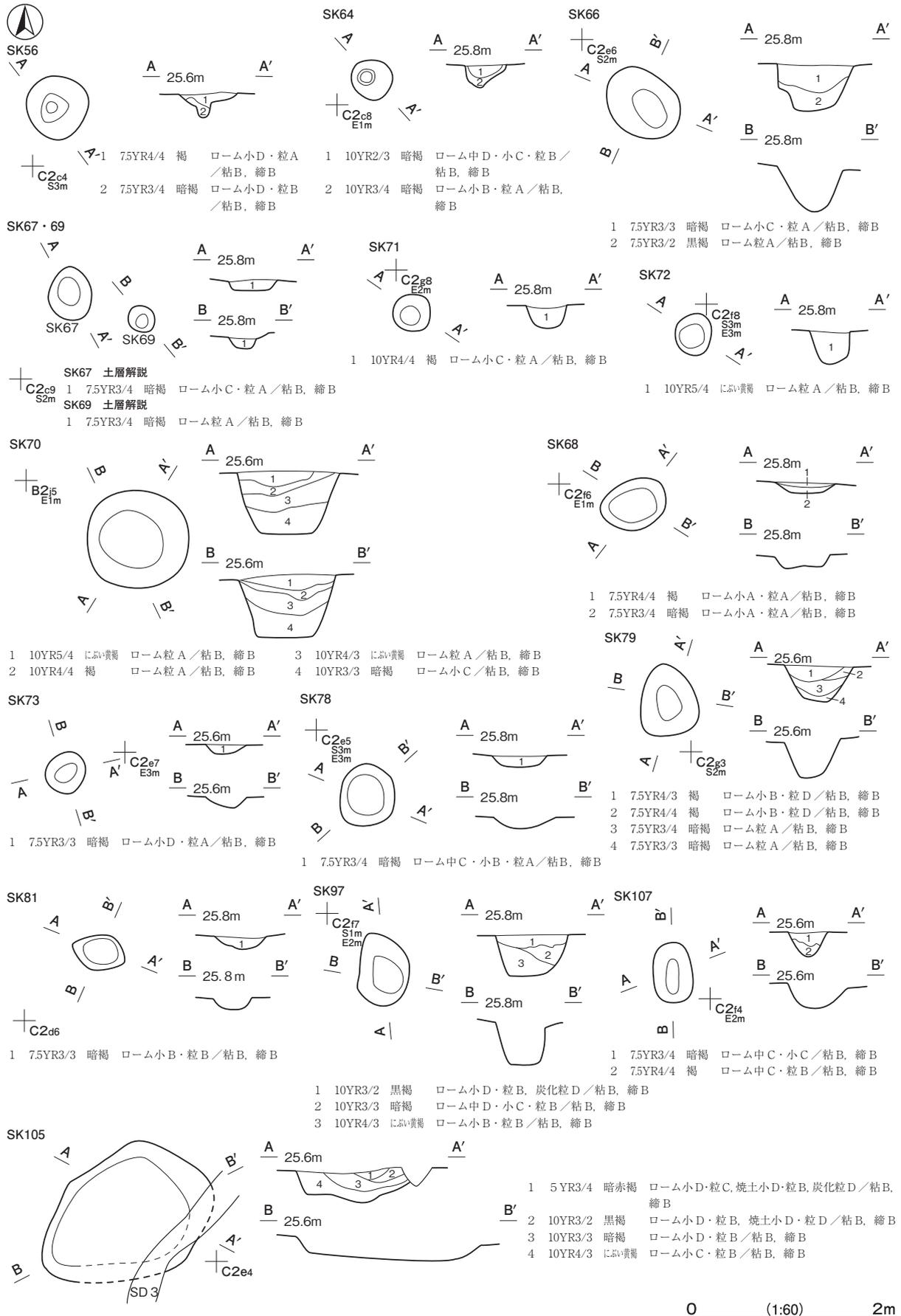
時期が不明な遺構は、土坑37基、溝跡3条、ピット群17か所である。以下、主な遺構及び遺物について記述する。

(1) 土坑(第60～62図)

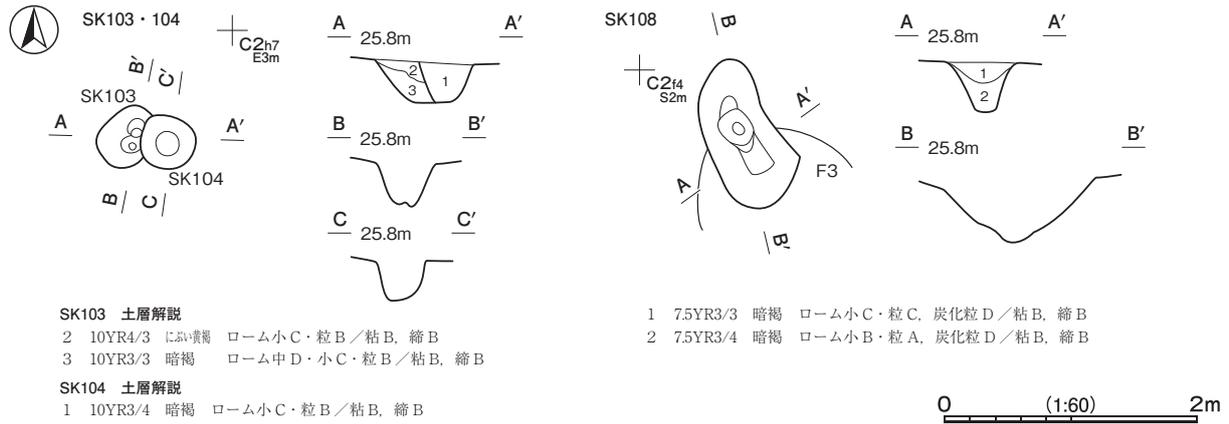
時期不明の土坑は、実測図と一覧表を掲載する。



第 60 図 時期不明の土坑実測図 (1)



第 61 図 時期不明の土坑実測図 (2)



第62図 時期不明の土坑実測図(3)

第55表 時期不明の土坑一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模		底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長径×短径(m)	深さ(cm)					
3	C 1 e6	N-56°-W	楕円形	0.88 × 0.78	31	皿状	外傾	人為	—	
7	C 2 c2	N-27°-W	楕円形	1.35 × 1.18	27	平坦	緩斜	人為	—	
9	C 1 b7	N-65°-E	楕円形	0.70 × 0.50	24	平坦	外傾	人為	—	
22	B 2 i2	N-85°-W	楕円形	1.15 × 0.90	45	平坦	緩斜外傾	人為	—	
26	B 2 i5	N-51°-W	楕円形	0.53 × 0.48	25	平坦	外傾	人為	—	
27	B 2 g5	N-60°-E	楕円形	0.87 × 0.76	27	平坦	緩斜	人為	—	
34	B 2 c4	N-10°-W	楕円形	0.95 × 0.79	21	平坦	緩斜	自然	—	
37	B 1 d0	N-80°-E	[楕円形]	0.88 × 0.69	31	平坦	緩斜外傾	人為	—	
40	B 2 f3	N-4°-E	楕円形	0.95 × 0.85	26	平坦	緩斜外傾	人為	縄文土器	
41	B 2 f5	N-87°-W	楕円形	1.56 × 1.05	19	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
42	B 2 d2	N-37°-E	楕円形	0.84 × 0.54	24	平坦	緩斜外傾	人為	—	
43	B 1 e0	N-60°-W	楕円形	0.60 × 0.45	32	平坦	外傾	人為	—	
48	B 2 h8	N-19°-W	楕円形	1.37 × 0.86	23	平坦	緩斜外傾	人為	—	
56	C 2 c4	—	円形	0.68 × 0.63	29	平坦	外傾	人為	縄文土器	
58	C 2 c0	—	[円形] [楕円形]	0.75 × [0.45]	14	平坦	外傾	人為	—	
60	C 2 f3	N-75°-W	楕円形	0.68 × 0.44	50	皿状	外傾	自然	—	SD 3→本跡
62	C 2 b9	N-33°-W	楕円形	0.78 × 0.60	23	平坦	外傾	自然	—	
64	C 2 b8	—	円形	0.44 × 0.43	27	皿状	外傾	人為	—	
66	C 2 e6	N-42°-W	楕円形	0.87 × 0.68	48	平坦	外傾	自然	—	
67	C 2 c9	N-8°-W	楕円形	0.57 × 0.46	15	平坦	緩斜	人為	—	
68	C 2 f6	N-50°-E	楕円形	0.70 × 0.53	12	平坦	緩斜	自然	縄文土器	
69	C 2 c9	—	円形	0.30 × 0.28	14	平坦	緩斜	自然	—	
70	B 2 j5	—	円形	1.12 × 1.08	68	平坦	ほぼ直立外傾	自然	—	
71	C 2 g8	—	円形	0.42 × 0.41	23	平坦	緩斜外傾	人為	縄文土器	
72	C 2 f8	N-29°-E	楕円形	0.45 × 0.40	32	平坦	外傾	人為	—	
73	C 2 e7	—	円形	0.47 × 0.43	10	平坦	緩斜	人為	—	
75	C 2 f3	N-73°-W	楕円形	0.75 × 0.54	15	平坦	外傾	人為	—	SK76→本跡 第55図参照
77	C 2 f3	N-79°-E	楕円形	0.80 × 0.63	50	平坦	ほぼ直立外傾	人為	—	SK76→本跡 第55図参照
78	C 2 e5	N-3°-W	楕円形	0.68 × 0.58	12	緩斜	平坦	人為	—	
79	C 2 g2	N-13°-W	楕円形	0.79 × 0.64	39	平坦	外傾	人為	—	
81	C 2 c6	N-70°-W	楕円形	0.60 × 0.38	13	平坦	緩斜外傾	自然	—	
97	C 2 f7	N-21°-W	楕円形	0.79 × 0.60	44	平坦	ほぼ直立	人為	—	
103	C 2 h7	N-22°-E	[楕円形]	0.50 × (0.40)	32	凹凸	外傾	人為	—	本跡→SK104
104	C 2 h7	—	円形	0.45 × 0.44	34	平坦	外傾	人為	—	SK103→本跡
105	C 2 d3	N-63°-E	[楕円形]	1.98 × [1.25]	34	平坦	外傾緩斜	人為	—	本跡→SD 3
107	C 2 e4	N-3°-W	楕円形	0.65 × 0.42	25	平坦	外傾	人為	—	
108	C 2 f4	N-11°-W	楕円形	1.21 × 0.56	45	凹凸	緩斜	人為	—	F 3→本跡

(2) 溝跡

第1号溝跡 (第63・64・67・69図 PL7)

位置 調査区中央部から西部のC2j6区～C1c6区にかけて、標高26.0～24.5mの台地上に位置している。

重複関係 第3号溝を掘り込んでいる。

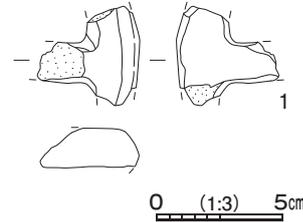
規模と形状 C2j6区から北西方向(N-63°-W)にC1c6区まで、直線状に延びている。確認できた長さは48.85m、

上幅28～62cm、下幅6～31cm、深さ12～27cmである。断面はU字状で、外傾している。

覆土 3層に分層できる。第1・3層にロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

遺物出土状況 土製品1点(五徳_カ)が出土している。

所見 出土遺物は少なく、時期・性格ともに不明である。



第63図 第1号溝跡出土遺物実測図

第56表 第1号溝跡出土遺物一覧

番号	器種	長さ	幅	厚さ	重量	胎土	色調	特徴	出土位置	備考
1	五徳 _カ	(3.9)	(4.0)	1.6	17.8	長石・石英・赤色粒子	5YR6/6 橙	透かし孔2孔確認 裏面無調整 鍋敷き状のものか	覆土中	PL17

第2号溝跡 (第64・67図)

位置 調査区西部のC2d1区～C2b1区にかけて、標高25.0mの台地上に位置している。

規模と形状 C2d1区から北西方向(N-52°-W)にC2b1区まで、L字状に延びている。長さは8.50mで、上幅22～64cm、下幅4～43cm、深さ10～19cmである。断面は逆台形で、外傾している。

覆土 2層に分層できる。レンズ状に堆積していることから、自然堆積である。

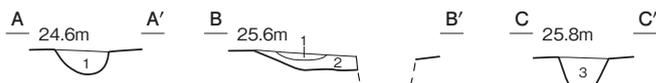
所見 出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

第3号溝跡 (第64・68・69図 PL7)

位置 調査区中央部のB2j6区～C2f2区にかけて、標高25.5mの台地上に位置している。

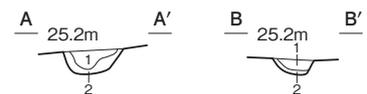
重複関係 第8号竪穴建物跡、第105号土坑を掘り込み、第60号土坑、第1号溝に掘り込まれている。

SD1



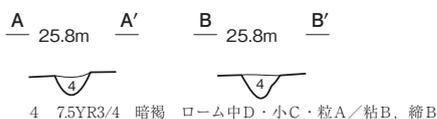
- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小B/粘B, 締B
- 2 7.5YR3/3 暗褐 ローム小D・粒B/粘B, 締B
- 3 7.5YR3/3 暗褐 ローム中B・小D・粒B/粘B, 締B

SD2



- 1 10YR3/2 黒褐 ローム小C/粘B, 締B
- 2 10YR3/3 暗褐 ローム小B/粘B, 締B

SD3



- 4 7.5YR3/4 暗褐 ローム中D・小C・粒A/粘B, 締B



第64図 時期不明の溝跡実測図

規模と形状 B 2j6 区から南西方向(N - 148° - W)にC 2f2 区まで、直線状に延びている。長さは 28.90m で、上幅 24 ~ 40cm, 下幅 4 ~ 18cm, 深さ 14 ~ 18cmである。断面はU字状で、外傾している。

覆土 単一層である。ロームブロックを含んでいることから、埋め戻されている。

所見 出土遺物はなく、時期・性格ともに不明である。

第 57 表 時期不明の溝跡一覧

番号	位置	長径方向	平面形	規模				底面	壁面	覆土	主な出土遺物	備考
				長さ (m)	上幅 (cm)	下幅 (cm)	深さ (cm)					
1	C 2j6	N - 63° - W	直線状	48.85	28 ~ 62	6 ~ 31	12 ~ 27	U字状	外傾	人為	土製品 (五徳 ₉)	SD 3 → 本跡
2	C 2d1	N - 52° - W	L字状	8.50	22 ~ 64	4 ~ 43	10 ~ 19	逆台形	外傾	自然	—	
3	B 2j6	N - 148° - W	直線状	28.90	24 ~ 40	4 ~ 18	14 ~ 18	U字状	外傾	人為	—	SI 8, SK105 → 本跡 → SK60, SD 1

(3) ピット群 (第 65 ~ 70 図 PL 7)

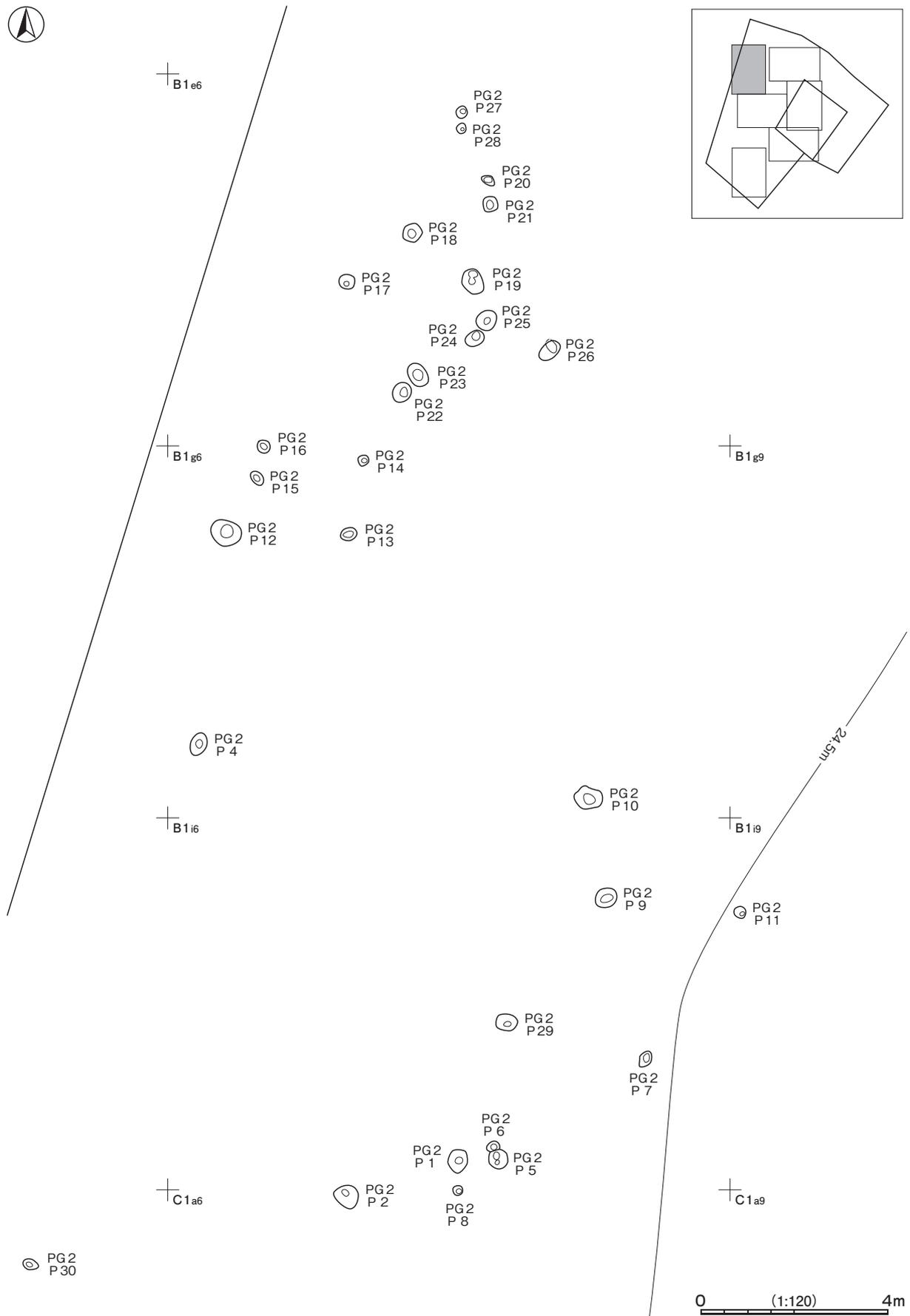
時期不明のピット群は 17 か所確認した。全体の配置図は調査区を 6 分割して作成、規模は計測表にて掲載する

第 58 表 第 1 号ピット群ピット一覧

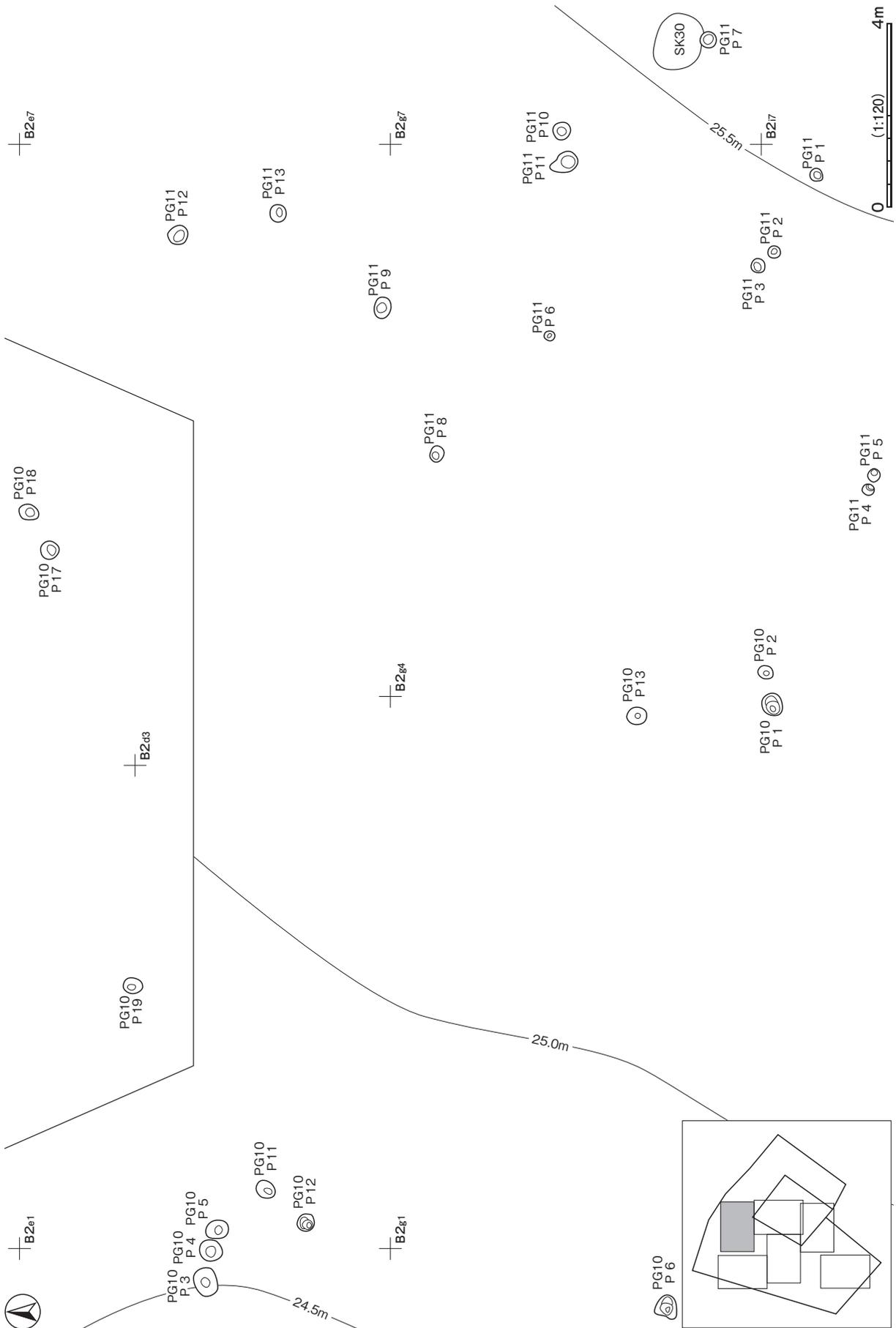
番号	位置	形状	規模		深さ (cm)	番号	位置	形状	規模		深さ (cm)	番号	位置	形状	規模		深さ (cm)
			長軸 × 短軸 (cm)	(cm)					長軸 × 短軸 (cm)	(cm)					長軸 × 短軸 (cm)	(cm)	
1	C 1d5	円形	24 × 22	25	9	C 1e4	楕円形	17 × 14	14	17	C 1e5	円形	28 × 26	17			
2	C 1d5	楕円形	26 × 18	32	10	C 1e5	楕円形	25 × 20	22	18	C 1e5	楕円形	33 × 20	19			
3	C 1d4	円形	32 × 32	26	11	C 1e4	楕円形	40 × 32	37	19	C 1d4	楕円形	32 × 28	22			
4	C 1d4	円形	26 × 24	12	12	C 1e4	楕円形	28 × 20	17	20	C 1d4	楕円形	26 × 16	16			
5	C 1d5	楕円形	35 × 31	24	13	C 1e4	楕円形	26 × 17	13	21	C 1d5	楕円形	22 × 16	19			
6	C 1d4	楕円形	36 × 27	22	14	C 1d4	楕円形	26 × 22	16	22	C 1e4	楕円形	40 × 33	20			
7	C 1d4	楕円形	36 × 26	20	15	C 1d4	不整円形	82 × (52)	25	23	C 1e4	楕円形	34 × 30	10			
8	C 1e4	楕円形	32 × 24	13	16	C 1d4	円形	42 × 40	15								

第 59 表 第 2 号ピット群ピット一覧

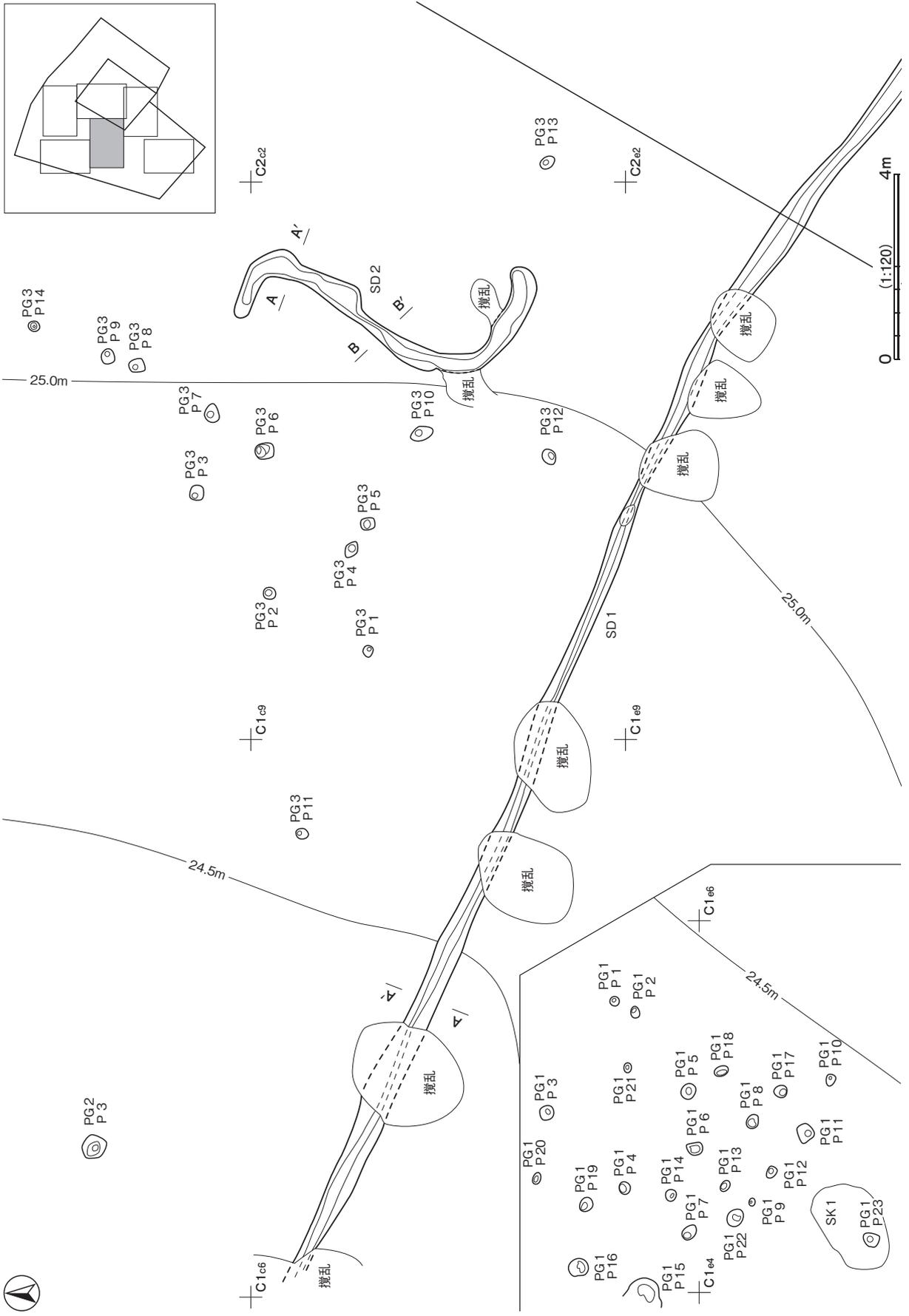
番号	位置	形状	規模		深さ (cm)	番号	位置	形状	規模		深さ (cm)	番号	位置	形状	規模		深さ (cm)
			長軸 × 短軸 (cm)	(cm)					長軸 × 短軸 (cm)	(cm)					長軸 × 短軸 (cm)	(cm)	
1	B 1j7	楕円形	50 × 44	20	11	B 1i9	円形	26 × 24	26	21	B 1e7	円形	33 × 32	15			
2	C 1a6	楕円形	54 × 46	30	12	B 1g6	楕円形	66 × 54	30	22	B 1f7	楕円形	44 × 38	22			
3	C 1b6	不整円形	52 × 48	48	13	B 1g6	楕円形	34 × 26	23	23	B 1f7	楕円形	53 × 38	29			
4	B 1h6	楕円形	53 × 34	25	14	B 1g7	円形	24 × 24	25	24	B 1f7	楕円形	42 × 30	18			
5	B 1j7	円形	42 × 42	50	15	B 1g6	楕円形	34 × 22	14	25	B 1f7	楕円形	47 × 42	25			
6	B 1j7	[円形]	28 × (20)	20	16	B 1g6	楕円形	30 × 26	10	26	B 1f8	楕円形	50 × 32	60			
7	B 1j8	楕円形	40 × 25	38	17	B 1f6	円形	34 × 34	16	27	B 1e7	円形	26 × 24	30			
8	C 1a7	円形	22 × 20	18	18	B 1e7	円形	40 × 40	14	28	B 1e7	円形	22 × 22	14			
9	B 1i8	楕円形	48 × 40	19	19	B 1f7	楕円形	56 × 43	28	29	B 1j7	楕円形	46 × 36	20			
10	B 1h8	不整楕円形	62 × 48	20	20	B 1e7	楕円形	32 × 19	36	30	C 1a5	楕円形	34 × 24	14			



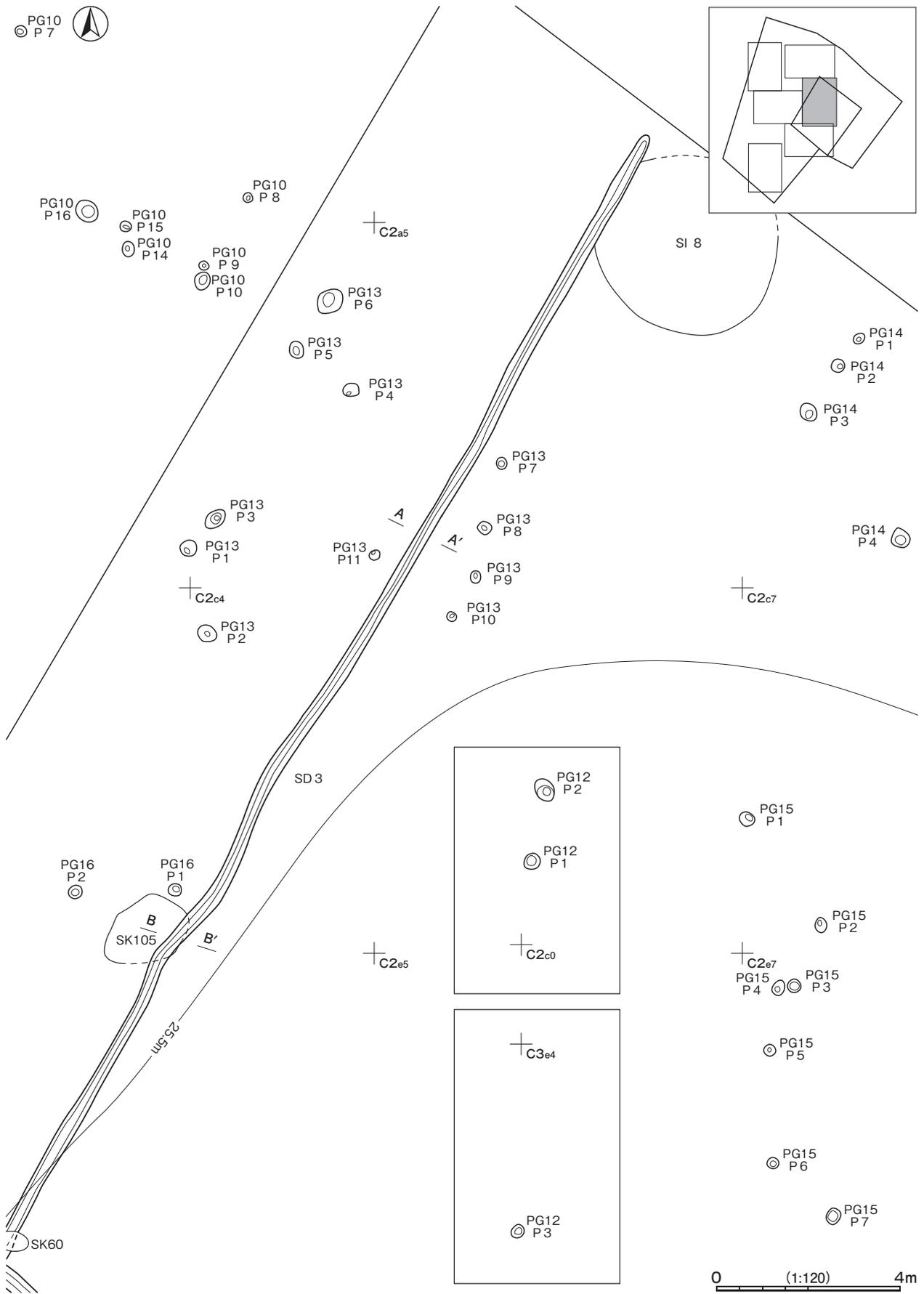
第 65 図 時期不明の溝跡・ピット群実測図 (1)



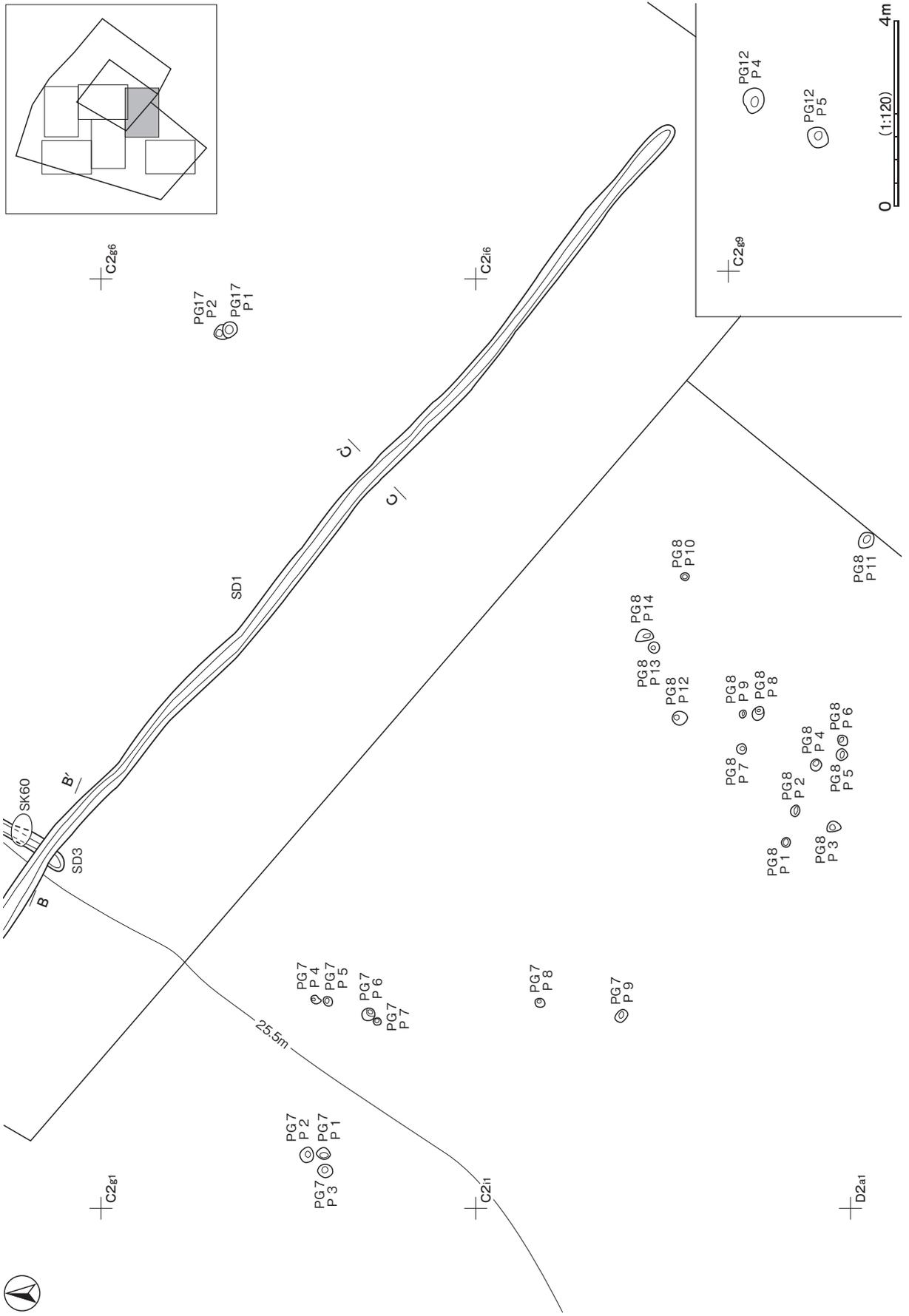
第 66 図 時期不明の溝跡・ピット群実測図 (2)



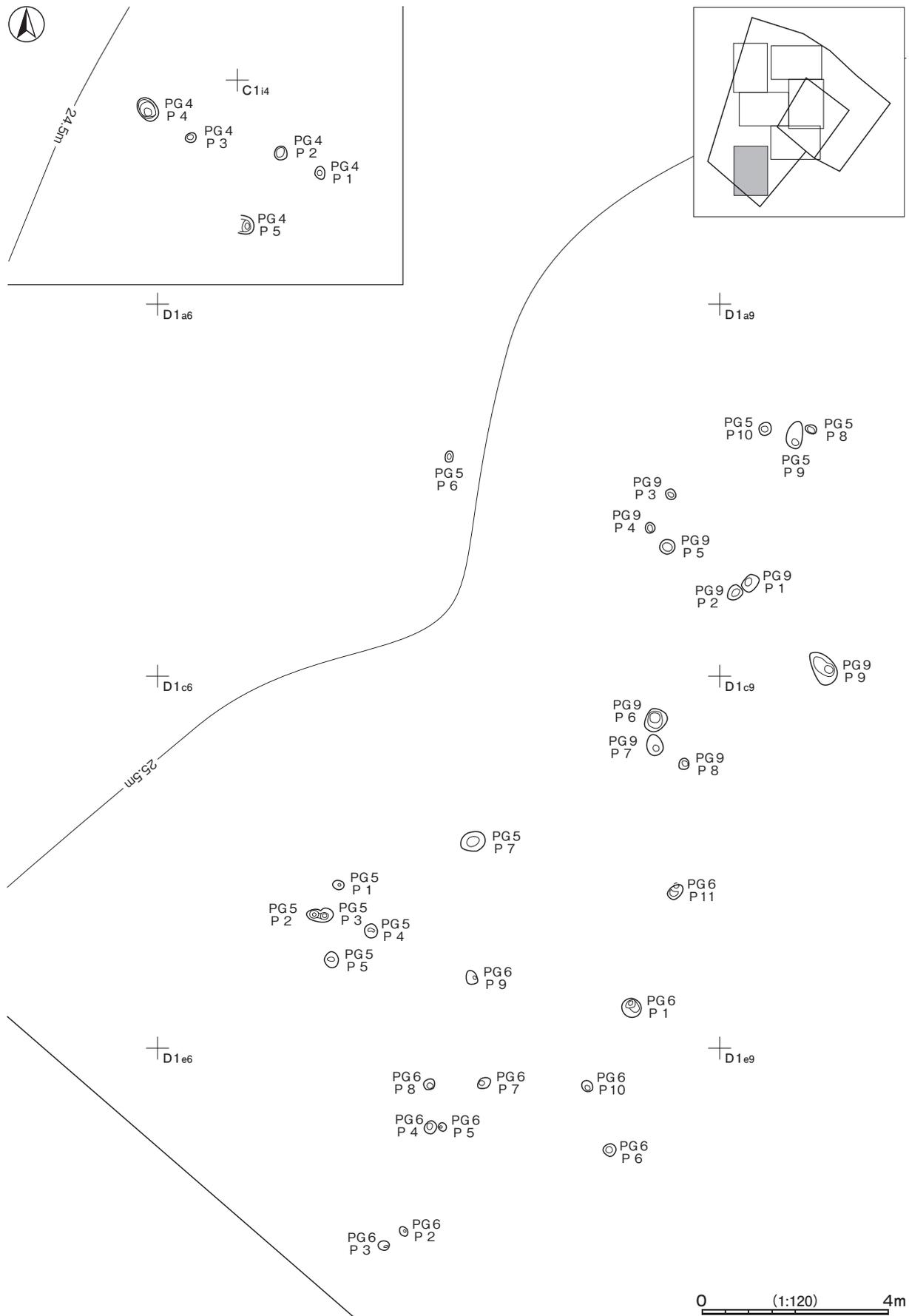
第 67 図 時期不明の溝跡・ピット群実測図 (3)



第 68 図 時期不明の溝跡・ピット群実測図 (4)



第 69 図 時期不明の溝跡・ピット群実測図 (5)



第70図 時期不明の溝跡・ピット群実測図(6)

第60表 第3号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	C 1c9	円形	26 × 24	29	6	C 1c0	楕円形	40 × 34	74	11	C 1c8	楕円形	26 × 22	27
2	C 1c9	円形	26 × 26	50	7	C 1b0	楕円形	40 × 34	42	12	C 1d0	楕円形	35 × 27	39
3	C 1b0	円形	36 × 34	26	8	C 2b1	楕円形	34 × 30	24	13	C 2d2	楕円形	35 × 24	50
4	C 1c0	楕円形	40 × 26	52	9	C 2b1	円形	32 × 30	25	14	C 2a1	円形	24 × 22	60
5	C 1c0	楕円形	30 × 26	50	10	C 1c0	楕円形	50 × 30	44					

第61表 第4号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)	
1	C 1i4	楕円形	28 × 20	22
2	C 1i4	円形	29 × 27	20
3	C 1i3	楕円形	24 × 20	18
4	C 1i3	楕円形	55 × 40	42
5	C 1i4	[楕円形]	38 × (30)	25

第62表 第5号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	D 1d6	円形	23 × 21	30	6	D 1a7	楕円形	25 × 17	30
2	D 1d6	[楕円形]	30 × 24	50	7	D 1c7	楕円形	55 × 42	40
3	D 1d6	[円形]	32 × 30	58	8	D 1a9	楕円形	26 × 20	15
4	D 1d7	楕円形	30 × 26	22	9	D 1a9	楕円形	60 × 33	34
5	D 1d6	楕円形	34 × 30	29	10	D 1a9	円形	29 × 27	22

第63表 第6号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	D 1d8	円形	42 × 40	37	5	D 1e7	円形	18 × 17	19	9	D 1d7	楕円形	30 × 23	40
2	D 1e7	楕円形	22 × 15	22	6	D 1e8	円形	26 × 26	33	10	D 1e8	楕円形	26 × 22	39
3	D 1f7	楕円形	22 × 20	38	7	D 1e7	楕円形	30 × 23	38	11	D 1d8	楕円形	37 × 24	50
4	D 1e7	楕円形	28 × 24	24	8	D 1e7	円形	23 × 23	30					

第64表 第7号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	C 2h1	楕円形	30 × 24	19	6	C 2h2	楕円形	30 × 27	25
2	C 2h1	楕円形	34 × 30	26	7	C 2h2	楕円形	18 × 16	14
3	C 2h1	楕円形	32 × 28	37	8	C 2i2	楕円形	21 × 19	30
4	C 2h2	楕円形	20 × 16	25	9	C 2i2	楕円形	29 × 20	27
5	C 2h2	楕円形	22 × 18	20					

第 65 表 第 8 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	C 2j2	円形	21 × 20	16	6	C 2j3	楕円形	25 × 20	30	11	D 2a4	楕円形	40 × 30	26
2	C 2j3	楕円形	25 × 18	15	7	C 2j3	円形	23 × 21	16	12	C 2j3	円形	30 × 28	29
3	C 2j3	楕円形	30 × 23	16	8	C 2j3	楕円形	31 × 24	25	13	C 2i4	円形	23 × 23	43
4	C 2j3	円形	24 × 22	12	9	C 2j3	円形	16 × 15	12	14	C 2i4	楕円形	40 × 26	22
5	C 2j3	楕円形	25 × 22	16	10	C 2j4	楕円形	16 × 14	18					

第 66 表 第 9 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	D 1b9	楕円形	38 × 27	37	6	D 1c8	楕円形	54 × 43	62
2	D 1b9	楕円形	35 × 30	32	7	D 1c8	楕円形	45 × 33	26
3	D 1b8	円形	22 × 22	14	8	D 1c8	楕円形	26 × 22	23
4	D 1b8	楕円形	23 × 20	13	9	D 1b9	楕円形	76 × 47	44
5	D 1b8	円形	32 × 30	20					

第 67 表 第 10 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	B 2i3	楕円形	50 × 43	33	8	B 2j4	円形	20 × 20	25	15	C 2a3	円形	24 × 24	35
2	B 2i4	楕円形	33 × 28	16	9	C 2a4	円形	20 × 20	12	16	B 2j3	楕円形	52 × 42	17
3	B 1f0	楕円形	62 × 48	29	10	C 2a4	楕円形	40 × 34	13	17	B 2c4	円形	40 × 38	13
4	B 1f0	円形	50 × 48	20	11	B 2f1	楕円形	42 × 35	19	18	B 2c4	楕円形	40 × 33	24
5	B 2f1	楕円形	52 × 40	17	12	B 2f1	楕円形	40 × 36	35	19	B 2c1	楕円形	42 × 35	37
6	B 1h0	不整円形	50 × 46	30	13	B 2h3	楕円形	44 × 37	32					
7	B 2i3	円形	26 × 24	40	14	C 2a3	楕円形	32 × 26	19					

第 68 表 第 11 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	B 2i6	円形	29 × 27	23	6	B 2g5	円形	22 × 22	26	11	B 2g6	楕円形	62 × 44	28
2	B 2i6	円形	27 × 26	26	7	B 2h7	円形	36 × 36	20	12	B 2e6	円形	44 × 41	40
3	B 2h6	円形	31 × 30	27	8	B 2g5	円形	36 × 33	62	13	B 2f6	円形	38 × 38	32
4	B 2i5	円形	26 × 24	33	9	B 2f6	楕円形	46 × 36	26					
5	B 2i5	円形	29 × 27	33	10	B 2g7	円形	40 × 40	30					

第 69 表 第 12 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	C 2 b0	円 形	36 × 36	42	4	C 2 g9	楕 円 形	54 × 46	22
2	C 2 b0	楕 円 形	50 × 38	43	5	C 2 g9	楕 円 形	46 × 41	21
3	C 3 f3	楕 円 形	30 × 26	34					

第 70 表 第 13 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	C 2 b4	円 形	36 × 35	26	5	C 2 a4	楕 円 形	38 × 31	46	9	C 2 b5	楕 円 形	27 × 21	10
2	C 2 c4	楕 円 形	43 × 36	24	6	C 2 a4	楕 円 形	63 × 51	31	10	C 2 c5	円 形	22 × 20	22
3	C 2 b4	楕 円 形	50 × 33	20	7	C 2 b5	楕 円 形	26 × 22	24	11	C 2 b5	楕 円 形	24 × 20	15
4	C 2 a4	楕 円 形	35 × 28	54	8	C 2 b5	楕 円 形	30 × 27	23					

第 71 表 第 14 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)	
1	C 2 a7	楕 円 形	28 × 20	10
2	C 2 a7	円 形	28 × 28	19
3	C 2 b7	楕 円 形	41 × 34	40
4	C 2 b7	円 形	44 × 40	32

第 72 表 第 15 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)	番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)					長軸×短軸 (cm)	
1	C 2 d7	楕 円 形	33 × 29	27	5	C 2 e7	円 形	26 × 25	12
2	C 2 d7	楕 円 形	31 × 25	33	6	C 2 f7	円 形	26 × 24	22
3	C 2 e7	円 形	28 × 26	11	7	C 2 f7	楕 円 形	37 × 29	13
4	C 2 e7	楕 円 形	33 × 26	18					

第 73 表 第 16 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)	
1	C 2 d3	楕 円 形	28 × 25	18
2	C 2 d3	楕 円 形	33 × 28	18

第 74 表 第 17 号ピット群ピット一覧

番号	位置	形状	規模	深さ (cm)
			長軸×短軸 (cm)	
1	C 2 g5	楕 円 形	37 × 32	15
2	C 2 g5	[円 形]	32 × (20)	15

第4節 総括

1 はじめに

今回の調査で、縄文時代の竪穴建物跡8棟、炉跡3基、土坑56基、時期不明の土坑37基、溝跡3条、ピット群17か所を確認した。ここでは、縄文時代の出土遺物について概観し、まとめとしたい。

2 縄文時代中期後半から後期初頭の土器様相について

(1) 縄文時代中期後半から後期初頭にかけての土器研究について

ここでは、本遺跡から出土した中期後半から後期初頭にかけての加曾利E式土器について記載する。本県のこの時期の土器研究は、柳澤清一氏によるものが知られている¹⁾。また、東関東の加曾利E式期後半の土器群と地域性について加納実氏がまとめている²⁾。加納氏は、加曾利EⅢ～V式の主要な土器群として、①キャリパー形土器、②横位連弧線文土器、③意匠充填系土器に分けている。さらに、②を対向系横位連携弧線文土器と入組系横位連携弧線文土器に分類している。対向系横位連携弧線文土器は胴上半に横位に連結されたU字文、胴下半に逆U字文が沈線や微隆帯によって描かれている。それに対し、入組系横位連携弧線文土器は口縁部から胴部半ばまで垂下するU字文と、胴下半から口縁部へ向かって伸び上がる逆U字文が交互に入り組む文様構成を採っている。また、千葉毅氏は加納氏や鈴木徳雄氏の変遷³⁾を基に、文様から対向横位連携弧線文・入組弧線文・球抱文・平行垂下文・胴部無文土器群の5群に分類している⁴⁾。特に、入組弧線文土器群は入組文が口縁部まで伸びあがり、口縁部区画線に変化が生じる段階を加曾利EⅤ式の開始段階と捉えている。

なお、後期初頭の土器については、称名寺式土器が成立した後も加曾利E式系の土器が存続することを踏まえ、この時期の加曾利E式を加曾利EⅤ式⁵⁾と呼称する。

(2) 本遺跡における土器様相について

本遺跡で集落が営まれた時期は、加曾利EⅢ式新段階から加曾利EⅤ式⁶⁾までの3期に細分されることから、それらの特徴を示す。

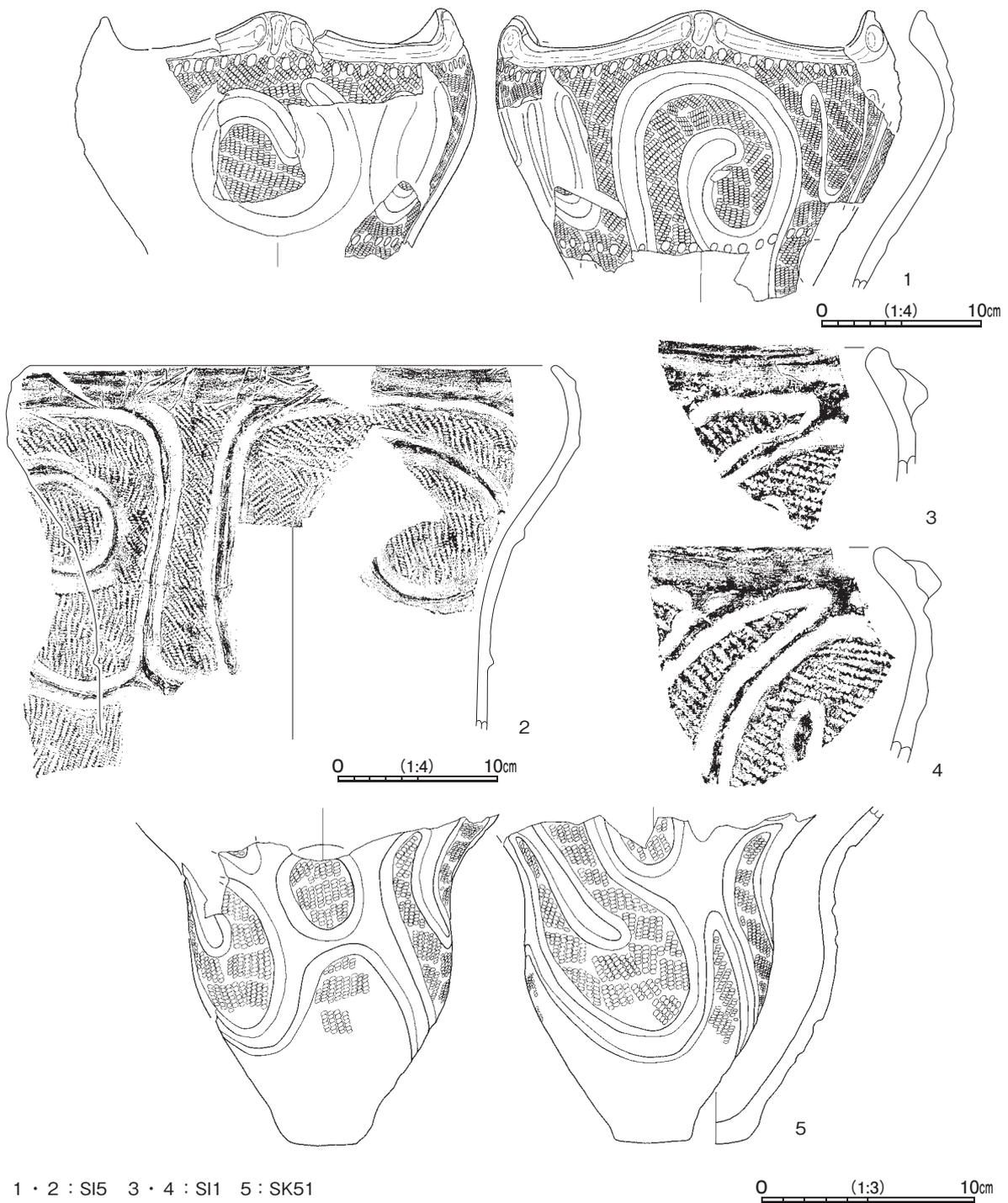
1期（第71図）

加曾利EⅢ式新段階で、第5号竪穴建物跡出土土器を指標とし、第1・7号竪穴建物跡、第8・36・38・47・51号土坑出土の土器も含まれる。

本時期の土器群は、口縁部文様帯が明瞭でなくなり、胴部文様帯が発達する段階で、微隆起線による渦巻文を胴部全体に描くものが大半を占めている。一部、磨消縄文による対向U字文と思われる施文もみられる。器形は平縁で、口縁部が強く内湾するものが多く、一部キャリパー形のものも含まれる。組成では、微隆起線による渦巻文が施された有孔罅付土器や橋状把手をもつ壺形土器が加わっている。第71図1は、磨消縄文による渦巻文・C字文・U字文を施文されている。5は、磨消縄文によるアルファベット文と思われる、数少ない大木式の影響を受けている土器である。ただ、大木式土器の影響を受けていると思われる土器はこの1点のみで、東北地方との関連が弱いと思われる。

2期（第72図）

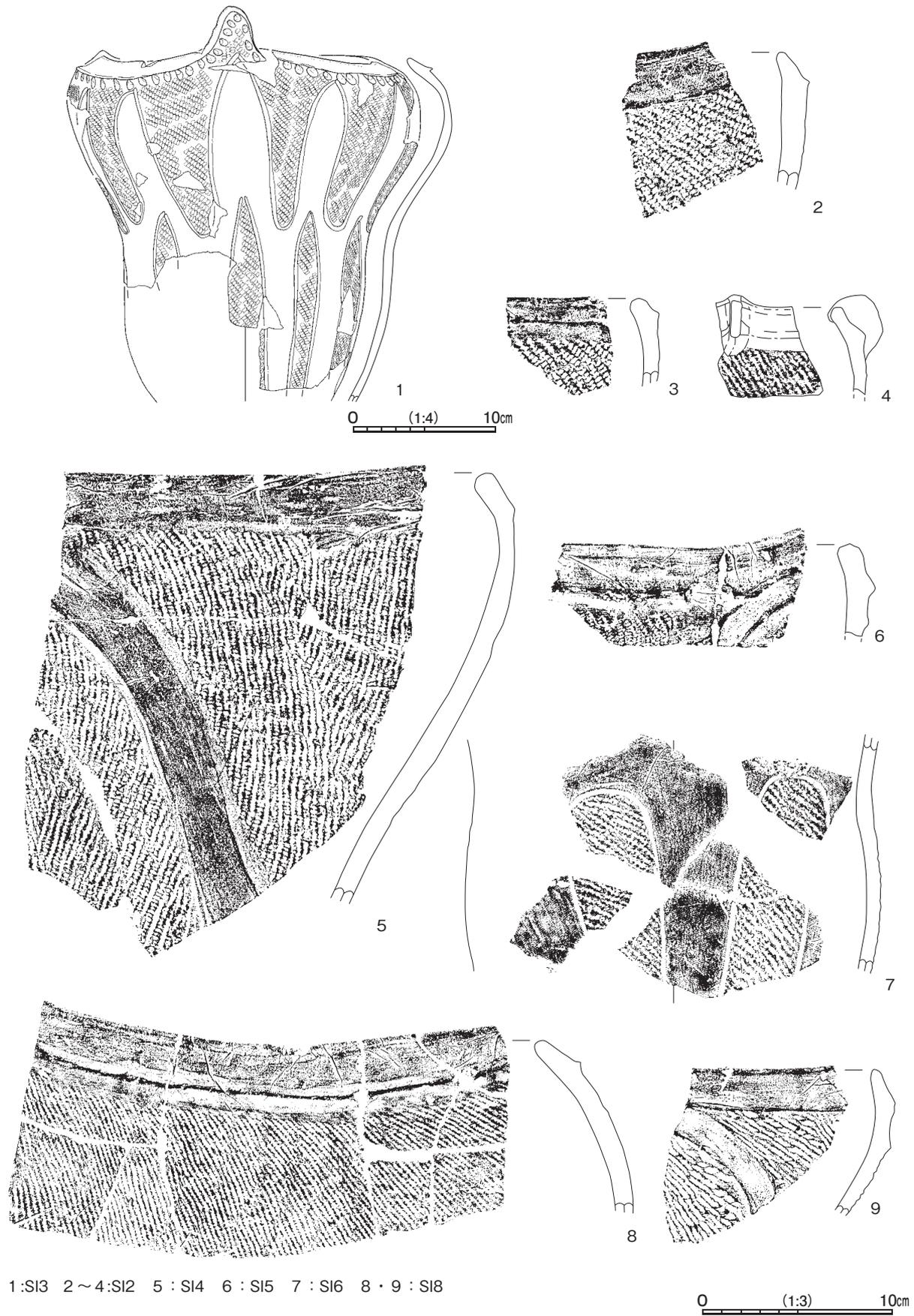
加曾利EⅣ式で、第3号竪穴建物跡出土土器を指標とし、第1・2・4～8号竪穴建物跡、第3号炉跡、第4・14・25・29・32・38・39・44・45・49・111号土坑出土の土器が含まれる。ほぼ全ての遺構から同



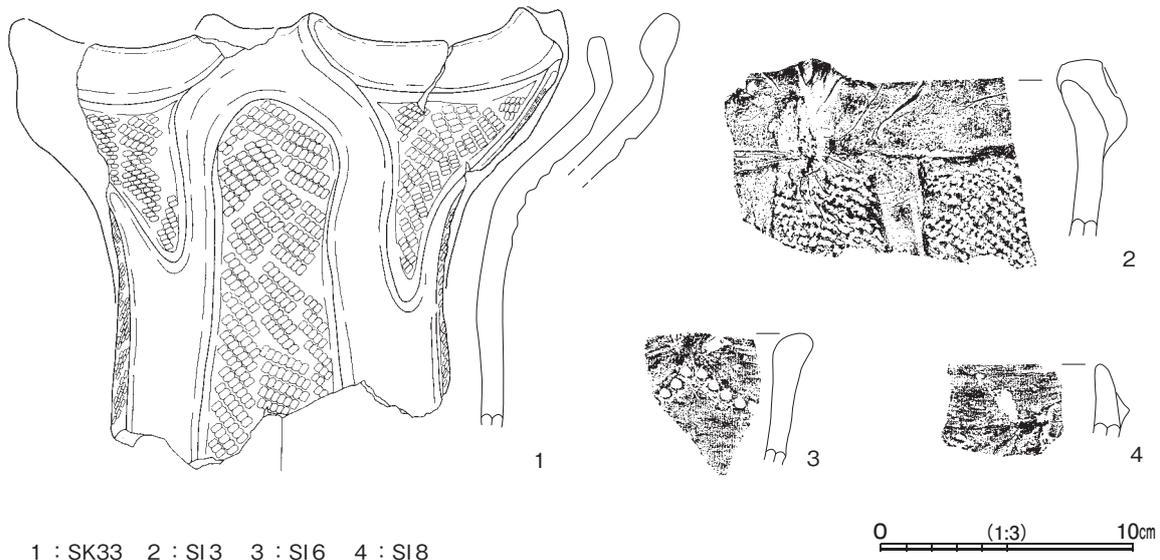
第71図 1期の土器群

時期の土器が出土しており、主要な時期であると考えられる。

本期の土器群は、口縁部文様帯が一条の沈線ないし微隆起線で区画される。胴部は微隆起線によるU字形の施文が主流になっている。文様は渦巻文・U字状文・横位連携弧線文があり、U字状文が大半を占めている。また、微隆起線による文様の施文が多く、沈線による施文と比較して8：2の割合で見られる。器形は平縁と緩い波状のものがある。断面形は前時期と同様、口縁部が強く内湾するものが多い。組成では、橋状把手をもつ壺形土器や注口土器が加わっている。第72図1は、2単位の口縁部突起をもち、胴



第72図 2期の土器群



第73図 3期の土器群

部文様帯は沈線による横位連続弧線文を施されている。2～4は、口縁部が微隆起線により区分されている。5・6は、微隆起線によるU字文が施されている。7は、1と同様、沈線による横位連続弧線文が施されている。

3期（第73図）

加曽利E V式で、第33号土坑出土土器を指標とし、第3～6・8号竪穴建物跡、第14号土坑出土の一部の土器も含まれる。

本時期の土器群は称名寺I式に並行する。文様構成に変化はほとんどみられず、細分は困難である。本遺跡に該当する土器は少なく、微隆起線による文様が口縁部まで伸びあがる点の特徴である。また、微隆起線上に縄文が被る例が多く、隆帯の貼付部のナデも弱くなっている。器形は、平縁のものが多く、一部キャリパー形がみられる。断面形は内湾が強いものと、口縁部が直立しているものに分けられる。第73図2は、微隆起線による平行垂下文か玉抱文が施文されている。3は、口縁部微隆起線に沿って刺突文が施されている。4は、直立する口縁部で、微隆起線による逆U字文が施されている。

3 おわりに

以上、縄文時代の土器群について概要を述べてきた。本遺跡は、加曽利E IV式を中心とする、加曽利E III式新段階から一部加曽利E V式に及ぶ短期間に集落が営まれていたことが判明した。また、土器の様相は微隆起線で文様を施文するものが主体で、大木式の影響がほとんどみられない点の特徴といえる。茨城県から栃木県の北関東的な様相をもつと考えられる。過去の調査では周辺の遺跡で本遺跡と同じ時期のものはあまり確認されておらず、出土する土器も少量である⁷⁾。しかし、やや広く見渡すと、長らく東関東の加曽利E IV式の標識的資料としてとりあげられた、かすみがうら市の岩坪貝塚や当期の大集落である龍ヶ崎市の南三島遺跡、つくば市神谷森遺跡などが存在している⁸⁾。そのため、周辺地域を含む集落の構成についての検討などが課題であり、今後の調査成果に期待したい。

註

- 1) 柳澤清一「茨城県における加曾利E 4式編年の検討」『茨城県考古学協会誌』第7号 茨城県考古学協会 1995年8月
- 2) 加納実「加曾利EⅢ・Ⅳ式土器の系統分析－配列・編年の前提作業として－」『貝塚博物館紀要』第21号 千葉市立加曾利貝塚博物館 1994年3月
加納実「関東東部の中期最終末から後期初頭の土器群」『称名寺貝塚と称名寺式土器』横浜市歴史博物館 2016年3月
- 3) 鈴木徳雄「称名寺式土器研究の諸問題－南関東地域の資料を中心として－」『第20回縄文セミナー中期末から後期初頭の再検討』縄文セミナーの会 2007年2月
- 4) 千葉毅「関東甲信越地方における称名寺式土器と加曾利EⅤ式土器の混在の様相」『公開シンポジウム予稿集 関東甲信越地方における中期／後期変動期4.3ka イベントに関する考古学現象③』2013年4月
- 5) この時期の呼称について「続加曾利E式」や「続E4式」など研究者によって変わるため、便宜的に使用している。
石井寛「称名寺式土器の分類と変遷」『調査研究集録』第9冊 (財)横浜市ふるさと歴史財団 1992年12月
- 6) 加曾利E式の細分は、加納氏や稲村氏の分類などを参考に、EⅢ式新段階→EⅣ式→EⅤ式として解説する。
稲村晃嗣「加曾利E系列の土器群」『調査研究集録』第7冊 横浜市埋蔵文化財センター 1990年11月
- 7) 矢ノ倉正男 寺門千勝『阿見東部工業団地造成工事地内埋蔵文化財調査報告書 星合遺跡 中ノ台遺跡』茨城県教育財団文化財調査報告第137集 1997年9月
寺内久永 関絵美『根方遺跡 主要地方道竜ヶ崎阿見線バイパス建設事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅲ』茨城県教育財団文化財調査報告第345集 2011年3月
皆川貴之 盛野浩一『吉原向遺跡 牛頭座遺跡 赤太郎遺跡2 阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書Ⅳ』茨城県教育財団文化財調査報告第433集 2018年3月
- 8) 斎藤忠編「岩坪貝塚」『茨城県史料 考古資料編 先土器・縄文時代』茨城県 1979年3月
沼田文雄 人見暁朗『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書10 南三島遺跡 1・2区』茨城県教育財団調査報告書第27集 1984年8月
齊藤弘道 和田雄次『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書11 南三島遺跡 6・7区』茨城県教育財団調査報告書第30集 1985年10月
齊藤弘道『竜ヶ崎ニュータウン内埋蔵文化財調査報告書16 南三島遺跡 3・4区(1)』茨城県教育財団調査報告書第44集 1986年3月
小泉光正『一般県道土浦岩井線道路改良工事地内埋蔵文化財調査報告書 神谷森遺跡』茨城県教育財団調査報告書第66集 1987年12月

写 真 图 版



第 1 号竖穴建物跡出土土器



平成29年度調査区遠景（南方向から）



平成31年度調査区遠景（東方向から）

PL2



平成29年度調査区全景（鉛直）



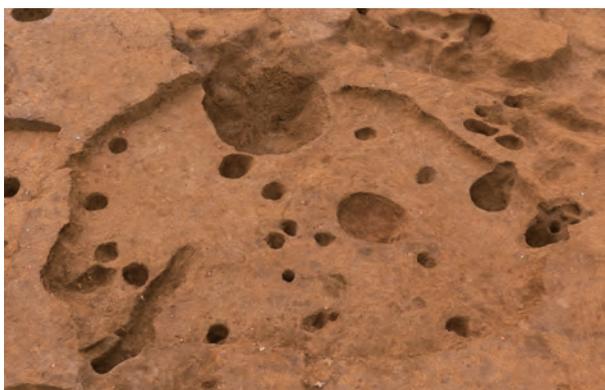
平成31年度調査区全景（北方向から）



第1号竖穴建物跡



第1号竖穴建物跡 炉



第2号竖穴建物跡



第2号竖穴建物跡 炉



第3号竖穴建物跡



第3号竖穴建物跡 炉



第4号竖穴建物跡



第4号竖穴建物跡 炉

PL4



第5号竖穴建物跡 遺物出土状況



第5号竖穴建物跡



第5号竖穴建物跡 炉



第6号竖穴建物跡



第7号竖穴建物跡



第8号竖穴建物跡 炉遺物出土状況



第8号竖穴建物跡



第8号竖穴建物跡 炉



第1号炉跡



第2号炉跡



第4号土坑 遺物出土狀況



第4号土坑



第8号土坑



第14号土坑



第25号土坑



第29号土坑

PL6



第33号土坑 遺物出土狀況



第36号土坑



第38号土坑



第39号土坑



第44号土坑



第45号土坑



第47号土坑



第49号土坑



第51号土坑



第111号土坑 遺物出土状況



第111号土坑



第1号溝跡



第3号溝跡



第1号ピット群



第6号ピット群



第8号ピット群

PL8



第3～5号竖穴建物跡出土土器



SI 5-32



SI 5-35



SI 5-46



SI 5-68



SI 8-25



SK 4-1



SK 8-6



SK33-1



SK47-1



SK51-1



SK111-1



遺構外-24



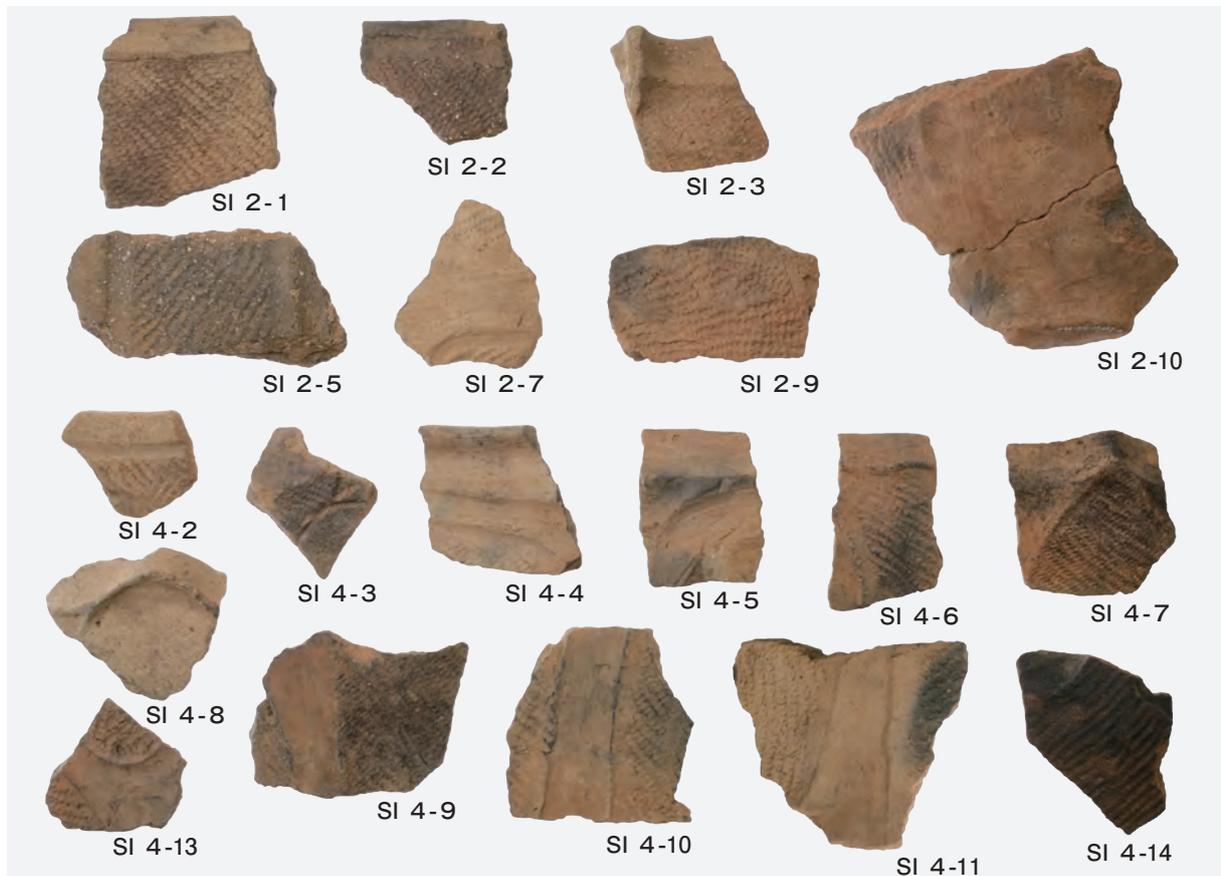
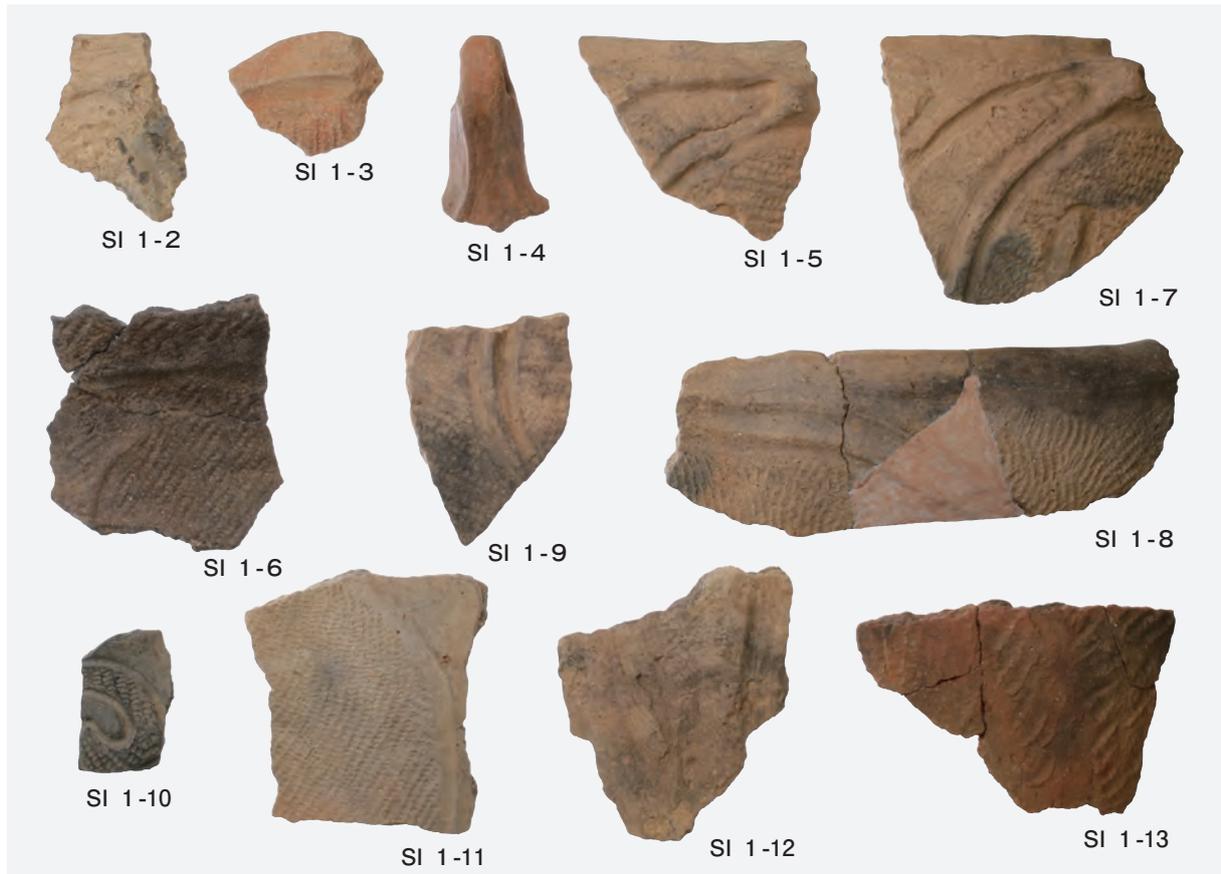
SK111-2



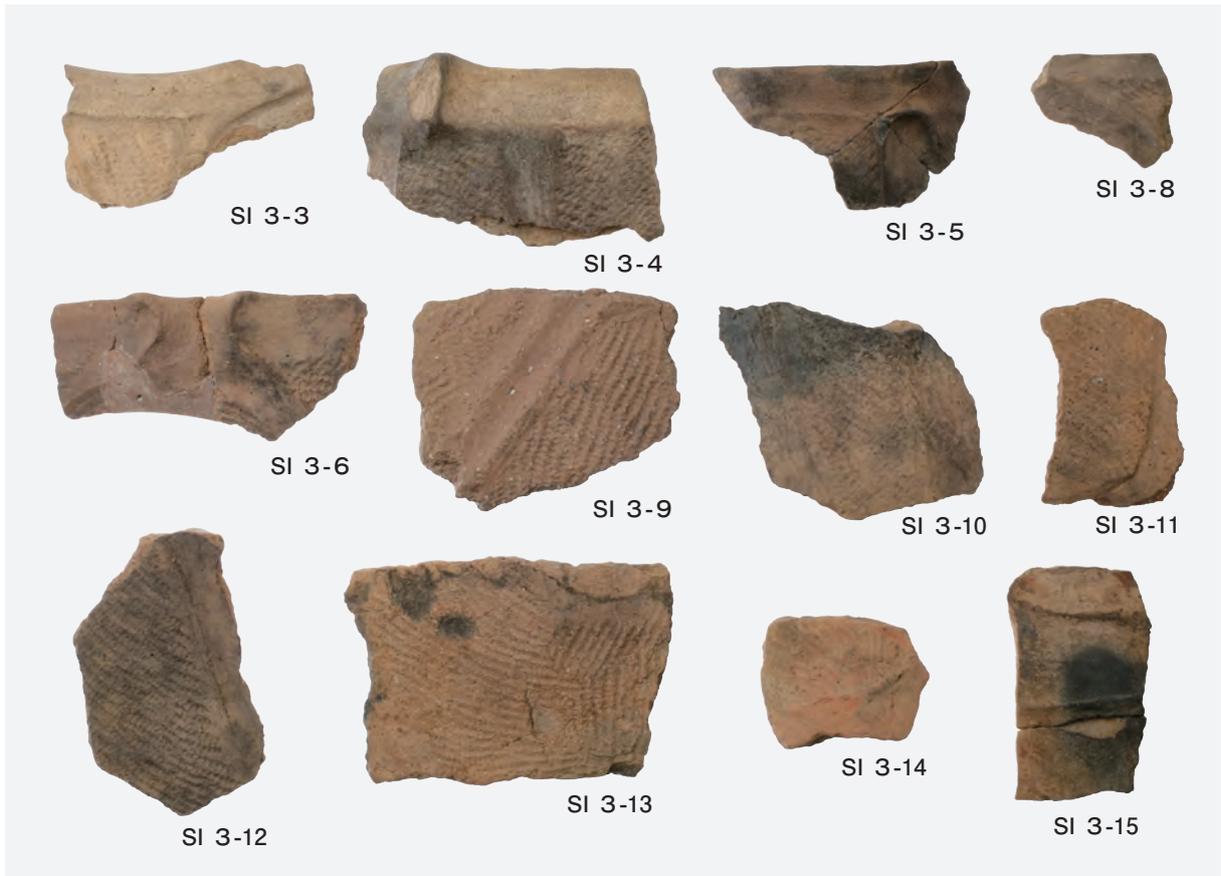
SK111-3

第5・8号竖穴建物跡，第4・8・33・47・51・111号土坑，遺構外出土土器

PL10



第1・2・4号竖穴建物跡出土土器



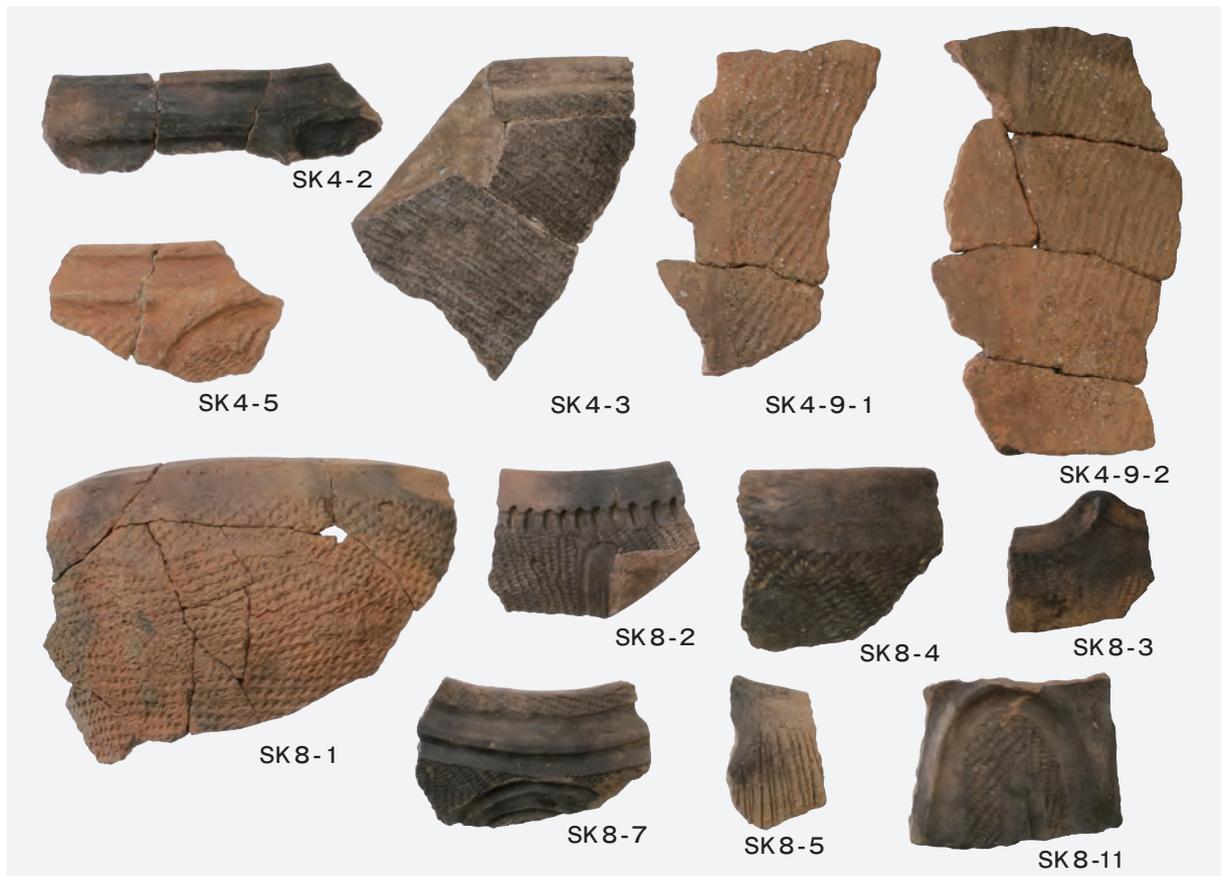
第3·5号竖穴建物迹出土土器



第5号竖穴建物跡出土土器



第5~8号竖穴建物跡出土土器



第8号竖穴建物跡，第4・8号土坑出土土器



第14·33·36·38·39·45·47号土坑出土土器



第3号炉跡，第51・111号土坑，遺構外出土土器



第5・8号豎穴建物跡，第3号炉跡，第4・8・36号土坑，第1号溝跡，遺構外出土土製品
 第3・5号豎穴建物跡，第36号土坑，遺構外出土石器



第5号竖穴建物跡，遺構外出土石器

抄 録

ふりがな	ごとうぎみなみいせき							
書名	牛頭座南遺跡							
副書名	阿見吉原土地区画整理事業地内埋蔵文化財調査報告書V							
シリーズ名	茨城県教育財団文化財調査報告第456集							
著者名	江原美奈子 倉橋裕真							
編集機関	公益財団法人茨城県教育財団							
所在地	〒310-0911 茨城県水戸市見和1丁目356番地の2 TEL 029-225-6587							
発行日	2021(令和3)年1月29日							
ふりがな 所収遺跡	ふりがな 所在地	コード	北緯	東経	標高	調査期間	調査面積	調査原因
牛頭座南遺跡	茨城県稲敷郡阿見町大字吉原字牛頭座3535-9番地ほか	08443 - 216	36度 00分 79秒	140度 22分 11秒	25m	20170701 ~ 20171031 20190401 ~ 20190531	5,559㎡ 595㎡	阿見吉原土地区画整理事業に伴う事前調査
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構		主な遺物		特記事項	
牛頭座南遺跡	集落跡	縄文	竪穴建物跡	8棟	縄文土器(深鉢・注口土器), 土製品(土器片錘・土器片円盤), 石器・石製品(石鏃・磨製石斧・打製石斧・石皿・磨石・敲石)			
	その他	時期不明	炉跡	3基				
			土坑	56基				
			土坑	37基				
			溝跡	3条				
			ピット群	17か所				
要約	本遺跡は、縄文時代中期後半から後期初頭の集落跡である。竪穴建物跡は8棟、炉跡は3基、土坑は56基確認している。調査区全体に同時期の遺構が多いことから、短期間に営まれた集落であったことが考えられる。遺物では、第1号竪穴建物跡から土器埋設炉があり、大きく3つに分割された深鉢の胴部を正面に埋設していた。							

印刷仕様

編集	OS	Microsoft Windows 10 Pro
	編集	Adobe InDesign CC 2020
	図版作成	Adobe Illustrator CC 2020
	写真調整	Adobe Photoshop CC 2020
	Scanning	EPSON DS-G20000
使用Font	OpenType	リュウミンPro L-KL, 太ゴB101 Pro Bold 中ゴシックBBB Pro Medium
写真	線数	カラー210線以上
印刷		印刷所へは、Adobe InDesign CC 2020でデータ入稿

茨城県教育財団文化財調査報告第456集

稲敷郡阿見町

牛頭座南遺跡

阿見吉原土地区画整理事業地内
埋蔵文化財調査報告書Ⅴ

令和3（2021）年 1月29日 発行

発行 公益財団法人茨城県教育財団
〒310-0911 水戸市見和1丁目356番地の2
茨城県水戸生涯学習センター分館内
TEL 029-225-6587
HP <http://www.ibaraki-maibun.org>

印刷 いばらき印刷株式会社
〒319-1112 那珂郡東海村村松字平原3115-3
TEL 029-282-0370